

# BMB2015 大会運営についての アンケート 集計結果

回答者数:1483名

### 質問1. BMB2015に参加されましたか

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	参加した	1,319	88.9%						
回答2	参加しなかった	164	11.1%						
	合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問2. ポジションについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	学部学生	25	1.7%						
回答2	大学院生	340	22.9%						
回答3	ポスドク等非常勤研究者	139	9.4%						
回答4	企業研究者	57	3.8%						
回答5	大学・研究所等の常勤研究者	870	58.7%						
回答6	その他	52	3.5%						
	合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問3. 年齢について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	19歳以下	0	0.0%						
回答2	20-24歳	177	11.9%						
回答3	25-29歳	192	12.9%						
回答4	30-34歳	149	10.0%						
回答5	35-39歳	173	11.7%						
回答6	40-44歳	203	13.7%						
回答7	45-49歳	194	13.1%						
回答8	50-54歳	169	11.4%						
回答9	55-59歳	115	7.8%						
回答10	60-64歳	64	4.3%						
回答11	65-69歳	27	1.8%						
回答12	70歳以上	13	0.9%						
回答13	回答しない	7	0.5%						
	合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4. 所属する学会について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 日本分子生物学会	1,005	67.8%						
回答2 日本生化学会	850	57.3%						
回答3 日本細胞生物学会	103	6.9%						
回答4 日本発生生物学会	52	3.5%						
回答5 日本癌学会	176	11.9%						
回答6 日本神経科学学会	81	5.5%						
回答7 日本植物生理学会	41	2.8%						
回答8 日本免疫学会	67	4.5%						
回答9 日本遺伝学会	40	2.7%						
回答10 日本生物物理学会	51	3.4%						
回答11 その他	463	31.2%						
合計	2,929							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 今回の形式・掲載内容を支持する	1,009	68.0%						
回答2 冊子版はもっと簡略化したダイジェスト版でよい	158	10.7%						
回答3 以前のA4判サイズのほうが見やすい	166	11.2%						
回答4 冊子印刷版は必要ない	131	8.8%						
回答5 特になし	79	5.3%						
回答6 その他	103	6.9%						
合計	1,646							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6. ITシステムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」は使いやすかった	873	58.9%						
回答2 基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」が使いにくかった	144	9.7%						
回答3 WEBシステムとアプリで「マイスケジュール」が同期できて便利だった	412	27.8%						
回答4 「マイスケジュール」が使いにくかった	89	6.0%						
回答5 「会場ナビ機能」が役に立った	175	11.8%						
回答6 「会場ナビ機能」は役に立たなかった	106	7.1%						
回答7 アプリについてはオフライン利用のみで十分であると思う	73	4.9%						
回答8 「SNS機能(参加者⇄発表者)」が役に立った	50	3.4%						
回答9 ITシステム全般について評価していない	57	3.8%						
回答10 特になし	309	20.8%						
回答11 その他	223	15.0%						
合計	2,511							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 WEBシステム	309	20.8%						
回答2 アプリ	523	35.3%						
回答3 両方を利用した	231	15.6%						
回答4 いずれも使用していない	402	27.1%						
回答5 その他	18	1.2%						
合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 テーマは適切である	1,000	67.4%						
回答2 テーマが偏っている	114	7.7%						
回答3 海外からのシンポジストの数は適切であった	289	19.5%						
回答4 海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	298	20.1%						
回答5 特になし	550	37.1%						
回答6 その他	36	2.4%						
合計	2,287							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問9. ワークショップについて

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	テーマ・セッション数ともに適切である	907	61.2%						
回答2	テーマ・セッション数ともによくない	84	5.7%						
回答3	特になし	373	25.2%						
回答4	その他	119	8.0%						
	合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問10. 一般演題について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	プログラム編成・日程振り分けはよかった	550	37.1%						
回答2	プログラム編成・日程振り分けに不満が残った	282	19.0%						
回答3	ポスターセッションの時間(2時間)はちょうどよい長さだ	600	40.5%						
回答4	ポスターセッションの時間はもっと長いほうがよい	222	15.0%						
回答5	ポスターセッションの時間はもっと短かくてよい	66	4.5%						
回答6	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかった	436	29.4%						
回答7	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムに不満が残った	86	5.8%						
回答8	特になし	214	14.4%						
回答9	その他	191	12.9%						
	合計	2,647							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	創薬シンポジウム	209	14.1%						
回答2	市民公開講座	118	8.0%						
回答3	日本の科学を考える「ガチ議論」	216	14.6%						
回答4	BMB2015 研究倫理フォーラム	95	6.4%						
回答5	海外若手研究者招聘企画(旅費補助)	199	13.4%						
回答6	特別企画全般について評価していない	98	6.6%						
回答7	特になし	790	53.3%						
回答8	その他	73	4.9%						
	合計	1,798							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 よかった	627	42.3%							
回答2 よくなかった	33	2.2%							
回答3 参加していない	400	27.0%							
回答4 特になし	351	23.7%							
回答5 要望・その他	72	4.9%							
合計	1,483								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 よかった	56	3.8%							
回答2 よくなかった	3	0.2%							
回答3 利用していない	1,199	80.8%							
回答4 特になし	197	13.3%							
回答5 その他	28	1.9%							
合計	1,483								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問14. 本大会の規模について

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 適当な規模である	828	55.8%							
回答2 大きすぎる	540	36.4%							
回答3 その他	115	7.8%							
合計	1,483								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

### 質問15. 本年の開催形式(合同大会)について

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 よかった	917	61.8%							
回答2 よくなかった	110	7.4%							
回答3 どちらでもない	390	26.3%							
回答4 その他	66	4.5%							
合計	1,483								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	分子生物学会と生化学会の合同開催がよい	895	60.4%						
回答2	それぞれ単独開催がよい	342	23.1%						
回答3	他学会との合同開催も検討してほしい	238	16.0%						
回答4	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか	68	4.6%						
回答5	特になし	166	11.2%						
回答6	その他	87	5.9%						
	合計	1,796							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17. 会員懇親会の開催について

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	会員懇親会は特には必要ではない	952	64.2%						
回答2	可能であれば開催してほしい	137	9.2%						
回答3	特になし	357	24.1%						
回答4	その他	37	2.5%						
	合計	1,483							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本薬学会	28
日本農芸化学会	17
日本RNA学会	9
日本ウイルス学会	9
日本糖質学会	8
日本薬理学会	7
日本化学会	6
日本人類遺伝学会	6
日本生物工学会	5
日本植物学会	4
日本蛋白質科学会	4
日本動物学会	4
日本内分泌学会	4
日本放射線影響学会	4
日本エピジェネティクス研究会	3
日本バイオインフォマティクス学会	3
日本育種学会	3
日本環境変異原学会	3
極限環境生物学会	2
脂質生化学会	2
実験動物学会	2
蛋白質科学会	2
日本RNA学会、日本神経学会	2
日本プロテオーム学会	2
日本栄養・食糧学会	2
日本寄生虫学会	2
日本血液学会	2
日本顕微鏡学会	2
日本骨代謝学会	2
日本再生医療学会	2
日本細菌学会	2
日本実験動物学会	2
日本糖質学会、日本脂質生化学会	2
日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会	2
日本薬学会、日本糖質学会	2
日本臨床免疫学会	2
農芸化学会	2
ASBMB, ASCB, SfN, 日本認知症学会、ISTAART	1
ASBMB、生命倫理学会	1
ASBMBなど海外学会員	1
Endocrine Society, GRS	1
RNA, 動物	1
RNAi研究会	1
RNA学会	1
RNA学会、細胞を作る研究会	1
The American Chemical Society, 日本化学会, 日本蛋白質科学会	1
ウイルス学会、感染症学会、熱帯医学会	1
がんの分子標的治療学会、薬理学会	1
ゲノム微生物学会、タンパク質科学会、日本農芸化学会	1
ケミカルバイオロジー学会、エピジェネティクス学会、質量分析学会、化学会	1
園芸学会	1
化学会	1
化学療法学会、感染症学会、臨床検査医学会、臨床微生物学会	1
感染症学会、細菌学会、がん転移学会	1
環境ホルモン学会 日本ペプチド学会	1
肝臓学会、消化器病学会、アメリカがん学会、臨床検査学会	1
極限環境生物学会 モデル生物丸ごと一匹学会	1
結晶学会、蛋白質科学会	1
酵母遺伝学フォーラム	1
高分子学会、ペプチド学会、ACS	1
再生医療学会	1
脂質生化学会、日本ビタミン学会	1
時間生物学会	1
時間生物学界	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
獣医学会	1
循環器内科学会 日本血液学会 日本血栓止血学会 国際血栓止血学会	1
小規模なもの	1
情報処理学会 (IPSJ), バイオインフォマティクス学会 (JSBI), 日本薬学会, 医薬品情報学会 (JASDI), 情報計算化学生物学会 (CBI)	1
植物学会	1
神経学会、神経病理学会、cell death学会	1
生体エネルギー研究会	1
生物工学会、蛋白質科学会	1
生物物理学会、蛋白質化学会	1
生理 薬理	1
蛋白質科学会、ソノケミストリー学会	1
痛風核酸代謝学会・レビー小体型認知症研究会	1
電気化学会、蛋白質科学会	1
糖尿病学会	1
糖尿病学会、糖尿病合併症学会	1
二本薬学会	1
日本CellDeath学会	1
日本DDS学会	1
日本DDS学会 The protein society	1
日本RNA学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本RNA学会、日本ウイルス学会	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本核酸医薬学会、日本薬学会	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本RNA学会、日本農芸化学会	1
日本アミノ酸学会、日本プロテオーム学会、	1
日本アミノ酸学会、日本薬学会、日本薬理学会、日本毒性学会、日本NO学会	1
日本アレルギー学会、日本血液学会	1
日本インターフェロン・サイトカイン学会	1
日本ウイルス学会、日本アイソトープ協会	1
日本ウイルス学会、日本臨床ウイルス学会	1
日本エピジェネティクス研究会、米国免疫学会、米国生化学分子生物学会	1
日本がん転移学会	1
日本がん分子標的治療学会	1
日本ゲノム微生物学会	1
日本バイオイメーjing学会、結晶成長学会	1
日本バイオイメーjing学会、日本植物学会	1
日本バイオインフォマティクス学会 情報処理学会 データベース学会	1
日本バイオインフォマティックス学会、日本癌学会、日本化学会、CBI学会、日本遺伝子診療学会	1
日本バイオマテリアル学会 日本生物工学会	1
日本ビタミン学会	1
日本ビタミン学会 日本結晶学会	1
日本プロテオーム学会 日本電気泳動学会	1
日本プロテオーム学会、日本電気泳動学会、日本薬学会、ASBMB、ACS	1
日本プロテオーム学会、病態プロテアーゼ学会	1
日本ペプチド学会、日本蛋白科学会、日本薬学会	1
日本ペプチド学会、日本薬学会、日本化学会 生体機能関連化学部会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本DDS学会、Controlled Release Society、American Chemical Society、日本膜学会、日本RNAi研究会、日本生物物理学会、日本薬学会 物理系薬学部会	1
日本ポリアミン学会	1
日本ミトコンドリア学会	1
日本遺伝学会、日本農芸化学会	1
日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会、日本癌治療学会	1
日本育種学会、日本進化学会、日本植物生理学会	1
日本育種学会、農芸化学会	1
日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会	1
日本栄養食糧学会	1
日本化学会、日本質量分析学会、脂質生化学会、Am. Soc. for Mass Spectrom.	1
日本化学会、アメリカ化学会、RNA学会	1
日本化学会、アメリカ化学会、アメリカ生物学会、ヨーロッパ光生物学会など	1
日本化学会、日本DDS学会、日本バイオマテリアル学会、日本高分子学会	1
日本化学会、日本ペプチド学会、日本ケミカルバイオロジー学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本化学会、日本質量分析学会、American Chemical Society、American Society for Mass Spectrometry、日本文化財科学会	1
日本化学会、日本蛋白質科学会	1
日本化学会、日本土壌肥料学会	1
日本化学会、日本農芸化学会、日本生物工学会、米国生化学分子生物学会、米国微生物学会	1
日本化学会、農芸化学会、ペプチド学会	1
日本解剖学会	1
日本解剖学会、日本動物学会	1
日本外科学会、日本内科学会、日本救急医学会、日本炎症再生医学会、日本運動生理学会、日本体力医学会、日本抗加齢学会など	1
日本核磁気共鳴学会	1
日本環境変異原学会、米国環境変異原ゲノミクス学会(EMGS)	1
日本癌学会、日本糖質学会	1
日本眼科学会	1
日本眼科学会、日本遺伝子診療学会、日本光医学光生物学会、眼科酸化ストレス研究会	1
日本基礎老化学会、日本研究皮膚科学会	1
日本基礎老化学会、日本抗加齢医学会、日本老年医学会	1
日本寄生虫学会、日本放射光学会、日本結晶学会、日本蛋白質科学会	1
日本寄生虫学会、熱帯医学会、ポルフィリンALA学会	1
日本結合組織学会、日本内科学会	1
日本結晶学会	1
日本結晶学会、日本薬学会	1
日本結晶学会、日本薬学会、日本蛋白質科学会	1
日本血液学会、国際実験血液学会、米国血液学会、	1
日本血液学会、日本血栓止血学会	1
日本呼吸器学会	1
日本公衆衛生学会、ACS	1
日本口腔外科学会、日本口腔科学会	1
日本抗加齢学会	1
日本骨代謝学会、日本解剖学会	1
日本骨代謝学会、日本筋学会	1
日本再生医療学会、日本農芸化学会、日本神経化学会	1
日本細菌学会、日本栄養・食糧学会	1
日本細菌学会員	1
日本蚕糸学会	1
日本脂質生化学会	1
日本脂質生化学会、日本薬学会	1
日本脂質生化学会、日本油化学会、日本糖質学会	1
日本脂質生化学研究会	1
日本時間生物学会	1
日本耳鼻咽喉科学会	1
日本質量分析学会、日本医用マススペクトル学会	1
日本実験動物学会、日本薬理学会	1
日本獣医学会、日本ウイルス学会、日本RNA学会	1
日本植物学会 日本植物形態学会	1
日本植物学会・光合成学会・日本森林学会・American Society of Plant Biologists	1
日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学会	1
日本食品科学工学会	1
日本神経化学会	1
日本神経化学会	1
日本神経化学会、Society for Neuroscience	1
日本神経化学会、日本プロテオーム学会、日本電気泳動学会、	1
日本神経化学会、日本薬理学会	1
日本神経化学会、老年精神医学会、医学教育学会	1
日本神経科学学会	1
日本神経学会	1
日本神経学会、日本自律神経学会、日本神経治療学会	1
日本神経免疫学会 日本小児神経学会	1
日本進化学会	1
日本人類遺伝学会ほか	1
日本水産学会 油化学会	1
日本睡眠学会 日本ストレス学会 日本組織細胞化学会 日本生理学会	1
日本生化学会	1
日本生物教育学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本生物工学会、ACS、NYAS	1
日本生物工学会、日本再生医療学会、化学工学会	1
日本生物物理学会	1
日本生物物理学会、日本化学会	1
日本生理学会	1
日本生理学会 日本内分泌学会 日本肥満学会 日本糖尿病学会	1
日本生理学会、日本免疫学会、日本骨代謝学会、日本微量元素学会、日本トランスポーター研究会	1
日本先天異常学会、炎症再生学会、歯科基礎医学会、解剖学会	1
日本組織適合性学会、日本DNA多型学会	1
日本組織培養学会	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本蛋白質科学会 日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会 日本薬学会	1
日本蛋白質科学会 臨床ストレス応答学会 日本生物工学会	1
日本蛋白質科学会、日本核磁気共鳴学会、日本RNA学会	1
日本蛋白質科学会、日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会、日本分光学会、日本核磁気共鳴学会	1
日本蛋白質科学会、日本薬学会、日本核磁気共鳴学会	1
日本畜産学会	1
日本畜産学会、関東畜産学会、肉用牛研究会	1
日本電気泳動学会	1
日本糖質学会 日本核磁気共鳴学会 日本バイオイメージング学会 日本質量分析学会	1
日本糖質学会、日本潰瘍学会、日本消化器病学会	1
日本糖質学会、脂質生化学会	1
日本糖質学会、日本薬学会、日本ウイルス学会	1
日本糖尿病学会、日本糖質学会、日本脂質生化学会、日本薬学会	1
日本動物学会、日本顕微鏡学会、日本原生生物学会、日本寄生虫学会	1
日本動物学会、日本水産学会	1
日本動物学会、日本生物教育学会	1
日本動物学会、日本卵子学会	1
日本毒性学会 日本研究皮膚科学会 日本蚕糸学会	1
日本内科学会 日本血液学会 日本臨床検査医学会 日本感染症学会 American Society of Hematology 日本臨床腫瘍学会	1
日本内科学会、日本リウマチ学会、日本ウイルス学会、日本AIDS学会	1
日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会	1
日本農芸化学会 等	1
日本農芸化学会 日本細菌学会	1
日本農芸化学会 日本細菌学会	1
日本農芸化学会 日本動物学会	1
日本農芸化学会、日本化学会	1
日本農芸化学会、環境バイオテクノロジー学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	1
日本農芸化学会、日本ビタミン学会、日本薬物動態学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会	1
日本農芸化学会、日本結晶学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本時間生物学会	1
日本農芸化学会、日本獣医学会	1
日本農芸化学会、日本植物細胞分子生物学会	1
日本農芸化学会、日本食品科学工学会	1
日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本バイオインフォマティクス学会	1
日本農芸化学会、日本食品免疫学会、日本プロテオーム学会、日本ミトコンドリア学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会	1
日本農芸化学会、日本生物工学会、日本菌学会、日本きのこ学会	1
日本農芸化学会、日本電気泳動学会、日本プロテオーム学会、日本蚕糸昆虫学会	1
日本農芸化学会、日本薬学会、日本神経化学会	1
日本農芸化学会、日本薬物動態学会、日本化学会	1
日本農芸化学会、日本薬物動態学会、日本薬学会	1
日本農芸化学会、放線菌学会	1
日本農芸化学会	1
日本農芸学会	1
日本発生生物学会、日本薬学会	1
日本繁殖生物学会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本泌尿器科学会、日本糖質学会	1
日本皮膚科学会	1
日本肥満学会	1
日本病態プロテアーゼ学会、臨床ストレス応答学会	1
日本病理学会	1
日本病理学会、AACR、日本臨床口腔病理学会	1
日本病理学会、日本腎臓学会	1
日本分子イメージング学会	1
日本放射線影響学会 日本光医学・光生物学会	1
日本放射線影響学会、ストレス学会	1
日本放射線影響学会、日本循環器学会、日本循環器病予防学会、日本病態プロテアーゼ学会	1
日本法医学会	1
日本法科学技術学会、日本DNA多型学会	1
日本麻酔科学会	1
日本麻酔科学会 日本集中治療学会	1
日本膜学会、日本動物学会、日本血液学会	1
日本未病システム学会 日本宇宙生物科学会	1
日本未病システム学会、日本機能性医用学会、日本キチン・キトサン学会、日本ファンクショナルフード学会、日本抗加齢医学会、日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本細菌学会、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本ビタミン学会、日本化学会、日本薬学会、日本分析化学会	1
日本薬学会 日本糖質学会	1
日本薬学会 日本臨床検査学会 日本臨床化学会	1
日本薬学会、日本エイズ学会、日本ウイルス学会	1
日本薬学会、日本セルデス学会、AAAS	1
日本薬学会、日本医療薬学会、日本薬物動態学会	1
日本薬学会、日本脂質生化学会、日本脂質栄養学会	1
日本薬学会、日本動物細胞工学会	1
日本薬学会、日本毒性学会、日本薬物動態学会、カルボニル化合物代謝の酵素学及び分子生物学国際会議	1
日本薬学会、日本薬理学会	1
日本薬学会、日本薬理学会、米国癌学会	1
日本薬剤学会、日本薬学会	1
日本薬理学会、マリンバイオテクノロジー学会	1
日本薬理学会、日本皮膚科学会、北米神経科学会	1
日本薬理学会、日本薬学会	1
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会	1
日本臨床分子形態学会、日本病態プロテアーゼ学会	1
農芸化学会、栄養食糧学会	1
農芸科学会、NO学会、酵母遺伝学会	1
微量栄養素学会	1
米国人類遺伝学会	1
放射線影響学会、産業衛生学会	1
無所属	1
薬学会	1
薬学会、ビタミン学会	1
薬理学会	1
臨床ストレス応答学会、矯正医学会	1
老年精神医学学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アプリを使用したため、冊子は使用しなかった
※	会場で配布されたダイジェスト版が便利だった。
※	会場で配布していたPocket Timetable & Mapをプログラム集冊子とともにあらかじめ送付して欲しかった。
※	持ち歩きやすく、かつwebツールとの関連付けが行いやすかった。
※	要旨を掲載するか、全要旨ののった検索可能なPDFを配布してほしい。
※	索引は使いにくかった。
※	会場に持ち込まなかった。
※	会場に用意されていた日程表と会場図が掲載されたコンパクトな冊子が持ち運びに便利で良かった。次回からは、事前に郵送してもらえると嬉しい。
※	ポスターの番号と会場のリンクが不十分で大変だった。
※	冊子は事前登録者が家で見るためには大きい方が見やすくよい。これもネットが苦手な希望者のみに有料で配布にすべき。冊子は、前から思っているが一枚ずつ切り取れる形式にしてもよい。要旨をPOLしてノート代わりにしているが直接できればよい。ポケット版が大変役立った。素晴らしい発案。
※	今回の形式でも重かったですが、掲載すべき必要最低限の情報なので、仕方ないと思います。
※	両方の学会から1冊ずつ送付されてきて大変無駄だと思いました。
※	冊子の最後にメモが記入できる様な白紙のページが欲しい。
※	やはり数年後に要旨を見たい時は、保管されている印刷版になる。要旨集として、10年ぐらい閲覧が可能なWebサービスがあれば、紙版は要らなくなると思うが、現状では必要。
※	部厚くて鞆への収納に困った。
※	スマホ・タブレットを持っていない人も多いため、冊子体の内容を一括してpdfでダウンロードできるようにして欲しい。
※	紙が薄いため、ページが繰りにくかった。ページが小さいので、著者の索引を探すのに、時間が掛かってしまった。
※	当日ダイジェスト版が配られていたのはよかった。
※	軽量化するなら、サイズは以前と同じで薄い(ページが少ない)ほうがいい。
※	関心のある演題についてのみ抄録をダウンロードして個人ごとに抄録集を編集して学会場にパソコンなどで持ち込めるようにしていただくと理想的であると思います。
※	会場においてあった薄いプログラムガイドも郵送してほしい。会場ではこれとアプリで十分。冊子は保存用にするのでA4がよい。
※	プログラムと会場案内のみの小冊子もとても見やすく良かった。
※	冊子が分厚くて持ち運びに不便(かばんの中でA4サイズよりもスペースをとる)
※	A4で薄い冊子のほうがビジネスバックに入れやすい
※	A5サイズはとても良かった。内容も十分だった。残念ながら重かった。紙の材質をもっと軽いものにしてほしい。
※	B5判で厚さが薄めのものが持ち運びしやすい。
※	冊子が分厚くなるより薄い方が良いのでA4判サイズが使いやすい。
※	毎年サイズが変わるのは困ります。
※	ちいさく分厚いよりも、大きく薄い方が持ち運びやすい。どうせA4程度の書類がはいる鞆を持ち歩くのだから、小さくすることに利便性を感じませんでした。
※	日にち別の方が見やすいと思います。
※	lateエントリーの内容が記載されておらず、ほとんど誰も来なかったそうなので、lateエントリーの意味が全く無かった。プログラム集冊子に記載できないなら、lateエントリーは廃止すべきである。
※	A4サイズで厚みを少なくして下さい。
※	冊子を印刷しないかわりに、Web公開を早めてほしい。
※	キーワードの索引があったほうが良い
※	プログラム集ではタイトルが日本語で、ポスターのタイトルが英語だった場合、発表番号をうろ覚えだとidentifyできなかった。できれば、プログラム集かポスターか、どちらかを日本語・英語併記してほしい。
※	希望者のみ配布で良いと思います。
※	久しぶりの参加のせいもあったかと思いますが、セッションの区分けの読み取りが、少し見づらい気がした。
※	シンポジウムとワークショップの演題だけ、要旨を掲載してくれると良い。
※	会場で簡易版が配布されたのが良かった。
※	A5版にしたことで、厚みが増した。それならば、A4のまま、厚さを薄くしてほしい。
※	冊子は不要だが、事前にプログラム&アプリがネット経由で入手できる必要がある。参加登録しないと入手できないのは明らかに片手落ち。せめて学会員はアクセスできるべき。
※	冊子版は学会発表記録資料として必要なので支持します。事前配布版→A4 当日配布版(ダイジェスト軽年版)→A5 だとうれしいです。小さいものが見えないので、事前配布版はとも読みづらかったです。A4でもっと大きい字にもらえるとうれしいです。会場でA5のダイジェスト版が無料で置かれていたのを見て、ダイジェスト版が当日配布されることを予めご案内いただき良かったです。当日重い冊子版を会場に持っていらずに済んだので。
※	ちょっと分厚かったのも、同じ文字サイズのままA4版にしてページ数を減らした方がいかもしれません。
※	冊子体は持ち運びしやすく良かった。会場で配布されていたタイムテーブル表は字が小さすぎて見づらい。
※	「1T25」のような番号と会場が若干わかりにくいと感じました。携帯用mapは非常に役立ちました。
※	メモ用紙のページもほしい。
※	web版がいつかクローズになる以上、発表した履歴を残すため冊子の存続を望みます。
※	アプリがある場合には不要。
※	ポスターの部分は冊子に無くても良い、そもそも冊子は研究室に置いたままでした
※	企画ごと(シンポジウム、口頭etc)ではなく、日付ごとにまとめていただけると、切り離して持ち歩けるので便利な、と思いました。
※	アプリ版もあるといい。当日興味をもって聞きに行く場合もあるので。

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	学会会場で配布されていたという噂の最大ミニサイズを先に全員に配布して欲しかったです。私は知りませんでした。
※	今版は分厚いので、A4で薄いものが良い。
※	会場に置かれていた、会場案内とスケジュールの書いてある簡易版冊子もとても役に立ちました。
※	持ち運びが便利で、非常によかった。
※	冊子印刷物は必要無い。さらに、数年前からの分子生物学会大会の冊子については、およそ学術的な話をする場にふさわしく無いと感じる。あまりにも若い世代(学部・大学院生)に媚びる(意識した)冊子には非常に違和感と嫌悪感を感じる。我々はデザイナーを育てるわけではない、科学者を育てているのです。若い世代に媚びる必要があるほど研究者を志す人が少ないとは決して思いません。
※	形態も問題ないとおもいます。
※	プログラム集冊子が届かなかった
※	演題名を所属およびキーワードで調べられるようにしてほしい
※	今の形式もとても良いと思います。会場にA5のさらに半分のサイズの簡易版があったのがとても良かったです。今後お願いします!
※	A5判化によりとても厚くなった結果、鞆に収まりにくくなり、持ち運びに不便であった。
※	1日ごとにまとめて分冊として持てるように分けられるとうれしい。
※	プログラム集冊子は開封しませんでした。現地へ行ったらWiFiが使えなかったため自分の発表場所すらわからず、受付にあったリーフレットを重用しました。
※	冊子体の索引部分は印字が薄く読みにくかった
※	メモページが欲しい
※	A4版に戻して薄くしてほしい
※	サイズはA5版で良い。口頭発表とポスター発表を2冊に分けた方がいい。ポスターのプログラム冊子は有料で希望者のみでもいい。
※	WEBシステム・アプリのみで十分対応できたので、冊子版は希望者のみ配布でもいいと思います。
※	会場で配布していただいたミニ版が非常に役に立ちました。あれを事前に同時発送していただけると助かります。あと、アプリは非常によかったです。
※	一日毎のプログラム集があれば少し荷物が減るから助かります。例えば1日目には、2日目以降のプログラム集は必要ないので軽量化できると思います。
※	キーワード検索ができると良かったです。
※	A5という大きさはいいが、ポスター発表の抽象的も含めばもっといいと思う
※	冊子の大きさ、形式は今回のままでよいと思うが、著者索引のページがアルファベット(英語)表記のため返って使いにくかった。たとえば「大谷」という名前の場合、「Ohtani」なのか「Otani」あるいは「Ootani」なのかによって掲載位置が変わるので非常に検索しにくい。
※	無料で置かれていた、会場案内用の小冊子が役に立った。これとスマホアプリだけで間に合った。
※	日程だけが書かれた小さな紙一枚を印刷版としていただければ十分だと思います。冊子版はまったく読みません。
※	字が小さくて読みづらかった。
※	A4サイズよりも圧倒的に持ち運びが楽なので、今回のサイズは良かったです。
※	持ち運びなど取り扱い易い冊子サイズで良かった。文字サイズも適切だった。
※	ここにかくのでいいのかわかりませんが…大筋では満足です。ただ、会場地図をもう少し詳しく書いてほしかったです。
※	索引も不要かもしれません。
※	厚みがあって鞆に入れにくいです。
※	late-breakingの人がわからなかったので、別冊子でもいいからあると助かった。
※	冊子版のページ数は携行には重すぎる現行の10%程度で良い。
※	A4よりもコンパクトで持ち運びしやすくして良いと思います。
※	プログラム検索の際に、私はホームページかアプリを用いていたため、プログラム冊子集は利用しませんでした。そのため私は必要ないと思います。一方で講演の内容をプログラムに書くことでメモされていた方も多くいらっしゃいました。したがって、可能であれば、希望者のみプログラムを配る形式の方がいいのではないかと思います。
※	薄いほうがいい
※	特に冊子体は必要でないと思うが、オンラインシステムがいずれ閉じてしまって学会での発表がなかったかのようにされる現在、冊子体を保存して今回の学会の記録とするしかないと思われる。
※	日程表、シンポジウム・ワークショップの演題、ポスター発表のカテゴリのみ印刷された薄めの冊子があれば良い
※	目次にはレイトブレイキングも含めるように。プログラムの数字は順序とおりだが、アルファベットでは、PL, S, W, T, Pの順で、PLは別格としても、シンポジウムはワークショップより上位、次は口頭発表、ポスターは最低の価値しかないような印象を与える。余計な思惑を排して発表価値に軽重をつけないよう、単純にアルファベット順にすべき、と毎回思う。その方がプログラムも探しやすい。
※	A5だと厚みがでてくるので鞆に入れた際にかさ張る。A4サイズでいいので、その分厚みを減らして欲しい。
※	在米研究中
※	現地においてあったダイジェスト版を元々入れるか、切り離し版などいれてあれば尚よかった
※	冊子体がないと、過去の発表がわからないので、是非残してください。
※	演者だけでなく、キーワードでもインデックスを作ってほしい。印刷版は、やっぱり欲しい。
※	・冊子版は、持ち歩くには重たいと判断して、持っていきませんでした。・会場で配布していた小さい冊子がとても便利でした。・会場で配布していた小さい冊子をプログラムと一緒に送っていただくとか、あるいは小さい冊子で配っていた内容の部分だけプログラムから取り外し可能な形になっていたら、効率よく会場を回れたと思います
※	会場にあったダイジェスト版も便利だった
※	タイムテーブルのみ、もっと大きい印字のものが欲しい。(A4版綴じ込み、別紙など)

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	紙ベースの情報源は何かしら必要。学会の規模が大きすぎるために冊子が肥大化することが問題。どうせ使い捨てなのだから装丁がカラーのツルツルである必要性を全く感じない。造りは安くてよいから、日単位で分割するなど持運びおよび閲覧の便を重視されてはどうか。
※	今回の形式・掲載内容を維持し、A4版で今回の半分の「薄さ」にすることはできないか？
※	過去の大会のプログラムについて、期限を決めずに(会員限定で)閲覧可能にしてもらえると嬉しいです。最近、履歴書などに「ポスター番号も記載すること」と求められるものがたまにあります。冊子版のプログラムはいずれ廃棄されます。オンラインでいつでも検索できる(もしくは検索できなくてもPDF化したプログラムだけは残っている)状態は、とてもありがたいです。
※	電子媒体で見られるのが充実していれば、冊子の品質が悪くても構わない。一方、過去の記録を閲覧に苦勞するので冊子がないと困ることがたまにある。
※	学会数そのものを減らし、学会を集約してほしい。
※	冊子の大きさは任せるが、細かい字が見つらいので、大きな字にしてくれると助かる

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	アプリは使いやすくて良かったのですが、動作が遅かったのが残念です。
※	発表者検索から発表者の情報が出てくるのはよいが、そのページからマイスケジュールに登録出来なかったりなど、些細なところで不便が生じた
※	発表に対する「いいね」が面白かったです。
※	プログラム検索の動作が遅かった。
※	一部の会場のネットワーク環境が不安定なことが大変不便だった。
※	いいね機能は不要では？
※	選択したものがまとめてダウンロードできるのがよかった。
※	会場ナビ機能に気が付いたのが会期の後半から、たまたま迷い込んで使った時からで、使える時は便利なのですが、どうやってそこに入ったのか分からず、結局使い切らないまま終わってしまいました。ホテルの地下の会場が大きく2つに分かれていて、どの番号で切れるのかが分からず、会場が分からなくなったことがありました。
※	プログラム(全体のスケジュール)が見にくかった。
※	Key word 検索が必要
※	マイスケジュールは、良い機能でしたが、登録数が増えるとアプリが重くなってしまい、表示がスムーズでなくなりました。この点が改善されると良いと思います。
※	スケジュールしている人の多いものだけをフィルタリングできるとありがたい。
※	アプリが全般的に使いづらすぎて冊子を使ったほうが早かった。
※	マイスケジュールからその日の要旨をPDF化できるのがよかった。ただ会場にもWifiを飛ばして欲しかった。
※	自分のタブレットではアプリが起動できなかった(Android)
※	使っていない
※	発表者、演者検索した演題をマイスケジュールにいれられなかったので使いにくいところもあった。
※	モバイルを持っていないので使用しなかった
※	一日のプログラム全体が閲覧できるようにして欲しい(あったが見つからなかっただけなのか?)
※	メニューをタップしてからの反応がもう少し早いと使いやすい。iOS8.1のiPad2の使用であるがタップしてから次の画面に移るまで5から10秒くらいずつかかる。各発表者の抄録画面に行くとキーワードと抄録が載っていて分かりやすいが、ここに著者と所属も載せてほしい。研究内容は著者および所属研究室と紐づけて把握するので、面白かった発表は、戻るボタンで戻って著者を確認していたが、抄録内にあった方が便利であった。
※	4日目にアクセスポイントがなかったのが、非常に不便であった。(ワークショップ等を含む)口頭発表会場にもアクセスポイントを設置しないと、軽量化?に繋がらない。
※	検索機能を強化してほしい
※	アプリのマイスケジュールで登録した演題から会場の場所のリンクがなく、会場の場所を探すのが不便だった。マイスケジュールで登録した演題からそのセッション全体へのリンクがなく、前後の演題をすくなくともたどれず不便だった
※	WEBとアプリでメモの連携ができるようにしてほしい。
※	検索で引っかかった演題から、その演題が含まれるセッション全体を見たいときなど、少し不便だった。また座長やコーディネーターが判らない。
※	昭和の人間ですし、スマホも持ってないので、余り使わなかった。
※	ダウンロードしましたが、結局、使用しませんでした。冊子版のプログラム集が無ければ活用したと思います。
※	アプリの動作が重く、もう少し軽く動作して欲しいと感じる点が複数あった。
※	出演者検索で、直接マイスケジュールに登録できなかったのが、できるようにして欲しい。
※	不満とは言えないが、さらなる最適化を求める。特にスマホとタブレット両方からログインができなかったようである。同一IDからのログインの規制については、もう少し拡大適用を求める。
※	「スケジュール」数、「いいね！」数を演題ごとに表示する理由をお聞かせいただきたいです。人気がある演題を講演した方は優越感に浸れたかも知れませんが、人気のない演題を講演された方はどのような思いでいらしたのか、想像したことがありますか?「スケジュール」数や「いいね！」数を表示することは、「人気がある演題＝良い仕事」、「人気のない演題＝それほどでもない仕事」、といった具合に(特に若い人に)先入観を植え付けるだけのように思います。是非、やめていただきたいです。
※	OSが古かったので、アプリケーションが使えなかった。会場でネットワークが切れて、PCでも要旨が見られなかった。
※	アプリで個々の演題名や要旨が見れるのは良かったが、座長名を確認しにくかった
※	キーワード検索の機能があればもっとよいと思った。
※	興味のあるシンポジウムやWSに関してセッションの演題要旨を学会当日までにPCからプリントして持参している。そのためには、各演題要旨ごとの打ち出しだけでなく、当該セッションの演題要旨を一まとめで打ち出すことのできる機能があるとよい。もしくは、一つのセッションの全ての演題要旨を一つのPDFにしたものが掲示されていればそれでもよい。
※	PDF版のプログラム集がシンポジウム、ワークショップ等の各セッションごとに分かれていて、使いづらかった。一つのファイルにしたファイルも作成してほしい。スマートフォンでのアプリがあるなら、オフラインのパソコンでも使える様なソフトがほしい。
※	最初にオンラインで登録?か何かをしないと使えないのが不便でした。用意してから行けば良かったのですが、今回はwifiも少なかつたので最初の日はあまり利用できませんでした。
※	学会員で会費を納入している者であれば、ITシステムの利用はフルに可能であるべきと考えます。今回、各種機能の利用を事前登録者のみに限られた理由と目的は何でしょう? 日程調整して当日参加となった者にも、会場到着前までの「マイスケジュール」等利用には役立つものがあると思います。
※	参加者検索を行った際、発表者は検索できたが共同演者に関しては該当者なし!!と表示され、検索できなかった。
※	Late-breaking だったせいか、一部のポスターに関して、タイトルや著者をキーワードで検索しても検索できず、ポスター番号でのみ可能でした。
※	いつまでアプリが使えるのか疑問 オフライン時に検索等が使えず大変不便 メモ機能は評価できる
※	基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」は、全く使えなかった。
※	マイスケジュールからタイムテーブルの図を作成できると便利だと思った

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	WEBシステムではダウンロードできなくて使いにくかった。
※	終了したスケジュールはマイスケジュールから自動的に削除される仕様であれば、次のスケジュールが分かり易く、より使いやすかったように思います。
※	アプリに比べて、webシステムが貧弱(オフラインで見られない)
※	大会後すぐに要旨閲覧システムを閉じるのではなく、数年は維持してもらえると助かります。
※	良かったが、tabletでは動きが重く使い勝手はよくなかった。
※	ITシステムについての意欲的な取り組みは強化できますが、費用の面(もっとスリムにして安価にできるのではないか、その分を会場運営などに回せるのではないか)も含めて改善の余地があると思われました。
※	アプリについては、最新データにアップデートするたびに、強制終了される不具合が結局改善されないままであった(Android)
※	PDF表示にしないと発表者が表示されなかったり、要旨表示からセッション内容へリンクができていなかったりといったところが不便でした。「いいね」ボタンは氏名非表示でいいのでは。
※	要旨の画面で、メモ機能が使いにくい。同一画面で二分割してほしい。メモは後で外部に保存できるようにしてほしい。同一セッションの要旨はスワイプで移動したい。
※	日付+キーワードの複数選択が出来るといい
※	マイスケジュールはカレンダー形式で見られたらより良かったです
※	サーバがLS予約の時点で対応が遅かった。
※	もし冊子のプログラムを廃止するのなら、電子版はオフラインで使える物にしてもらわないと困る。特に会場のWiFiが限られていた今回のような状況では。
※	マイスケジュールが、タイムテーブル上でセッションとしてだけ表示されるのは残念。時間帯で出ないとスケジュール管理に不便(大きな学会ではセッション間で移動したいので)。
※	検索キーワードに演題内のキーワードを入れているのに、なぜかヒットしない演題があったので、改善して頂けると幸いです。
※	会期前も、会期中も使いませんでした。次回もし参照したい場合は、PCからアクセスします。
※	要旨を確認後、元画面に戻ると、そのセッションの最初に戻ってしまうのは非常に不便。確認した要旨のタイトル画面に戻るよう改善を望みます。
※	マイスケジュールに登録した発表のプログラムと要旨をPDF化できる機能が便利だった
※	システム利用を前提とした学会にするなら、会場内すべての場所でWiFi接続を確保していただきたいです。今回はポートピアホテル地階など接続できない場所が多くて困りました。
※	現在進行中の講演が便利でした
※	iOS6.0で使えると聞いていたが、iPod TouchのiOS6.0では立ち上げられず使えなかった。
※	同期していないと、スケジュールに登録している数が0になるのが扱いにくかったです。
※	会場が分散しており、小さな会場ではWiFiが接続できず、スケジュールの確認ができなかった。
※	ITシステムは利用しなかった
※	マイスケジュールに登録した演題から、前後の演題に飛べないのが不満
※	リンクの設定が不十分で使い勝手は悪かった。例えばあるセッションの発表をマイスケジュールに選んだ後にそのセッションの他の発表を見ようとするとセッション別の項目にもどる必要があった。他の学会でのアプリはもう少し便利であった。
※	自分の発表関連の要旨等をPDFで保管できるのは非常に良いと思います。
※	問題は無いのだが、一言述べるとすれば、アプリの項目がとても多く、目的の項目を探すのにやや手間がかかること。この手のアプリは統一的なフォーマットを作ったら年度ごとにあれこれあまり変えず、多少の追加削減のみで対応することも検討して良いのでは?と思う。
※	スマホ等所持していない
※	マイスケジュールは、その日の予定が上からずらっとならぶだけなので、ポスターと他を分けるや、セッションごとに並べて表示する等見やすくするために改善が必要だと思った。アプリの不調の改善とアナウンスが早いのは好印象だった。
※	WiFiを使える場所が限定されすぎていた。
※	アップデートの意味がよくわからず、アプリを起動するときに更新されるのが鬱陶しかった
※	スマホを持っていない。
※	各講演ごとのメモ欄に、スタイラスで手書きの図やメモなども記入できるようになると便利
※	マイスケジュールをタイムテーブルのような図で示せると良かったと思う
※	IT音痴なので、ほとんど使わなかった。学生たちにはとても評判が良かった。
※	凄く便利でしたが、神戸はネット環境があまり良くない印象で、その点は改善の余地があるような気がします。
※	アプリが急に終了してしまうことが多かった。
※	特定の発表を閲覧した際に、そのセッション全体に戻れるような機能がほしかった。
※	使っていない
※	前回のようプログラムPDFを自分で検索したほうが楽だった。
※	Androidアプリの応答が遅いように感じました。
※	共著者名でプログラム検索ができなかったのが不満
※	アプリで要旨閲覧がオフラインでできなかったため、WEBの使えない会場では要旨閲覧できず困った。要旨も含めてダウンロードできると良かった。
※	参加していないので分かりません。
※	ITシステムは、ここ数年で最高の出来であった。
※	アプリの検索が使いづらかったです。姓名検索で姓と名の間にスペースなしだと検索できなかったような気がしたのですが。
※	検索して出てきた発表を一括でスケジュールに登録するボタンが必要。
※	非常に良かった。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	「夜ゼミ」が無くなっていたのが残念だった。異分野の研究者と交流する良い機会だと思うので復活してほしい。
※	マイスケジュールを時系列配列にし、会場ナビ機能と合わせてもらえると、移動がしやすい。イメージとしては、乗り換え検索アプリのイメージ。歩く速度の設定、希望演題を選択すると、いくつかの可能なスケジュールが会場とともに表示される。必要に応じて、会場地図で順路を表示させる。
※	キーワード検索があまりうまく機能していなかったという印象を持った
※	会場のWiFiに費用がかかりすぎる。会場を少し出るとすぐ使えないと聞く。それならば、最初から利用できるエリアを制限し、予算は他に使う方がよい。
※	使っていない。
※	使用せず
※	演題検索システムを使うとフリーズしてしまった
※	検索機能があまり機能していないのが残念だった。具体的には所属名で検索しても出てこなかったり、氏名の間にスペースが必要だったりすること。
※	マイスケジュールのページから発表者のページに飛んだ時も、要旨を見ることが出来るようにしてほしい。
※	アンドロイドのスマートフォンにアプリをインストールしましたが、アプリが強制終了する不具合がたびたびありました。
※	いいねとか参加者発表者のメールはいらない。口で質問したり、行ってその研究者と話し合うのが学会だし、教育的であると思う。
※	マイスケジュールがセッション単位で抄録を読む機能がほしい。つまりマイスケジュールに登録した発表の前後にどのような発表があるのか、いったん最初のプログラムまで戻らないと見れない。また共同演者での検索機能がほしい。
※	・検索結果からマイスケジュールに登録できないので不便だった。・アプリからでも、発表者への注意事項を見ることができると便利だった。確認するためにわざわざホームページを開かなければならないので不便だった。
※	Wi-Fiのエリアがポスター会場近辺だけだったと思うのですが、おかげでワークショップ会場などでプログラムが確認できず今まで参加した分生の中で最高に苛立ちました。
※	操作が遅かった。
※	昨年の生化学会のアプリよりも使いやすかったです。特に会場ナビ機能は重宝させていただきました。発表者で検索した結果表示された演題がマイスケジュールに登録できず不便でしたので、改善願います(nexus 7タブレット)。
※	会場ナビは便利でしたが、神戸では会場が分散されているので各会場の建物そのものの位置が掲載されている地図もあればもっと便利だったと思います。商工会議所〇〇室と書いてあってもその建物自体の場所がアプリの地図ではわからなかった。SNS機能は見たところほとんど使われていないのではないかと思います。評議員の先生方などに先陣を切って積極的にコメントを書き込んでいただくようにしたら一般の参加者の利用も促進されるかもしれません。
※	使用していない。面倒なので。学会終了後に気になったところを後で見返す予定。
※	会場ナビ機能がいきなり特定の部屋を示されてもいったいどの建物なのか分からなくて困った。基本機能である「プログラム検索・要旨閲覧」をもっと検索しやすくclickで横断的に見られるようにしてほしい。関連演題を教えてくれる機能が欲しい
※	カテゴリ、プログラム、日程を組み合わせて表示できるとよかった(いちいち条件を入れて検索するのは大変、プログラム集冊子のようにプログラムでわかれている、その中でさらに日程やカテゴリでページが分かれていると調べやすい)
※	よくわからないので、使っていない。
※	会期中アプリを使用時に、例えばマイスケジュールで次に聞きに行く予定の発表を確認した後、その会場の場所を確認したい時に、リンク機能が付いていると便利だったと思います。学会のFree Wi-Fiを使用できる場所を、ポスター会場だけでなく、講演会場の施設の一角にも設けてほしかった。
※	まとめて全体がダウンロードできる形式を要望します。
※	基本的には使いやすかったものの、一部使いにくさを感じた。例えば、人を検索し、そのリストを表示させた後、そこから要旨を表示できないなど。
※	会場ナビ機能など知らないものがある。便利な機能と期待して取り入れた機能について、もっと事前アピールしても良いのでは？(アプリを立ち上げた際にお知らせとして目立たせるなど)
※	ややこしいように思われたのでITシステムを使いませんでした。
※	使っていないのでわかりません
※	プログラム検索と発表者検索が別なのは使いにくかった。
※	発表者を検索したあと、そこで要旨も見られるようにしてほしい。会場ナビに現在位置を反映させて欲しい。
※	「SNS機能(参加者⇄発表者)」は使われているのだろうか？
※	ネットの繋がりが悪く使いませんでした。
※	アプリ上で要旨が見れる方が良かった。
※	使用しなかった
※	データが名寄せされておらず、所属機関などの名前が多数登録されており、大変不便でした。それも含めて検索機能が充実しておらず、大変残念でした。
※	会場がうまく動かないことがあった
※	おこなった限りでは、キーワードで検索した後に、日程別・カテゴリ別・プログラム別で同時に絞り込む機能がなかったように思う。メジャーなキーワードだと多くの項目がヒットするため、日時かつ口頭orポスターのような検索ができれば、より使いやすくなると思う。
※	iOS、アンドロイド以外にウィンドウズ用アプリを用意してほしい。持っているタブレットがウィンドウズなので。
※	使っていないのでわからない。
※	スマートフォンが不調でITシステムは利用できなかった。
※	web版は良かったと思います。アプリ側ではスマホでの使用を想定していると思いますが、動作が重い印象でした。表示する項目を減らす、または選ぶことでもっとサクサク動くと思います。
※	人名で検索した際に演題に移動できないなど、リンクの不備があって少し使いにくかったです。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	どういふ目線で見ると想定しているのか、わかりにくい、なんとなく中途半端な作りになっていると思う。SNS機能は、idealは面白いと思うが、使った人っているんでしょうか？ 検索後の表示も、できればGoogleの結果のように、スニペットをつけて欲しい。でないと、本当に検索したいものと、間違っ引っかけってしまったものを事前に判断できないので、いちいち一つ一つ開いていくのでは、非効率すぎる。
※	アプリのレスポンスが全体的に遅い
※	講演会場内でインターネットへの接続環境がなかったため、とても使いにくかった。講演会場内でのネットへのアクセス環境が準備できないのであれば、オフラインの機能を充実させて欲しい。
※	数年前にiPhoneを大会表紙にした分子生物学会にないほど、アプリは非常に使いやすかった。アメリカ神経科学会などのアプリを参考にし、よりよいアプリの開発につなげて頂きたい。
※	検索した結果をマイスケジュールに追加できるようにしてほしい。マイスケジュールは時系列で並ぶようにしてほしい。
※	ランチョンセミナー予約画面でバグがあるようだった。予約自体はできた。
※	更新回数が多く使用しにくかった。学会では興味のある演題抄録のみ印刷して参加した。
※	要旨登録時の制限が多すぎる。名前の漢字が非対応だと、登録情報から修正しないとイケないなど、設定が悪すぎる。
※	The app was very easy to use and intuitive
※	参加予定人数や「いいね」の人数がわかるのが良かったです。時々、情報が読み込めないことがあり、アプリを再起動する必要がありました。
※	若干の慣れが必要だが、非常につかやすかった。ただ、メモ機能は中途半端で、要旨を読みながら書けなかったので使えなかった。要旨に直接書き込めたり、マーカーを入れたりすることが出来れば良かった。
※	マイスケジュールが、タイムテーブル方式で表示されると見やすかったと思う
※	スケジュールのタイムテーブル画面に戻るたびに左端に戻るのが不便でした。
※	Androidアプリの機能は良いが動作が重い。前の画面に戻ったときにスクロール位置がリセットされるのが不便。
※	自分の関連発表にすぐに辿り着けるのが良かった
※	使いづらかったが試みとしては面白かったし今後も続けて欲しい。
※	参加者検索が、全ての参加者を網羅しているわけではないので、あまり意味がないかと思った。
※	マイスケジュールがカレンダー表記だと、同一時間体の複数の講演がわかるので使いやすいと思います。
※	使いませんでした。
※	アプリ自体が同期の影響か、動作が重く感じた。マイスケジュールについては、現在時刻以前のものがいつも表示される為、次のスケジュール表示にいつもスクロールの必要があり使いづらい。
※	あまり使ってないです。SNS機能、今年もあったと知りました。
※	会場内がfree-wifiではなかったためオンライン利用はほとんどできなかった。タイムスケジュール閲覧中にクローズしてしまうバグ？が頻繁に起きた。
※	ほとんど使いこなしていません。いくつかの要旨をダウンロードしたのみです。
※	使用しなかった(冊子のみ参照して、内容は会場で見た)
※	今回たまたまアプリの利用をしなかったのですが、座長席に、印刷したプログラム、要旨または、ネット環境がある必要を感じた。WEBシステムで対応しようとしたが、ネット環境が無く、アプリが利用できない場合、非常に困った。
※	アプリをインストールする際、スマートフォンのSNSや電話帳、アドレス帳等の個人情報を要求していたが、その機能は私には不要である。自動的に結びつけられることに不安もあり、使いたくない。結びつけるかどうかは個人に選択させてほしい。アプリのOS条件が新しいものだけに限られ、古いスマートフォンやタブレットが使用できなかった。お金がないので、学会の規定に合わせたIT機器を揃える事はできない。会場のwifi環境が悪すぎる。アプリが勝手に更新され、再起動しないと動けなくなり、不便。抄録の確認が演題ごとにはできず不便。セッションごとにもできるようにしてほしい。
※	大会に不参加につき、閲覧・利用せず。
※	検索が遅いと感じた
※	検索した演題をマイスケジュールに登録できればなおよかった。
※	会場でWi-Fiが機能しない時間が多かった。
※	専用のカレンダー管理アプリがあると、iOSのカレンダー内の予定と重複して見にくくならず済むのではないかと思った。
※	アプリのマイスケジュールが非常に重くなってしまっておりイライラした。
※	アプリダウンロードが面倒で、結局使わなかった
※	全ての会場でWiFiが使えただけでは無いので、G3/G4接続をしないデバイス(タブレット)を持っていた人間にとっては、必ずしも同期などの機能が使いやすいは無かった。
※	ページの切替動作が遅かったので、動作等の改善を希望します。また、マイスケジュールに登録した発表をまとめたPDF作成機能はすばらしいと思います。
※	スマホを持っていないので最初から使うことは考えなかった。
※	Wi-Fiの使用できる範囲を広げてほしい
※	自分の発表をスケジュールに組み込んでくれる方々の人数がわかるシステムがとても気に入っています。モチベーションが上がります。
※	検索機能が使いにくい。
※	同期に時間がかかりすぎる
※	Wifiが全ての会場で使えない、使っても強度が弱く、折角のITサービスが、十分に生かしていなかった
※	年々アプリの使い勝手が高まっており、ありがたいです。オフラインでも要旨が読めたのが便利でした。来年もぜひ、この方向でお願いします。
※	要旨閲覧からプログラム一覧に戻ると、セッションの先頭からの表示になってしまうのが唯一の難点。もとのスクロール位置に戻るとベストだった。
※	アプリの動作が悪く、肝心なときに使えないことが何回かあった。
※	アプリがすごく便利でした。私は検索機能がかなり助かりました。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	要旨にたどり着くまでにいくつかステップがあったので、もう少し減らし、要旨本文に簡単にアクセスできるようにする。また、発表者以外の著者も見にくかった。
※	検索機能が不十分だったと思う。特にマルチワードに対応していなかったように思う。発表していない参加者も検索できたらいいと思うが難しいのであろうか。
※	所属検索などをしたときに、いいねが押せなかったり、PDFが見れず使いにくかった。
※	アップデートが頻繁すぎる。プログラム検索結果と会場地図をリンクさせて欲しい。
※	androidでよく落ちた。ポスター会場でネットが繋がらず、参加者の検索ができなかった。
※	すごく便利だった。今後も続けて欲しい。
※	大会終了後でよいので、大会への参加登録をしなかった学会員が大会の発表要旨に無料でアクセスできるようになると、発表内容を会員間でより広く共有できるようになり、研究成果の交流・周知という点で有益であると思いますので、将来そういったことが可能になるとよいと思います。もともと、学会大会の発表内容要旨は、例をあげれば生化学会でも、学会員全員が学会誌の増刊号という形で受け取っており、学会員全員が発表要旨にアクセス可能でした。
※	参加者・発表者検索から探した演題をマイスケジュールに登録できないのは不便。
※	ランチョンセミナーの事前予約で、web上ではまだまだ残席がたくさんある状況でリトライ続けましたが、エラーばかり出てとてもイライラしました。結局1時間以上操作しても予約できなかったため、予約を諦めました。当日は事前に予約していてもキャンセルが割りあつたようで、キャンセル枠でセミナーに参加できましたが、あれだけキャンセルがあるのなら、前回までの様に、当日午前の子チケット配布でいいと思います。キャンセル枠で入る時も、名刺や所属の記入をするように言われ、そのせいで会場入場の効率が悪く、セミナーが始まっていたのに、まだ全員入場できていませんでした。
※	アプリのバグが多く、強制終了されることが多々あった
※	携帯アプリの現在発表中の講演では、ページを開くごとに同期が行われ、重く感じました。
※	数十もの演題が並んでいる中で、中間～後半の演題の抄録を一度見て、それから一覧に戻ると先頭の演題に戻されてしまうのがちょっと不便だった。
※	プログラムの一覧表がほしい(プログラム集と同等のもの)。
※	そもそもITシステムと言っているのに無線LANがほとんど通じず、かつ自分のポケットwi-fiを使うな、というのは矛盾しかない。人の検索と発表の検索が別でしょっちゅう間違える。冊子とオンラインでポスターの場所がずれていて混乱した。オンラインに講演の場所が書いておらず不便だった。アプリから自分にいいね！した人の情報が見れなかった。スケジュールも時系列表示(グラフ状)にしてくれるとよかった。
※	機能を十分に使いこなしていないが便利であり、今後も導入していただきたい。
※	利用しなかった
※	システム自体は使いやすい設計されていたと思うので評価しているが、スマホもタブレットも持っていないPCのみのユーザーは、会場の大部分でWiFiが使えなかったためにPCからのアプリの閲覧ができず、せっかくのシステムをほとんど活用できなかった。一部のランチョンセミナーや企画において利用された双方向システムも同様で、PCへの対応を考慮してほしい。
※	メモをクラウドに保存して、どの端末からも同じノートを読み書きできるともっと便利で助かります。Google Appsと連動してもいいかも。検索結果から演題に飛べないのはちょっとイけてなかった。
※	Wifiが会場のどこでも使えると思いこんでいた、アプリをダウンロードしなかった。そのためにマイスケジュールにアクセスしづらく、学会中は不便だった。
※	印刷版の要旨集をつくらない理由がわからない。コスト削減というが、参加者は参加料を支払っている。その金額で要旨集はまかなえなければおかしいと思う。
※	とても使いやすいアプリでした。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	特に興味はなかった。
※	マイスケジュールの中から要旨閲覧等の選択や時間系列だけでなくセッションごとの管理ができると良い。
※	ワークショップなどは、演題を続けて要旨を印刷できましたが、ポスター発表など、この要旨を一括印刷することができませんでした。両面や割り付けで印刷したかったので、チェックを入れた演題の要旨を一括印刷できる機能をつけるか、あるならば、分かりやすくしてください。
※	そもそも使う気にならなかった。
※	実際に利用しなかったのだから分かりませんでした。ただ、慣れれば非常に使いやすいような気はしました。
※	そもそもアプリをインストールできなかった。理由は不明。
※	iPadでアプリが機能しなかった。会場内でWiFiが繋がらず、iPad-Wifiではwebにアクセスできなかった。
※	アプリが使用できない参加者に対する代替手段が無く、大いに不満。選択した物だけでなく、全ての要旨をPDFとしてダウンロードすることはできず、大会の記録が残せず困っている。
※	・人名での演題検索結果から要旨の画面に移動できないのが不便でした・動作環境はiPhone 4S のiOS 9.1 でしたが、動作が遅いと感じる場面がとても多く感じられました・同期の途中で応答しなくなる症状があったため、会期中は同期するのを諦めました・「マイスケジュール」へ「あなたの関連演題」の内容を加えている(余分な負荷が発生する要因)事例が多くみられたので、「興味ある演題」などの名称のほうがよかったですと思います
※	ポスター会場以外でネットが使えなかったため、マイスケジュール機能が十分に使えず、非常に不便だった。
※	使っていない
※	IT の過渡期に積極的に取り入れた意欲を評価する。しかしながらスマホ不保持者のため中身の良し悪しについて評価する立場にない。
※	マイスケジュールが時間通りの順に自動で整列したらもっとよかったです
※	会場によっては電波が悪すぎて使い物にならない場面があった。
※	参加していないのでわかりません。
※	ITシステムは便利だが、発表者との個人的な連絡を公的にサポートするのは慎重になった方がよいかと思います。最近の傾向を、学会公認の合コンシステムが広がってきたとして喜ぶ人もいますが、気持ち悪がっている人もいます。やはり、特にポスター発表は、しっかりと顔と顔を合わせてしっかりと話をするというのが基本かと思っています。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	その場で利用しやすいのは楽しいが、終わった後も使えるものであるほうがのちに便利
※	人物検索から発表要旨を見ることができなかったことが不便だった。
※	口頭、ポスター両方ある演題については検索後一括してスケジュールに入れた方が使い易い。会場ナビは建物と建物内がリンクしていたほうが使い易いと思う。今回のように建物がバラバラだと現在地からまずどの建物のどの場所へ移動するのか探しづらかった。大きな学会では用紙集を持ち歩くのは大変なのでITシステムは必須と感じます。是非使い勝手を改善していただきたい。

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	記述
※	アプリ(スマホ)では画面が小さくて一覧が見難い。PCでWEBを見るにはWi-Fi環境が必要。結果、冊子で見るが多く、冊子の場合にはメモ書きも自由に可能であるため、ITシステムも必要ではあるが、今回のような冊子(A5は良かった)も必須であると思う。
※	WEBシステムも使いたかったが、口頭発表の会場ではLANが繋がらなかったため、オフラインで閲覧できるものでの使用になってしまった。通常はWimaxでの通信をしているが、口頭発表の会場のほとんどはWimaxが繋がらず、事前にホテルや移動中に新着情報をダウンロードしておき、ポスター会場でまた同期をする、という形となっていた。WEBシステムは便利なので使用したい。
※	あらかじめpdfファイルを落として、PCで検索
※	90%アプリ、10%WEB
※	参加していないので分かりません。
※	ネットの繋がりが悪く使いませんでした。
※	会期前と終了後にしか使っておらず、当日はまったく利用しなかった。
※	タブレット端末でアプリを使用
※	不参加
※	会場でWi-Fiが機能しない時間が多くスマホ(LTE)でデザリングせざるを得なかった。
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	不参加のため、システムの利用自体をしませんでした。
※	参加していないので分かりません。
※	無線ランがポスター会場のみであったので、オフラインでのみしか使えなかったのが大変不便

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者番号	テーマが偏っている記述
※	そもそも数が少ないので偏るのは仕方ない
※	そもそもシンポジウムの議題は誰が考えたのか？アンケート等を事前にとって、それを元に企画されるべきではないか？学会運営の透明性を全く感じる事ができず、残念である。
※	もう少し生化学分野のシンポがほしい
※	分子生物学会の色が濃かったように感じた
※	会員にあらかじめ連絡が来て、公募したとは思いますが、かなりマイナーと思われるテーマであって参加者も少ない会場が多く、他方でジェネラルなテーマで参加者も多かったのに会場が小さすぎて聴衆があふれていて参加すらできなかったところもありました。ワークショップもそうですが、この辺りのバランスは実に予想困難ですね。ご苦労様でした。
※	せっかく両学会が共催しているのだから、いろいろなアプローチはあったけれども、もっと先を見据えた科学的なテーマをふたつみつつ(かたよっていても可)を大々的にやってみてほしい(はずれてしまうと辛いかも、ですが、興味という点で集客できるのでは?)。
※	全く成果の出ていないシンポジウムが多すぎる。海外からのレベルの低い招待は経費の無駄。幕の内弁当よりも成果の出ている一品料理の時代である。
※	可能なら微生物関連のテーマも設定して欲しい。
※	偏っていても良い。
※	今回は自分の分野に近い発表がワークショップと一般演題ばかりだったので、シンポジウムには全く参加しませんでした。
※	偏っているが、それは年会毎の特徴ととらえている
※	プレナリーレクチャー・パイオニアズレクチャーは特に必要だとは思いませんでした。そのポスターの時間を増やしたほうが良いと思います。DNA複製、組換え、修復関連のシンポジウムがなかったのは残念でした。
※	プレナリーレクチャーの演者が最新の結果を発表するのは良いことだとは思いますが、その分野の細部に焦点をあてすぎたので分野外の人にはあまり重要性や新規性が伝わらなかった。
※	若い世代がもっと参加できるような内容にすべき。どうも、学会員の上層部の趣味趣向が強い気がする。
※	いつも同じメンバーでWSやシンポジウムを開いている
※	(今回ではないが)過去の個別開催の折に、複数の同時期開催学会で、同じ内容のシンポジウムを実行されたオーガナイザーが居られたが論外だと思う。
※	(多くなくてよいので)大学院生、これから研究する学部生向けのセッションがあるとよいと思った
※	興味のあるものが一つもなかった。動物、植物、微生物など、どの分野の人でも関係がある(興味を持つ)発表内容が一つでもあるべきかと思う。
※	研究者の人となりに注目するならば、テーマが偏っていても良いですが、内容をその様にして戴ければ、若い人も興味を持つと思います。研究内容に重点を置くのであれば、私の関連分野は重要視されていない、と思う人が多くでないような配慮が欲しいです。
※	改善点は示せないが、このままでは良くない気がします。
※	捏造問題フォーラムの時間が短すぎる
※	細胞骨格系のシンポジウムをもっと増やしてほしい。
※	明らかに生化学会より
※	他の講演と重なっていたためあまり聞けなかった。重ならないようにして欲しい。
※	オーガナイザーの人選が不適切と感じられるシンポジウムが散見した
※	特別講演は印象に残らなかった。シンポジウムはとても良かったが、さすがに数が多すぎた。2割ほど減らして質を上げてほしいのではないか。
※	もともとテーマの適切性という質問は意味がないのでは？開催時間が問題で、昼の時間をとったためにポスターの開始時間が遅れるなど影響はあったと思う、
※	なぜ人間本位のテーマに偏るのか。生物は人間だけではない。
※	不参加のため、あまり内容を把握していないのですが、参加者の話を聞くと、面白そうなテーマだったような気がします。
※	色々な意味で閉塞感のある現在では、過去の成功者による特別講演は虚しいだけだと感じた。
※	特定の先生とつながりを持つ人ばかり。
※	お金持ちはデータそこそこでも優遇されているのか！？
※	医学系が多いように思います。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	海外を増やすなら、国際学会に昇格させるべき。
※	プログラム冊子集にCSHAセッションに関する簡単な説明が一切ないのはおかしい。去年参加し、今年は参加できなかったがセッションの興味ぐらい書いた方がよい。去年全く盛り上がらなかったのが原因なら今年こそ盛り上がるよう工夫するべきだったのでは。(今年の様子は知らないのでの外れだったらすみません)
※	1日だけの参加で時間が無かったので、シンポジウムは聞けなかった。そのため評価できない。
※	特別講演は昼に行きたくて欲しい
※	テーマの偏りについては分かりませんが、現在盛んな、あるいはこれから盛んになるであろうテーマを本学会が選んでいるのだろうな、と解釈しています。
※	日本人発表者の英語が分かりにくかったし、口癖のような文言が耳に残って、あまり良い印象が残らなかった。無理をせず日本語できちりと話していただくオプションも用意してはどうか。ノーベル物理学賞を受賞された益川教授は受賞記念講演を堂々と日本語で行って拍手喝采を受けておられました。
※	WSとの分野の重なりを考慮してプログラムを組んでいただき良かった。
※	日本語の発表にして欲しい
※	シンポジウムについて、一部を除いて殆ど日本人が発表しているので、日本語での発表が良かったと思う。英会話教室でもないのに英語の必要性は無いと思う。英語が綺麗で流暢なら聞きやすいがぎくしゃくした英語は朝一聴きづらい。
※	海外からのレベルの低い招待は経費の無駄。
※	シンポジウムやワークショップは類似したテーマが同じ時間帯に重なっていてどちらも聞きたいのにと残念だったこともしばしばあったように思う。
※	プレナリーとパイオニアーズの時間がかぶるのはよろしくない。
※	参加していないので分かりません。
※	プレナリー・レクチャー、パイオニアズ・レクチャーは、現在のようなのを続けるなら、無くした方がよい。
※	もっと少なくとも良い
※	海外からのシンポジストの数を増やすのには賛成だが、学会の運営費との兼ね合いだと思うので、例えば近隣のアジア諸国で新規分野を開拓して突っ立った若手研究者を中心に招待を増やせば良いと思う。
※	興味のある話題がなかったので参加していない
※	参加していないし聞いていないのでわからないというのが答えだが、そもそも聞いてみようという気が起こりにくいシンポジストでした。
※	大会全体の共通言語を全て「英語」にすべきである。日本語だけではやはり大学院生の発表練習になってしまう。
※	2つのシンポジウムで外国人1人だった。予算を考えるとやむを得ない。
※	シンポジストも参加者も増やして、英語のセッションが聴衆も含めて日本人だけ、ということが無くなればよいです。
※	不参加
※	お金があれば、海外から招待したらいいし、近隣諸国から来てくれるようなものを目指したいですね。
※	パイオニアズ・レクチャーが良かった
※	パイオニアズ・レクチャーは基本的に要らない。その時間枠や経費は、一般会員の口頭発表枠に少しでも使うべき。海外から素晴らしいシンポジストが多数参加されたようだが、プレナリー・レクチャーとして、並行するセッションなしにして、基本的に全員が聞いてもよいくらいの方がおられた(業績的にも、幅広いバックグラウンドの聴衆を意識した講演ができる点でも)。最も大きい会場で、並行セッションなしで、2名の方に続けてプレナリー・レクチャーをしてもらうのはよいのかも。その場合、他の会場で中継すれば、多数の参加者が聞く事ができる。これに値する講演者を招聘できない場合には、プレナリー・レクチャーはやめる。
※	日本の学会とアメリカの学会では、主流の研究の傾向が違うので、グローバル化の世の中なので、その辺を加味した研究紹介もあっても良いかもしれない。
※	英語化していることを考えるとやや少なかった気がします。
※	年寄りの自慢話はいらない。
※	海外からあえて(予算をかけて)呼んだことの目的・ビジョンを感じられなかった
※	聞いていないので。
※	テーマと内容が少し違うように感じたシンポジウムがあった
※	同じ時間によく似たテーマが重なっていることが多かったかと思います。すべての分野の希望を聞くのは無理だと思いますが、できるだけテーマの近いセッションは(シンポジウム、ワークショップ、一般口演を含めて)時間をずらしてほしいです。
※	主要著者である5報の論文の画像について匿名掲示板で疑義が示されたばかりの方を講演者に選ぶのはいかがなものか。そのことはマスコミで報道されているのである。そのことについての説明がまずあるべきではないか。これでは、少なくとも世間一般から見れば、〇〇さんが講演しているようなものである。

質問9. ワークショップについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	テーマが多すぎる
※	会場が狭すぎて、入れない人が多かった。どの会場もスクリーンが見にくかった。座高を高くしなければみえない。
※	参加人数が多いので仕方ないところもあるが、テーマが多すぎるし、一部はかぶっている。若い人のオーガナイザーも良いが中堅以上にしたいほうが、まずまずの演者が集まる気がする。
※	適切であるかどうかはともかくとして、同じ時間帯に聞きたい講演が複数あり、中には片方しか聞けなかった場合があります。
※	セッション数をもう少し減らしても良かった
※	いつも「生命の起源」の会場が狭過ぎる。人気テーマなので、もっと広い会場にすべき。
※	今回は聴衆の数と会場の大きさのバランスが取れていないところがあり、会場に入れなかったセッションもいくつかあった。その意味では、セッション数を増やしても良いのかもわからない。
※	ワークショップのセッション数が多い。毎年同じ人物が主催するような形骸化したものは除去すべきであると考えている。似たようなワークショップを同じ時間帯で並列で開催している例も多々見受けられた。改善を望む(例: 12/3の3W5と3W22。アミノ酸系を同じ時間帯で開催して何の意味があるのか理解に苦しむ)。
※	今回、分子生物学会共催という点で非常にためになったワークショップに参加できた。日本生化学会だけでは出会えなかった世界があった。ありがとうございます。
※	細分化しないようもう少し数を減らせると良い
※	わざわざ聞きに行きたいほどのものがない。
※	最近、応用研究の割合が高くなってきた。基礎研究をもう少し増やすべきでは？
※	一般からも募集した方が質が上がります。
※	立ち見が多く、会場の規模が小さすぎるところがあった。
※	テーマ、セッション数が多すぎた
※	同じような内容が多いのでもう少し内容を精査して欲しい。同じ内容を別のセッションで話しているようなことがあった。
※	類似のものが、同じ枠に重なることが多くあった。
※	興味のあるものがある日とない日の偏りがある。会場を移動してしまうと、会場があふれてしまって入ることもできなかった。興味のある話の時に会場を移動できなかった。
※	同時進行の数が多すぎて、興味のあるセッションに参加できなかった。
※	少し重なりが多かったように思います。
※	テーマの偏り、重複が多い気がする。議論すべきワークショップがなければ、学会側から提示すべきだと思う。学会の牽引力、主体性も欲しい
※	世の中の流行廃りで発表テーマが偏るのは仕方ないが、流行らない仕事のワークショップももう少し増やすなり目立たせるなりしてもよいと思った。
※	テーマ・セッション数ともに大部少なくなったと思う
※	もっとワークショップを増やすべき
※	聴講者が多くなり満員になって外で聞かざるを得ない講演もあった。見込むことはできないとは思いますが、Pptを映すテレビだけでなく、何かもう少し臨機応変な対策をしていただければ尚可かった。もし会場の箱としての限度があるのだとしても、椅子を並べる、演者へ話す声を大きくするよう座長が促すなど、些細なことでも大きく変わる工夫はできたのではなかったか。
※	会場が狭かった！
※	かなりマイナーと思われるテーマであって参加者も少ない会場が多く、他方でジェネラルなテーマで参加者も多かったのに会場が小さすぎて聴衆があふれていて参加すらできなかったところもありました。
※	セッション数も多く、見づらかった。人気のあるセッションに人が集まりすぎて、参加できないことが何度かあった。
※	以前は行っていましたが、一般演題からの採択も行ってほしかった。
※	似た分野のセッション(シンポジウムも含めて)が同じ時間帯に行われていることが複数回あった。
※	多すぎる 会場がいっぱいで入りきれないところがあった 国際会議場の部屋は長すぎて後ろからは見えない。モニター設置などの施設の改善が必要。
※	会場によって人が溢れる／空席が目立つなどあり、演題のテーマがトレンドに則って無いように思えました。
※	セッション数を削るべき。
※	シンポジウムと併せて数も多すぎるし乱立している印象。来る者は拒まない企画ではなく、学会としてある程度選別する時期に来ていると思う。参加する聴衆の立場では、学術的な中身を選択し足を運ぶので、シンポとWSの枠組みは関係ない。
※	会場が一杯で入れないセッションがあった。
※	テーマが細分化され過ぎていると感じました。
※	自由にやりたい人ができる環境が重要で、評価する。
※	同じ分野に偏っている。仲間内で発表する機会を得るために企画しているように見える。
※	一般演題からワークショップへの採用がなかったことが残念でした
※	生化学との合同の時はいつも思うが、テーマが偏っている。
※	近い分野のワークショップは同時時間帯に配置しない配慮が不十分だった
※	スライド映写位置が低かったりスライドサイズが会場規模に見合わないほどに小さい会場があり、縦長の会場では後方から見づらかった。ワークショップの数が多い。オーガナイザーの業績との関連もあるので政治的には減らすことはできないかもしれないが、類似ものがあったり細分化しすぎているものもあり、全体として聴衆を考えた設定になっていないように思う。
※	参加していないので分かりません。
※	テーマやオーガナイザーが例年、類似しており、自分の研究分野に関連するものはほとんどない。今年も年會に参加したいと思えなかった。
※	とてもオモシロイワークショップがあり、座長たちの企画が成功したと言える。会場を広くしてもらいたかった。

質問9. ワークショップについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	おもしろそうな、昆虫やクマムシのWS会場が入りきれなかった。知的好奇心をくすぐるような興味深いテーマの話は、事前にわかりそうな気もするので、会場を広くするなどできればと思う。
※	ポスターのみで口演させないのは不公平である。
※	午前にあったり、午後にあったり、わけが分からない
※	ちょっとセッション数が多すぎる気がする。タイトルも～(1),(2)は良くわからないので、工夫してほしい。
※	今回も幾つかのセッションで会場に入りきれないほどの立ち見が出た。各会場のおよその参加者数を把握し、次回以降同様のテーマの会場(規模)の割り当ての参考にするようなことはできないか。例:宇宙からの生命の起源、のようなテーマはいつも混雑するが、割り当て会場が小さい。
※	同じ所属の別の人がそれぞれ異なるワークショップで話していることがあるように感じた
※	ワークショップの時間が長い。延長する人が多い。時間内に話をまとめられる人にワークショップ、シンポジウムを依頼してほしい。
※	人気のあるワークショップでは会場が狭い時があった。
※	近い分野のワークショップができるだけ同じ時間に開催されないようにプログラムを組んでいただけるとありがたいです。時間がかぶった場合には近い会場を割り当てていただきたいと思います。
※	現在どの演題を発表しているかが途中からでもわかるように表示があるとわかりやすいと思いました。
※	数が多すぎると思う。
※	会場のキャパシティが小さくて、すぐ満席(立ち見含めて)になっていて聴講した講演が聴けなかった。
※	興味のあるテーマの時間帯が被っている場合が多い
※	特別講演の時間帯設定に問題がある。通常の枠内で行うとよいのではないか。
※	指定演者だけでなく、応募による採択があっても良いと思う
※	数が多く、重複の是正が必要。
※	テーマに偏りがある、会場選びが適切でない(広い会場で参加者が少ない、狭い会場で参加者が入りきれない)。
※	少し多すぎるかもしれませんが、興味がある内容が同時に開催されているというのを経験したので。しかしこれ以上削るのは、現実問題としては難しいのかもしれませんが。
※	あまりにも多すぎる。同時進行になりすぎ。もっと絞るべきだと思う。
※	いつも同じだが、狭い会場は人が入りきれずにあふれており、聞きたくても聞けないセッションが多かった
※	多すぎる
※	セッション数が多すぎた。被っているテーマも多かった。
※	数の問題になるかわかりませんが、比較的小さい会場の場合、人があふれて中に入れられないものはいくつかありました。合同の学会で参加数も多く、いつも以上にそのような状況が増えたような印象です。小さい部屋の場合、部屋の外でも聞くことができるようにすべきかと思います。
※	多くの会場が定員オーバーで狭かった。がこれは仕方ないですね。。
※	興味のあるシンポ、セッションがことごとくは2日目午前に集中した
※	テーマ・セッション数ともに適切な範囲であると思うが、英語開催が少なかったのが気になった。
※	聞きたいワークショップは大抵重なる
※	類似のセッションが並行して開催されたため聞きたい発表を聞く事が出来なかった
※	一部のセッションで会場の規模が小さく、部屋に入れずに話が聞こえなかったことが残念だった。
※	多数のワークショップが同時進行で開催される形式が必ずしも良いと思わない。プログラムを簡素化し、学術年会としての内容を選抜・精査すべきではないか。
※	途中で休憩が欲しかった。
※	特に聞きたいテーマが少なかったように感じるが、それは個人の興味の違いなのかもしれない。
※	参加したいセッションが同じ時間帯に重なってしまうのが悩み。また、移動距離が長いことも辛い。だが、仕方ない気もする。
※	今回合同大会だったせいか、テーマが多すぎて、重複して聞きたいものがあつた。
※	類似のWSが多い
※	当然全部は見切れないので、多いと思うが、多くて悪いことはそんなにない。
※	自分にとっての新しい発展分野の情報(クロマチン関係と脂質構造)が得られて良かった。
※	構造生物学、iPS細胞、ゲノム編集など、最新かつ興味をもつ人が多いテクノロジーを、聴衆が各々の実際の研究に直接参考になるような、practicalな演題を集めたワークショップを希望する。
※	セッション数はめいっばいだと思いますが、同じ分野で複数あつたり、少ない分野があつたり、しているのは事実です。分子生物でくられれば、あまねく分野に差は付けない、というポリシーがあつたような、、。分野によって参加会員の多少が有り、人数の少ない分野でワークショップがたてられるのか、というのはあるでしょうが、絶滅危惧種にはして下さらないようにお願いします。
※	テーマが偏りすぎ
※	数が多すぎて同時刻に複数興味のあるものが出やすいので 期間を延長してもいいのであまり散在しないほうがいい
※	ワークショップのタイトルから、内容を想像しにくい。オーガナイザーはミステリアスな名称で聴衆を惹き付けたいのだと思うが、参加者には不親切。
※	この学会はもはや必要ない
※	出席者が殺到し部屋の中にさえ入れず声も聞こえない会場があつたが、何も対処されなかった。テーマも偏りがある。
※	不参加
※	全体的にあまり面白そうでない。
※	適応拡大のワークショップに参加した。それぞれの講演時間はよいが、講演者が少なく、物足りない印象だった。
※	植物、植物-微生物相互作用が不足
※	時間が被っていて、会場も離れているので、聞きたくても聞けない公演があつた。テーマが大きく異なるものを裏にしたり、裏のワークショップ数を減らして、できるだけ被らないようになると良いと感じた。

質問9. ワークショップについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	多過ぎる。利用可能な会場数をかき集めて上限とするのは、大会のクオリティーや経理の点でよくない。合同学会にせよ、単独にせよ、大会長の判断でセッションの応募規程を決めてよい。たとえば、講演者には必ず大学院生あるいは非常勤の研究者を含めるとか。
※	会場により、人があふれ中にも入ることができない場合が、多かった。興味を持っているテーマ・セッションなどあらかじめ登録することで、適切な会場の大きさを割り当てるようにしてほしい。
※	セッション数が多すぎるように思いました。また、ワークショップの発表に「公募枠」を設けても良いように思いました。
※	テーマ・セッション数が多すぎる。セッションの開催場所が広範囲に点在しており、またセッションごとにそれぞれの発表者の発表時間が違うのでセッション間を移動しづらい。
※	分野間の偏りがひどい。あまりにもマイナーなものまで採択しすぎ。
※	途中からだど人であらうでいっぱい入れない会場が多かった。一つの会場で聞きたい演題は限られているので、初めから終わりまでずっといる訳にもいかない。会場の広さ、動線などを工夫することで解決できないでしょうか。
※	ステージ場で議論する方々の立場に偏りが見られた。またほぼ発言しない方もいらっしや、社会的な事情が現れていたと思う。
※	同時並行してワークショップがある割に、同じグループの同じような演題があって偏りを感じた。
※	数が多すぎる。また、類似したテーマが複数になっている。講演の内容の中には、科学的に低い内容も含まれていた。
※	セッション数が多過ぎた感じがありました。
※	毎度のことながら、重なっていると同時に聞けないのが悲しいですね。
※	すこし内容がダブっているものも見受けられる。
※	スライドの下の部分が、前の人の頭に隠れて見にくかった。会場のサイズによらず、プロジェクターは大きいものにして欲しかった。あるいは、投射する位置を検討して頂けると有難いです。
※	テーマはとても良かったが、さすがに数が多すぎたと思われる。2割ほど減らして質を上げてもいいのではないかな。
※	新学術領域のグループ発表の場になっている。
※	時間を少し短くして、例えば午前中でも2回開催されるくらいであれば、参加の自由度が上がると感じた。現状では重なって諦めることが多すぎる。
※	似たジャンルのものが同じ時間に被っていて、聞きたいものが聞けなかった。
※	立ち見でしか見れないセッションがなかった
※	セッション名などで大風呂敷を広げるのはやめませんか。みっともないのもっと謙虚な表現にして欲しいと思います。内容がずっとエキサイティングなものもありましたけど・
※	数が多すぎた。生化との合同大会はやめてほしい。
※	多すぎ、かつ会場とテーマの設営が不適切 一部の人間の自己満足も見え隠れするが

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターの開始時間が遅い
※	立ち見または会場に入れたいセッションが多々あった。人が集まりそうなセッションはもう少し広い会場で行って欲しかった。
※	もっと多く一般口頭発表の質疑応答の時間が欲しかった。
※	口頭発表の後にポスターとなるようスケジュールを組んで頂きたい。
※	最終日の軽食の告知を見落とし、会場外で食事をしたため、口頭発表をあまり聞けなかったのは失敗だった。
※	学生が発表しているポスターでは、縁者自身がその内容をよく理解していないのか、勉強不足なのか、作戦なのか、質問してもまともな答えが返ってこない者もかなり見受けられた。せっかく時間を割いて学会に参加しているのに残念なことだった。演題を出す以上は教官側には学生が演者の場合に指導教官も傍らに待機するような配慮が欲しいものである。
※	同じ研究グループから複数選ぶ前に、各研究グループにまんべんなく機会をあたえるべき。会費払ってるし、年会の意義はそこにある。
※	時間が短いということはないと思います。前半後半で、前半だったので、もう少し長くてもよいと思いましたが、長くした場合に、後半に当たってしまうと、もう少し早く終わった方がよいと思ったと思います。75分ずつでもよいのではないかと思います。
※	一般口頭発表とポスター発表の時間が離れすぎており、発表者への負担が大きかった。一般口頭発表の部屋が小さすぎ、なかに入れない所があった。会場の振り分けをもう少し考える必要があるように感じた。
※	同一分野のシンポジウムと一般口頭演題を同じ時間帯に行うのは避けてほしい。
※	ポスター発表がない日の一般口頭発表は聞く気がしない。
※	最終日の午後の口演は人がいない。遅くても、最終日は午前中に終わらせるべき。シンポやワークは午後でもよい。
※	レイトブレイキングがあって良かった
※	神経科学関係の会場をもっと広くて欲しい
※	テーマが重なるプログラムの時間が重なることがしばしばあり、困りました。
※	午前中にもポスターブレイクがあると良かった
※	ポスター多すぎ
※	ポスターの時間帯をもう少し早くしてもらえないかと思った。子供の保育園のお迎えに間に合わないので、途中で帰ることになってしまった。
※	会場がせますぎた
※	もう少し早い時間帯のポスターセッションを希望します。遅くとも18時までには終わることを希望致します。
※	本学会に限らず毎回思うことですが、ポスター訪問のマナー(もっと言えば質疑)を良くするような啓発が必要だと思います。一人の人がずっとポスター発表者に質問し続け(発表者にも意識が必要ですが)他の訪問者が近づけない、知り合いで集まり雑談をする、といった光景がありました。質疑も時間制限を考えないで、遅れが生じて後のプログラムに影響することもありました。熱心でよいのですが、もう少し意識を持っていたいただければと思います。
※	口頭発表希望の人が、連番登録できないシステムはやめてほしい。
※	ポスターの数が多いため、4日間に振り分けて欲しかった。ポスターの時間をもう少し早い時間帯にしてほしい。
※	ポスターセッションの終わる時間(18時45分)をもう少し早い時間にしてほしい。
※	口頭発表のあとにポスター展示にした方がよいと思う。見に行くポスターの絞込みができるし、口頭発表で質問できなかった場合や、口頭発表が重なった場合、発表の遅延等で聞く予定のものが聞けなかった場合でも対応が容易になる。ポスターセッションの時間は演題数によるが、今回の規模だと、もっと長いほうがよく、演題数が少なければ、短い方がよい。
※	ポスターが多いので、2時間では十分な質問時間が取れなかった。
※	予算上出張日が限られるので同じ分野は日程をまとめてほしい
※	ポスターセッションの討論の時間帯がもう少し早い時間帯(例えば、15:45から17:45)の方が良い。
※	研究室から複数のポスター演題を登録する際に、ポスター番号が連続となることを希望する欄が欲しい
※	テーマの区切り方に少し疑問が残る。同じ分子・ターゲット・疾患でも日をまたいで別のセッションにならないようにしてほしい。
※	開催場所が狭かった。
※	あまりにひどかった
※	演題数が多かったので、3交代制でもよかったのではないのでしょうか。
※	口頭発表→ポスターの順に統一すべき。
※	類似のWSが、同じ枠に重なることが多くあった。
※	一般口頭発表への採択は、そのセッションのオーガナイザーの関係者に偏っていたように思いました。
※	ポスター会場が広いので1時間ではせいぜい3つしか見られません。
※	神戸商工会議所は他の会場と離れていて場所がわかりにくかった。メイン会場と神戸商工会議所間の案内板はもっと数を増やしたほうが良い。
※	ポスターの貼り付け時間を徹底してほしい。正午になってもポスターが貼り付けられていなかったものいくつか見られた。また、演題取り消しがなされていたポスターも多いように感じた。
※	口演が少ない。重複したワークショップを減らして、口演を増やしても良いと思う。
※	合同開催の場合ポスター数が増えます。単位時間あたりに閲覧(ディスカッション)可能な枚数を考慮して、3部制にする等の工夫が合ってよいと思います。
※	口頭発表は、どこかのワークショップに組み入れるべきである。トピック混ぜこぜの口頭発表会場には、それぞれの関係者しか集まらない。
※	ポスターのあとにTalkを行うのはやめるべきである。
※	1日の午前中に神経発生のシンポジウム、ワークショップ、一般口頭発表が重なり、ほとんどの講演に参加できなく残念であった。同じ分野を1日にまとめるのはよいと思うが、同時間に開催されると参加できない講演が増えるので時間をずらしてほしい。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターから一般口頭発表が採用されることで、口頭発表をポスターの宣伝のように扱っている発表がいくらか見られた。これは、口頭発表の時間が短いことにも理由があると思う。口頭発表の採用数を減らし、発表時間を延ばしたほうが良いと考えた。
※	自分の発表時間と同じ時間帯に発表しているポスターを聞きにいけない。この点を改善してほしい。
※	どのような演題が一般口頭発表に採択されるかについて、予め方針を示して欲しかった。
※	ポスターからの口頭発表への採択の基準がまちまちで不公平にすら思えた。ユニークでオリジナリティーのある研究がなおざりにされていた観があります。有名研究室の同様の演題、別の大学院生が発表をするのでしょうか、は、すべからくポスターでも良いのでは。
※	Q9でも記載しましたが、一般演題からシンポジウム・ワークショップへの採択も行ってほしかった。また、会場の都合もあるかとは思いますが、一般口頭発表の会場が僻地に追いやられている印象があった(場所が分かりにくかった)。
※	会場によって人が溢れる/空席が目立つなどあり、演題のテーマがトレンドに則って無いように思えました。四日目の口頭発表が、三日目にポスター発表されており、口頭発表の意義が無い感じでした。最終日にしても、口頭発表を終えたあとにポスター発表でフォローする流れにして欲しいです。
※	ポスターは、似たような内容を一日にまとめてほしい。
※	今回、口頭発表の機会をいただきましたが、3日目にポスター発表した後、4日目に口頭発表でした。日程上、仕方のないことなのかもしれませんが、個人的には、口頭発表してからポスター発表をした方がより有意義なディスカッションになるのではないかと感じました。(口頭発表を聞いて、興味を持ちたり、より詳しい内容を知りたい場合、時間が確保されているポスターの時に実のあるディスカッションができるのでは…)
※	日程が過密、移動に時間がかかり、展示を見る時間があまりとれなかった。シンポジウム、WSの時間を短縮しては？
※	帰宅の電車の関係上、ポスター終了時刻がもう少し早い時間だと嬉しいです。
※	ポスターについても、中身を選別する必要があると思う。
※	口頭発表やワークショップの終了の時間とポスター発表の開始時間に空きがないため、ポスター発表があると聞きたい口頭発表を最後まで聞くことが難しかった。
※	一般口頭とワークショップが被っており、一般口頭の意義が薄い。ワークショップに応募して採択されるシステムの方が良い。
※	神戸ではポスター会場が分散するので少々面倒。それともそのほうが好評なのかしら？
※	口頭発表に採択された時はポスター発表は免除して頂きたいです。
※	口頭発表とポスター発表は同一日に行うか、または口頭発表終了後にポスター発表時間を設定すべきではないか。
※	自分の一般口頭発表と、同じ分野のワークショップの時間が重なっており、不満に感じた。多くの一般口頭は最終日の昼だったが、すでにポスターを見ているためわざわざ発表を聞きに行く必要を感じなかったため日程の変更は必須かと思う。
※	「疾患生物学」という言葉に違和感がある。
※	ポスター発表が終わるのが18時45分というのは、他の学会に比べて遅いような気がした。ポートライナーの混雑も重なって、三宮に着くのが8時を過ぎてしまった。
※	シンポやワークショップと一般口頭発表が重ならないほうが良いと思った。
※	ポスターから口頭への採択に関して、セッションごとの採択率がどこかでわかるとありがたい。
※	一般口頭発表はポスター発表日と同日が望ましい。
※	最終日もポスターがあった方がよい。(口頭よりポスターの方が討論が深まるので、参加しがいがある。)
※	一部、最終日昼に行うセッションはかなり人の入りが少なく、残念であった。また、会場のサイズも適切とは思えなかった。ポスターを3日目にやり、発表が4日目にある人がいたが、議論を効果的にするためには逆のほうが良いと思う。
※	参加していないので分かりません。
※	朝がもったいない
※	もう少しポスターからの口頭を増やしても良いのではと思います。
※	一般口頭発表とシンポジウム・ワークショップが同時帯に開催された場合、自分の場合はシンポ・ワークショップの方を選ぶ傾向にあった。時間帯を分けたほうがよいのではないか。
※	最終日の時間設定で次のワークショップとの間の時間が15分しか無いのは、準備等に支障があった。
※	ポスターから一般口頭発表に採択されるシステムはよかったが、発表時間があまりにも短すぎる。8分ではなく10分は欲しい。
※	希望者には口演させるのが筋である。そのためにはワークショップは短縮して皆に機会を与えるべきである。そもそもワークショップは一部のものの独占欲のかたまりであり、関心のないものには無駄なことである。こういうものは自分達で研究会をひらいて関心のあるものだけでやれば良い。 いろんな研究や地味な研究を尊重して口頭発表させるべきである。即ち多様性を尊重してほしい。一部の教授の好みに合わせるべきではない。
※	ポスターかオーラルどちらか一つでいい。
※	毎年ですが、ポスターを掲示する時間が早すぎます。前の日から会場近くに宿泊する必要があるため、できれば昼頃までに掲示すれば良いようにしていただきたいです。
※	若手の口頭発表の機会があり、とても良かった。これからも、若手の発表の機会を設けてほしい。
※	ポスターセッションの時間がやや遅い
※	昼過ぎまで掲示されないポスターが多く、空き時間に見ることができない。むしろ掲示時間を10時や11時までと遅くし、ポスターセッションを午後の早めの時間に置けば、確実に掲示してもらえ地方から当日参加や当日帰宅もできる。ポスター無断撮影が多過ぎ、教員レベルが堂々と行っており問題である。一般講演に口頭発表をおくなら、ポスターかどちらかを選ぶようにする方がよい。また、本学会は学生発表練習の場ではないのだから、若手発表賞は別に行うなどして、本発表のレベルを保って欲しい。例えば、口頭発表はその研究に関して議論できる人を研究室の責任で選んで登録して欲しい。
※	口頭発表がワークショップと混在していてさっぱり訳が分からなかった プログラムがビジーになりすぎるため、一般口頭発表が必要と思えない
※	最終日の昼時間帯の一般口頭発表は良くないと思う。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター会場が複数あるのは、不便でした。
※	合同大会なので数が多すぎた。
※	すべての演題において、口頭発表とポスター発表を同日にしてほしい。口頭発表の数を減らしてもよいと思う。
※	一般口頭発表に採用されなかった理由を知りたい。査読委員にて厳正かつ慎重に選考した結果とあるなら、その理由を通知していただきたい。非常に不快な思いをした。
※	最終日の口頭発表、シンポは午後と連続して大変だった。
※	もっと長くてよいが、発表者の負担は少なく。たとえば、3の倍数とか4の倍数で分ける。2はしんどい。
※	疾患生物学や発生IVとVなど、同じ時間に同じ分野の発表ができるだけ重ならないようにしてほしい。
※	時として興味のあるワークショップが重なっていて残念だった。
※	ポスターが貼り替え制になっていましたが、全日程通して貼りっぱなしにする方がよいと思います。聴講者が時間内に訪問できなかった演題でも、聴講者が後日訪問して眺めることはできますし、演者がもし気づけば、議論することもできます。聴講者、演者の両者にとって利点があると思います。また、一般口頭発表に採択された演題の中で、口頭発表の時には既にポスターが終わっている演題がありましたが、これはなるべく避けた方がよいのではと思います。口頭発表で時間がなくて質問できなかった内容を、ポスターでじっくり議論できるようにすると、より白熱した議論ができると思います。
※	ポスターの開始時間が少し遅い気がした。ポスター最終日の偶数タームは、ポスターを見に来ている人の人数自体が少なく1日目、2日目に比べて閑散としていたのはどうかと思った。
※	奇数番号と偶数番号で不公平が生じる。もしあのようにするのであれば、もっと早い時間にしないと、偶数番号が始まる前に帰ってしまう人が多い。
※	4日目の口頭発表に選ばれた人は3日目にポスター発表をしており、意味のないものになっていました。会期を3日にして、口頭発表の後にポスター発表にすべきです。
※	ポスターの前の時間帯で一般口頭発表設定できるのではないか。
※	一般口頭発表と並行してシンポジウム、ワークショップを開催すべきでない
※	ポスターセッションの開始時間が遅すぎると思いました。
※	ポスター会場で、どの列がどのようなテーマについての発表なのかが一目でわかるようなボードがあるとよいと思いました。
※	ポスターセッションの時間が短く、かつ4つの会場に分散しているため、興味のあるポスターを5個以上回るのは困難であった。その上、ポスターを午前中からきちんと掲示しているものが非常に少なく、学会に出席してもポスターを見ることができなかった。ポスター発表時間を3時間以上にすること、朝10時までに必ず掲示させるように徹底させてほしい。去年までは、これほどひどいことはなく、ほとんどのポスターは午前中に掲示されていたと思う。今年だけこれほどひどくなった理由はよく分からないのですが…。短時間で回りにくいので、ポスター会場は、企業展示ブースとわけてポスター会場だけでまとめてほしい。
※	口頭とポスター発表の両方が必要とは思わない。英語発表にしてほしい。
※	会場の大きさと人数が合わず、途中からだの中に入れなかった。
※	私のワークショップの講演者が、同時並行のワークショップのオーガナイザーでした。こういうのは事務局側で回避してもらいたいです。初歩的ミスだと思いますが。
※	日程上、仕方がないことだが、4日目の口頭発表者のポスターが、3日目にあるのが残念だった。なぜなら、発表で疑問に思ったことを、ポスターで聞きにくいというスタイルをとれないため。
※	口頭発表→ポスター発表の順番に統一したほうが良いと思う。口頭発表は時間が短くデータが最小限になってしまうため、詳しいデータが見たい方はポスターも是非、と言うことができるが、逆(ポスター→口頭)だとそのあたりが難しい
※	近い分野のワークショップと一般演題が同じ時間帯に有り、講演を見逃すことが複数回あった。テーマによって時間をずらしてほしい。
※	一般口演の前にポスター発表があるのはよくなかった
※	2014年にあったポスターディスカッションがなくなったのは残念だった。PILレベルの方とディスカッションできるのは魅力的であったので。負担は大きいと思うが、そこは頑張ってやっていただけると、非常に得るものが大きいのではないかと思う。また一般口頭発表がワークショップやシンポジウムと丸かぶりしていたのがあまり良くないと感じた。ワークショップ同士やシンポジウム同士でさえ2つ3つと聞きたい講演が被ることが多いので。
※	こちらも、全て英語にすべきである。日本語だけで討論できても海外では全くはがたたないし、日本だけで終わる研究は数十年前に終わっている。若者に媚び、大会を運営するのではなく、若者を厳しく育てる大会になるよう願っている。
※	ポスターセッションの時間をもう少し早めて欲しかった。終わりが19時前は少し遅い。
※	口頭発表を聞きに行った部屋の多くが、狭すぎて立ち見が多かった。同時に行なうセッションの数が多すぎるのではないか。また、ポスター会場が分かれすぎているのは不便だった。
※	ポスターの前後の並びが良くなかった。もう少し中身を吟味して欲しい。
※	話す時間がもう少し長いとよい。
※	I wish there were more English speaking lectures
※	日程の関係で難しいとは思いますが、限られたセッションでの話しですが、同じ分野の発表が表／裏で行われており、片方しか聞くことができませんでした。
※	ポスター発表時間が同じで話しに行けないものが多数あったので、もう少し発表時間を細分化してほしいです。(発表時間を、ポスター番号を6で割った余りが: 1は16:45-17:15/17:15-17:45 2は16:45-17:15/17:45-18:15 3は16:45-17:15/18:15-18:45 4は17:15-17:45/17:45-18:15 5は17:15-17:45/18:15-18:45 0は17:45-18:15/18:15-18:45 とする、など。)
※	大ホールでがらがらだったのは残念
※	上記7は、複数日程にまたがってしまったため。ポスター・口演の重複はよいと思います。
※	会場が分かれていて迷った
※	ポスター貼り付けの間隔がもう少し広いとよい。口頭発表の場所が離れていると、移動時間的につらいので近い方がよい。
※	終了時間は1時間くらい早くて良い。LBAに関して、はポスター会場に番号・題目・演者を記載した印刷物を置いてほしかった。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスターが多すぎるので、口頭発表者のポスターは不要。ワークショップ発表者が多くて、一般演題は少なく裏に隠れたようなプログラム編成だった。
※	3日目までの昼前後に空き時間が多い。プレナリー／パイオニアレクチャーに興味がない人はどうすればよいのか？ランチョンセミナーは12時から始めるべき。
※	聞きたいポスター発表がたくさんあって、一部しか聞くことができなくて残念でした。数が多いので、展示場所も複数となっており、主催者側としては難しい問題ですね。
※	ポスターは演題数が多く、奇数番号と偶数番号に分かれていても、演者と話がしたくても時間内に全く間に合わなかった。演者の負担は増えるかもしれないが、どの演題とも2時間示説時間を設けるようにしてほしい。
※	ワークショップ、シンポジウムの日程と、関連分野をもっとひもづけて、同日開催にするなどの配慮をお願いします。
※	大御所の先生の所が沢山採用されていました。これで良いのですか？
※	同じ分野を何日にも振り分けることによって、同研究室からの発表がバラバラになり参加しにくかった。学生を連れて4泊は負担が大きい。
※	可能であれば、一般口頭発表後にポスターとなるようにスケジュールを組んで欲しかった。(3日目ポスター4日目口頭発表だったため)
※	この学会はもはや必要ない。
※	聞きたいセッションが偏った上、会場が近いものは良かったが、遠いものは諦めざると得なかった。疾患生物のジャンルをもう少し増やしてほしい。
※	不参加
※	ポスターの作成の仕方のポスターコーナーを作ってはいかがでしょうか。
※	合同大会のため、参加者数が多かったせいだと思うが、4日目に押しやられすぎていると思う。会期中、均等分配してほしい。
※	従来、4日間で振り分けていたポスターを、今回は3日間で振り分けたため、1日あたりの発表数が多く、フォローする時間が不足しました。発表者の負担を考えると、4日間に戻し、均等に振り分けるのが良いかと思います。
※	ポスドク等の外国人会員にも敷居を低くするため、ポスターや冊子に掲載されるabstractの英語表記を徹底した方がよい。
※	一般口頭発表の枠をもっと長くするか、一人の発表時間を延ばすかした方がよい。
※	最終日のランチタイムに一般のトークを設定したことは不適切だと感じました。
※	1日あたりのポスターが多すぎると思った。日によってポスターの番号の場所が変わり、分かりにくかった。
※	ポスター会場が一カ所であれば、分野が異なる領域の発表などを、のぞき見することができていいのではないかなとも思う。
※	ポスターの会場がもっと広いと良かった
※	ポスター発表に前後もしくはどちらかに30分程度の自由討論の時間があれば、ポスター発表者が発表を聴きに行くことができると思った。
※	ポスターセッションの時間が遅い。会場が4箇所になってしまったのは良くない。
※	一般口頭発表が最終日に偏りすぎていた。また、ポスター発表で自身の担当時間以外で発表を行い、隣の正式な発表者の発表を妨げるモラルの低い不誠実な人が多く見られて不快だった。
※	6.ポスターからワークショップに採択される枠もあると一層良かった。
※	最終日にポスターがなく、見るものがない 閑散としていた
※	テーマの近いシンポジウムが同時並行で開催されており、フォローできなかった。できるだけ内容の近いシンポジウム／ワークショップは時間をずらしてほしい。
※	発表が学会の受賞講演などと重なると言ったどこに重きを置いているのか分からないプログラム編成
※	ポスターセッションの時間を早めにしてほしい。遠方からの参加者にも配慮をお願いいたします。
※	最終日もポスターがあった方が良くと思う。
※	ポスターを口頭で発表したもの多くは内容が薄かったので、わざわざ口頭発表を作る必要はない。その時間や会場を、ワークショップやシンポジウムに振り分けて、日数を短くする方が良く、内容が薄い学生や院生レベルの口頭発表は、支部例会などに回して欲しい。
※	3日目ポスター発表で4日目口頭発表とか意味わからない
※	合同だとしても聞きたいセッションが重なってしまう事があり、土曜日まで使う日程が良かったのではないかなと思う。
※	1日1000演題以上を1～2時間で回るのは不可能である。
※	できるだけ一般口頭発表の後にポスターが来るようにしてほしい。
※	演題数が多すぎる。また、ポスターの掲示が遅い(討論前のチェックができない)ポスターが少なからずあった。早めに掲示を外す例も見られた。
※	ポスターから一般口頭演題にピックアップするのは悪くないが、ワークショップの演者がポスターを出さないのは不満。ディスカッションしたくてもできないことがある。
※	偶数、奇数で2回に分割するとポスター担当の場合半分は見にいけないこととなります。そこで4分割ぐらいにして担当時間を割り振ると興味あるポスターと自分の担当が重なることが少なくなると思います。その分、ポスターセッションの時間は長くても良いと思います。
※	一般口頭発表は発表内容がポスターと同じならばやる必要はないと思う。ポスター発表は数が多く複数会場にまたがっていたので、時間内に目的のポスターを回りきれなかった。1日当たりのポスターの発表数を減らして会場は分散させないようにしたほうが良い。
※	数年前から、一つ分野を数日に分けているが、元に戻してほしい。分散化されたことにより、他分野への興味その他により前向きな効果よりも、当該分野の活性化が阻害されることによるネガティブな効果の方が強いように感じられる。
※	ワークショップと分野がかぶっていることが多く、興味があるにもかかわらず聞くことができなかった演題が多かった。
※	4日目のお昼の口頭発表の固め打ちは良くなかった。合同大会だったせいもありますが、全体的にテンションが盛りすぎた感じがした。
※	ポスターの発表時間帯はもう少し早い時間帯にして欲しい。遠方から参加する場合には、ポスター発表終了後に帰ることができない。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	ポスター発表後に一般口演をしました。逆の方がよかったです。
※	ポスターセッションの時間をもう少し早めてほしい。
※	ポスターセッションの時間をもう少し早めて欲しい。帰りの時間がギリギリになるせいか、早めにポスターをはがしてしまう人もいる。
※	ポスター発表は最終日まであってもいいので、1日あたりの発表数をもう少し少な目にしてほしかった。ワークショップも聞いて、ポスターも見て・・・と時間が足りなかった。
※	口頭発表はポスター発表日にあるのがベストだと思います。
※	ポスターセッションの時間帯を考え直すべき。
※	こちらについても参加していないため、良く分からず。。。
※	日程の前半と後半で分野を変えてくれる方が集中して出れるのでうれしい。4日間全部を出席できない時は専門分野で聞けない発表が出てくる。それに出張の日数を少なくして済み旅費が助かる。
※	聴講者に対し狭すぎる部屋があった
※	場所に不公平感があるし、ポスターの数に対して、聴衆人数を考えているのだろうか疑問に思った。
※	一般口頭発表が多すぎる気がする
※	最終日にポスターが無いと、大半の人は最終日午後になる前に帰ってしまい、最終日午後のセッションが閑古鳥のところが多く、もったいなかった。
※	・連番のポスター発表を行いました。隣り合ってほしい演題の間に通路がはさまってしまい、連番の意味が薄れてしまった、ということがあったので、次回からはそのようなことがないように対応していただけると嬉しいです
※	ポスターセッションの時間がもう少し(1~2時間)早い方が良い。
※	ポスター発表者を増やすことで学会参加費を回収する必要性は理解できるが、それにしても全く形になっておらず見る者に何の益ももたらさない発表が多過ぎる。石コロの発表の山のために発表時間が短縮され(ポスター発表1時間では全く議論できない)、ひとつの発表あたりに参加者が割ける時間が短縮される。学士修士の学生の記念参加は厳しく排除し、字義通りの選考を経た上での採択を強く望む。現実的な線では、同一研究室からの類似テーマの演題は、ひとつのポスターにまとめて代表者に発表させることなどが考えられる。
※	ポスターからの一般口頭発表は、時間も短く議論が盛り上がるわけでもないのに、無駄・無意味だと思う。それぞれの分野のワークショップの世話人がポスター発表の中から数件ピックアップして、内容を吟味して個別に依頼してワークショップで取り上げるくらいの感じが良さそうに思います。
※	発表演題が多すぎてそもそも全部を見切れない。
※	口頭発表の分野にまとまりがなく、会場にいる人は幾つかある演題の一つか二つを聞くために来場していた状態ではないだろうか。会場からの質問がほとんどなく、座長ばかりが質問しているように感じられた。
※	会期が4日間と長いので、ある程度単一の分野(例えば「疾患生物学」は2日目に集中のような)は1日にまとめて欲しい。
※	日数が短い(詰め込みすぎ)
※	外国からの参加者を増やすためにはポスターは英語にしたほうが良いかもしれない。
※	近い領域のテーマが重複しているケースが例年以上に目立った。また、会場間の距離が遠いため、一部重複しているだけでも会場間の移動に時間がかかってしまい、興味のある講演のうち、半分は聴けなかった。

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	細胞から宇宙まで持っていく、そのバイタリティがめっちゃ好きです！ほんとに知りたい内容を漏らさず見せていただいて、たいへん勉強になりました。
※	市民公開講座のパネルディスカッションが支離滅裂で残念だった。
※	2年前の分生のパクリみたいでとても内容が薄かった(シンポジウム)
※	ガチ議論など期間中のイブニングセッションの開催は歓迎する。
※	特別企画は全く意味がないと思う。会場代の無駄であると考える。
※	1日だけの参加だったので、特別企画に参加する時間がなかった。
※	創業シンポジウムはアカデミアでは知ることのできない企業様の現状を知ることができてよかった。司会者の方も場を盛り上げるように努力をされていることは良く分かり、内容の理解の助けになった。しかし、今の講演の考え方を1方向に誘導しているように思われた。講演を聞いての質問はそれなりにあったが、誘導された方向性での質問は特になく、結局質問ができないままに終わってしまった。これが企業様での議論の進め方なのであると思う、それもまた勉強にはなった。ただ聴衆は学者であるという前提で、その習性を汲んだ司会というのもまた良かったのではないかと思った。
※	臨床医学研究者の特別公演
※	「ガチ議論」は企画自体は良かったですが、文科省への事前インタビューとほぼ同じ内容で、期待していたほどではありませんでした。研究者側が自分たちの要望を好きなように言っているだけで、建設的な議論になっていなかったと思います。また、大学は教育機関であるという視点からの議論がなかったのが残念でした。
※	参加しませんでした。
※	薬学会ではないのに、創業シンポがある理由がわからない。生化学や分子生物学に関する技術的、あるいは、総合的なシンポジウムにしてほしい。
※	他のイベントとの重複が多く、ほとんど参加できない
※	研究問題について取り上げるのはよいが、臨床研究不正や甲状腺がん多発など、より大きな社会問題について触れないのが奇妙である
※	出なかったので内容にはコメントできないが、あまり遅い時間にやるのはどうかと思う。海外若手招聘は不要。
※	創業シンポジウムは過去の話をしていても知っていることも多く意味がないと考えられる。現在や未来に向けた講演であれば聴きごたえがあると思う。
※	創業シンポジウムは、バランスの良い人選で中身が濃く良かった。研究倫理フォーラムは、オーガナイザーがフロアからの発言を(特に知名度の低い参加者につき)制限したが、脇道にそれる発言もあり仕方がなかった。STAPのみ取り上げて他の大御所の論文不正(△△△△研、□□□部等)は全く触れず偏っていた。専門分野が遠い○○○氏を選んだのは、高い見識をお持ちとはいえ最適な人選だったのか、パネリストの質が残念だった。日本は科学議論で発展途上国だと痛感した。一般国民に向けた情報発信をどのように行えるか、問題意識を大隅氏やオーガナイザーから伺えたのは良かった。
※	市民公開講座は関西勢で占められていたことが気になりました。
※	時間が遅すぎて参加しづらい。
※	高校生の発表参加。中学生と高校生を対象に、学生証の提示により、すべての企画に無料参加できるようにしてもよいと思います。
※	1~7まで欠席してしまいました。申し訳ありません。
※	参加していないので分かりません。
※	ガチ議論やるのはいいが意見を反映させてほしい。
※	よかったわけではない。司会者が結論ありきで進行していた
※	研究倫理フォーラムに参加したが、ディスカッションの焦点が絞り切れておらず、大事なポイントへの時間配分が足りなかったような印象を受けた。進行に改善の余地がかなりあったと思う。
※	海外若手研究者招聘企画(旅費補助)とか必要ないでしょうか？意図が不明
※	市民公開講座の時間帯がもう少し早ければいいなと思った。
※	どれも参加しなかったので評価なし
※	聞きたい企画がほかにもあったが、ポスターセッション終了後では遅すぎる。もっと早い時間帯(昼とか)に企画を入れられないか？
※	ガチ議論に期待しておりましたが、会場の意見が拾われることがほとんどなく、壇上の(特に司会の)方々のちぐはぐな議論に終始しており、極めて残念なものでした。トピック、多様な立場にある分子生物学会の会員、政府側のパネリストなど、面白い議論が出来る素材が十分に揃っているにもかかわらず、司会進行で台無しにしているように感じました。最終的には、ガチ議論の成果(学会としての共通見解)を決めようと動きも阻害され、結局は愚痴を言い合う場になっていたのではないのでしょうか。
※	行きたいのですが、なんだか時間が合わないことが多いので、今年も行くことができませんでした。企業との関わりのフォーラムが有っても良いかも。かつて、ファンディングの立場の方の発表があったけど、そういうのでなく、もっと身近に企業とインタラクトできるようなモノを希望。
※	短い期間に膨大な演題数を詰め込んでいるので致し方ないとは思いますが、他のプログラムと重なってしまい、行きたくても行けないものが多かったです。
※	ガチ議論をウェブ配信で自宅から見ていました。なかなかポスターセッション後に学会にでる人は少ないので、できれば、このような重要な企画は、夜に行うのではなく、日中に行ってほしい。
※	留学のすすめ2015
※	可能であれば、市民公開講座をオンライン観覧ができるようにしてもらいたい。今の時代を考えたら、そういう事があってもよいのではないのでしょうか。
※	心惹かれる企画がなかった。
※	企業研究者の話が聞けて良かった

質問11. BMB2015特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	日本の科学を考える「ガチ議論」。ガチとはなにか。まずはそこからである。何度も記述しているが、大学院生だけに焦点を当てた大会であれば何もあんなに立派な会場を借りる必要はない。ポスター発表中にjazzの演奏などもつものほかである。時代の変化に対応する運営は非常に重要な課題であると思うが、間違った変化の仕方、偏った変化のしかたでは将来的に学会自体の運営を難しくすると思われる。
※	ガチ議論自体は成功したとは思わないが、復活したのはよいことだと思う。
※	不参加でした。
※	参加していない。
※	ガチ議論について。元々そういうコンセプトであるようにも感じられるが、飲み屋の会話で終わりにするのではなく内容をまとめて行動することをして欲しい。わがままな話ではあるが上の先生方には頑張ってほしい。
※	市民公開講座では、一部の演者が一般市民を意識した発表ではなかったのも、とても理解できなかったと思います。実際、市民らしき参加者は少ないようだったので、そう割り切ったの発表だったのかもしれませんが、そうだと公開講座をやる意味があるのか疑問です。
※	ワークショップ、ポスターで目一杯で残念ながら参加する気がなかった。
※	特別企画を見ていないです。時間が早かったら見たいのはあった。
※	「ガチ議論」など、名称が、不真面目な印象を受ける企画がありました。
※	不参加
※	ガチ議論は定例化してください
※	学会主催のランチョンセミナーがよかった。会場側に迷惑をかけるので、21時終了を徹底するか、長引く前提で会場側と打ち合わせをしておくべきだと思った。研究倫理フォーラムやガチ議論により多くの研究者を参加させるため、昼間の時間帯に行くなど、スケジュールは再設定してもよいと思った。研究倫理フォーラムでは、STAP問題に関して、研究者コミュニティー外の、〇〇さんや△△さんの話が聞け、非常に有意義な時間だった。
※	利用者が本当に感謝していた。
※	参加しなかった(参加しようと思うものがなかった)
※	時間を遅くに設定するのは良くないと思った
※	1) 昨年、海外若手研究者招聘企画にお世話になりました。それがきっかけとなり、コラボレーションが生まれたり、今年のワークショップに読んでいただいたりしました。海外から日本へ帰るきっかけを作るのは簡単なことではありません。この企画の存続を強く希望します。2) 昨年のような、「求職中」といったタグの復活を希望します。学会が仕事探しの場として機能しやすい環境を整備していただければ、ポスドク、PI ともに利益を得ることができるのではないのでしょうか。
※	口頭発表の会場が狭く、聴く場所の確保に苦労した。
※	研究倫理フォーラムでは、もう少し進行を考えて進めて欲しかったです。司会者はできるだけ学会の主な方々のことを予習しておいていただければ、もっと進行がスムーズだったのではないのでしょうか？
※	「ガチ議論」は、エキサイティングで良かったです。ただ、アカデミア以外からの出演者が、文科省の2名のみであったのは残念でした。強烈なカウンターパンチもなかったです。議論内容も、一昨年に比較して「おとなしく」まとまってしまった気がします。すぐに答えが得られるような問題でもないですし、このような議論の場を、継続的に設けてほしいと考えます。
※	参加していないので分かりません。
※	都合が合わず参加していない
※	特別企画に参加できなかったため、その様子や内容をインターネット等で公開して欲しい。
※	特別企画には参加しなかった。
※	一昨年のガチ議論と比較して非常に内容が良かったと思います。一昨年では会話のキャッチボールが行われておらず、演者がそれぞれ自身の考えを述べる不毛な時間でした。今年の会議では、〇〇先生の司会がうまくいったと思います。また文部科学省のお二方が話された内容は正論であり、今回の議論に参加されたことは非常に良いことだと思っています。一方で担当されていないテーマの際には、歯切れが悪くなる時もありました。次回もし開催されるのであれば、文科省総出でガチ議論に参加していただき、研究者方や大学側を完膚なきまでに論破していただいた方がいいのではないかと思います。
※	行けなかった
※	ガチ議論はホテルの部屋にてネット中継で視聴したが素晴らしい企画だった。企画された先生方には敬意を表したい。
※	「ガチ議論」は、議論の結果がその後の政策や学会・大学の運営にどう反映したかがわかれば良いのだが。いろいろとフラストレーションが残るが、これまではこのような場が全く無く、ごく一部の『偉い人』と役人などが物事を決めて、しかもその様子が全く現場に伝わらず、一方で現場の声も全く伝えるすべがない、という状況だったことを考えると、続けていきながらより良い会合にできるよう学会としてスタンスを明確にすべきだと思う。
※	研究倫理フォーラムもテーマは良かったが、オーガナイザーの準備不足が目立った。フロアからのコメントが一番良かった。
※	ガチ議論は、無駄な企画。ガス抜きにもならない。我々の学会費を木っ端役人を雇う費用に使わないでほしい。
※	「日本の科学を考える」のは良い企画ですが、『ガチ議論』というネーミングは不真面目で、本当に科学者は本気で考えているのか疑わしく思います。企画名でふざけるのはやめた方が良いでしょう。
※	実際に参加できていないので良くわかりません。
※	ガチ議論が全くガチ議論ではなかった。のらりくらりと話題をそらしてはぐらかす官僚に、パネラーがまともに突っ込まないなら無意味な企画。もう二度とやらない方がいい。
※	参加しなかった

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	企業展示の会場が多く、離れている。2箇所くらいが良い。ポスターも同じことが言える。
※	企業展示会は一カ所にまとめてほしい。バイオテクノロジーセミナーは、事前にネットで予約するシステムとなったこともあり、内容目当てではなく食事目当てで参加する人がさらに増えたのではないと思う。本当に内容を聞きたい人が参加できるシステムにしてほしい。
※	会場が複数箇所あり、一度に回ることができず、大変不便であった。会場配置のセンスを疑う。
※	セレクトショップみたいな本屋があると良い。特価で売るだけでなく。
※	数が少なく、事前予約できなかった。当日は長蛇の列を並ばなければいけなかった。
※	企業数が少なかった。
※	ランチョン形式でない、事前登録型（一部当日参加を可能として）のバイオテクノロジーセミナーを設けて欲しいです。また、ランチョン形式は抽選式で原則事前登録のみとし（定員に満たない場合と当日欠員が出た場合は柔軟に対処）、（選に漏れた人の人数は把握できるので）非ランチョン形式のセミナーを、この場合にも活用することも一つの方法と思います。
※	今回は企業展示場が3か所？に分離していたため、できれば一か所の方がよかった。
※	出展ブースに知り合いがいるあるいは具体的に聞きたいことがある場合は出展ブースに話を聞きにいきやすいが、特に用事がないと展示ブースを見に行くことはない。要旨集に出展ブースにだす企業から、宣伝、アピール、イベント情報などを掲載してもらってはいかがでしょうか？それを読んで興味のあるブースに参加者が足を運ぶチャンスが増えると思います。
※	ランチョンセミナーのネット予約はもっと大きな負荷に耐えられるサーバーを用意できないのであれば、やめるべき。
※	可能であれば、展示会の会場を1つにまとめてほしい。
※	企業ブースがポスター会場のそれぞれに分散していきにくかった。企業自体にも意欲的に売り込む勢いがなかった。
※	会場がバラバラなので見て回るのは大変でした。
※	ランチョンセミナーの総席数が少なすぎます。事前予約は全く取れず、当日長時間並ぶ気にもなりません。
※	たぶん人気は薄くなって、頼まれたり、お付き合いでやっているところが多いのではないかと？商品も面白くないし、一昔前の熱意も感じられない。あるのは、モノ（景品）で顧客情報（個人情報）を集めるものばかり。
※	バイオテクノロジーセミナーに参加したかったが、Webでの登録がすぐにはいづらくなり事前申込みができなかった。以前みたいに、当日の朝にチケット配布が良いと思う。企業展示会は特に問題ないと思う。
※	多すぎてまわりきれなかったが新しい情報を多く手に入れる事ができた
※	場所がわかれていて回りにくい。
※	会場が狭く、立ち席の人がいた会場があった。
※	展示が少ない
※	4ヶ所はややきつかったが、スタンプラリーはおもしろかった。
※	一つの会場にまとめて欲しい。
※	企業から見ても魅力的な年会になるよう、品質向上する年会になってほしい。
※	会場が分散していきにくかったです。
※	セミナーの事前予約が短時間で閉め切られ、当日参加は1時間前から並ばなければならない状況。不愉快で、全く参加しなかった。
※	最終日には無かったので驚きました。
※	ランチョンセミナーが少ない日もあり、相変わらずの殺到ぶりでした。当日券も配布予定時間の前に配布が終わっていたりして混乱していたようです。数年前からこのような混雑が嫌でランチョンセミナーには参加していませんでしたが、今回の状況を見てますます参加したくなくなりました。
※	参加していないので分かりません。
※	会場が分かれすぎている。最終日の展示があってもよかったのでは。
※	ランチョンの弁当の用意が少なすぎる。他学会のように、朝にランチョンの予約システムを導入してほしい。
※	もっと多く
※	企業の展示が減った感じがする
※	会場が分かれすぎ
※	仕方がない部分もあるが、複数会場に分かれていると回りにくく、一か所の会場にまとまっていたほうがよいと感じた。
※	企業展示会場とポスター会場を必ずセットにして4箇所に分散して展示させていたが、逆に見学しづらいと感じた。企業ブースはブースでまとめた方が、ポスターを見ない時間にもまとめて見ることができて、便利であり、企業を探しやすい。他の企業会場まで見に行くのは時間的に無駄が多い。
※	ポスター発表会場の前に企業展示会を置くのはとてもよかったと思う。バイオテクノロジーセミナーの事前予約は非常に評判悪かったので、止めるか、続けるのであればシステムの改変を望みます。
※	”運営費にも関わるのでアンケート調査を書いて下さい”と言ってアンケートを書いてもらっていた企業の方が居られたのが印象に残った。それほど学会の運営は大変な状況なのかと受け取った。正直で最も意見だと思うが、あまりそこは強調しない方がよいと思う。
※	一部の金をかけた企業ブースは非常に不愉快であった。以前は担当者が丁寧に機器やキットの説明をしてくれたが、近年の分子生物学会に参加する担当者は敬語が喋れない連中が多く困惑する。さらに、販促品目当ての学生を意識してかハデなポップを並べてみたりと縁日の様であった。これは学会の企業展示ブースにはふさわしくない。
※	今回は会場に少し活気がなかったように思えた。
※	事前登録がなかなか繋がらなくて苦慮した。当日は楽であった。
※	不参加でした。
※	セミナーの予約が取れず残念 展示は最終日になかったのが想定外で行けずじまいでした
※	WEBにて予約がすぐに埋まってしまったので、ランチョンセミナーの整理券を入手できませんでした。同じ会費の中で、食事がとれるかどうかの格差が生じており、今後、ご検討いただきたいと思います。
※	企業ブースは会場を1か所にした方がよい。

質問12. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（その他）

回答者番号	その他記述
※	少し分散しすぎていて疲れました。
※	バイオテクノロジーセミナーの数が少なかった。参加希望企業が減ったのでしょうか？
※	会場が分かれていたので全体を見るのが難しかった。
※	企業展示の会場が分散していて、わかりにくかった。
※	バイオテクノロジーセミナーは、朝から整理券を配布する仕組みが良いと思います。ネットで事前申込みをするのであれば、事前申込みの枚数などを明示すること、当日配布は朝から行うこと、事前申込みをしたかたが参加しなかった場合には、その日以降の事前申込みを無効にすることなどの対応が必要と思います。
※	もっとあったら良いですが、これも金の問題か？
※	お弁当の数をもう少し増やしてほしい。
※	毎度のことだが、参加者の企業展示会へに関心が高くない。企業にいつか愛想をつかされて、大会が経済的に開催できなくなりかねない。一つの方策は、セッションの 카테고리 を減らし、ポスター会場／展示会場に人が集まるしなげをもうけること。容易ではないが。
※	会場は一方所の方が、いい
※	最終日にもほしかった
※	もう少し展示を周知すべき
※	ランチョンセミナーにされると、興味の無い人がお弁当目当てに来ているだけで、本来情報を必要としている人が排除されてるので止めて欲しい。
※	ランチョンセミナーの事前予約制度はやめてほしい。事前予約開始日はまったくサイトに繋がらず、次の日には満員になっていた。聞きたいセミナーがあったにも関わらず、行く気をなくした。
※	ランチョンセミナーのweb予約はダメだと思った。サイトに全くアクセスできなかった。
※	なぜNBRPの内容が検索できなかったのか？
※	ランチョンセミナーのWeb予約はエラーが多発して利用困難だった。新規技術情報の入手に有効なセミナーであるためか、近年は弁当の有無に無関係に聴講者が殺到するケースが少なからずあるようです。改めて、学会参加予約と同時に希望するセミナーを受講できるような(企業の負担は増やさない条件で)システムを考えられないでしょうか？
※	今回は所要のため参加できなかったため回答不能
※	参加した企業がわがどう感じているのかの調査も行うべき。
※	参加出来なかった。
※	会場の空調がもう少し適切に管理されるとよかった。
※	展示は良かったが、ランチョンのバイオテクノロジーセミナーは、お弁当目的の人が多数並んでいて、入りにくかった。ランチョンの事前予約もあつという間に締め切られてしまい、予約できなかった。これでは事前予約制にしている意味が無い。
※	バイオテクノロジーセミナーの整理券配布方法は、再考すべきと考えます。アクセスが繋がらず、時間ばかりかかり、結局は定員オーバーになるといった時間の無駄をしました。聞きたい人が朝早くに並ぶ・・・といった従来の方法は悪くないと思います。(主催者側は大変かもしれませんが)
※	従来の参加方法の方がよかった。気が付くと、すべてのセッションが一杯で一つも参加できなかった。
※	バイオテクノロジーセミナーとはランチョンセミナーのことでしょうか。そうだとお答えします。内容は良かったと思います。ただ例年に比べてとても参加しにくかったです。まず、WEBでの事前登録がアツという間にいっぱいになりました。当日参加をするためには、延々45分も前から列に並ばねばなりません。次回の改善を望みます。
※	予約開始から1日もたたないうちにすべてのセミナーで予約が完了するとは、事前準備の数が少なすぎです。コンサートのチケット争奪戦でもあるまいし、どうなっているのだ全く！例年、朝一の講演にぎりぎりの時間に行っても、半数程度の会場には空きが有る。主催者は、読みの甘さを厳しく認識してもらいたい。

質問13. 「製薬・創薬面談ブース」について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	参加者等にどんなものなのか説明が欲しかった。何をするとところなのか、どのような人が対象なのか、ブースを訪れたらどのような利点があるのか、不明な部分が多かった。したがって、入りづらい印象を持った。
※	良かったが、もっと多くのブースがあるとさらによかった。
※	不要。応用に本学会が寄っていく必要はない。
※	将来的にあれば利用したいと感じた。
※	どういう目的で利用すればいいか、わからなかった。
※	どちらかというと研究者側からの要請というより、企業側の要請があったのではないかと感じましたので利用していません。
※	この質問を見るまで、このブースがあったこと自体知らなかった。会場が大き過ぎて、全てを把握することができない。個人的には関連がないブースだったので問題ないが。
※	もうすこし宣伝をしたり、入りやすい(相談等を含めて)状態にしないと、近寄りづらい印象をもちました。
※	利用していないので本質はわかりませんが「入りにくい」印象でした。
※	参加していないので分かりません。
※	利用方法がよくわからなかった。
※	どう関わったらよいかわからなかった
※	あまり使われていない気がした。相談者の秘密保持の目的もあるかと思うが、全面囲うのは阻害的に思えた。
※	すばらしい！ ぜひ今後も続けて欲しい。
※	不参加でした。
※	どことは言いませんが、担当者が不在で、ずっと閉まったままのブースがありました。
※	不参加
※	利用していないが、こういう企画には賛同する。
※	宣伝が足りない
※	気がつきませんでした。
※	製薬会社との協議方法について、もう少し簡便性、利便性を考えても良いのではないかと思った。
※	この学会は基礎に徹するべきではないのでしょうか？
※	利用していないが、よいと思う。
※	参加していないので分かりません。
※	利用していないが、今後もつづけるとよいのでは。

質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	会場が狭かった。
※	適切だが、ポスター会場が分散していたのは不便だった。
※	すごいと思います！もっと盛り上げなければ、ですね。
※	神戸では大きすぎる
※	様々な分野があつてよかった
※	大きいとは思いますが、大きすぎるのかどうかは分かりません。これでも同業者全員が参集しているわけではないので、もう少し大きくてもよいのかもしれない。
※	大きすぎる。この規模でやるのならば期間を延ばすべきだし、12月は風邪の流行もあって寒いので時期も考慮すべき。
※	会場次第。神戸は会場が複数あるので不適だと思えます。
※	一つの研究室から似たような研究のポスターを沢山出している、「古臭い手法」が多く見受けられた。出展するポスターの質も問われるべきではないか？学会の場合は、学生の教育の場ではないと考える。無論良い研究であれば、学生でも発表すべきであると思うが。
※	規模はいいかもしれないが、交通の便が悪い気がする
※	少ないと思います。
※	そもそも大学の数が多すぎる。もちろんしょうがないが、日本で学会を開く場合 ヨーロッパ全土の大学の数と日本の大学の数が同じという事実はどう向き合えばよいのか。
※	こういう大きな規模の大会もあって良いと思う。
※	会場のキャパシティは十分だったが、近隣の宿泊施設が不十分だった。
※	多分野の人と交流が出来て良かったが、希望するポスターを見切ることが出来なかった。ここで書くことが適切かは分かりませんが、また、著作権の問題はありますが、期間を定めて、電子的にもポスターを閲覧可能にすると良いと思います。掲載は発表者の任意とし、会場に設営した場所のみで閲覧可能にすれば、著作権の問題も生じにくいのではないのでしょうか。ポスター発表の時間前から閲覧を可能とし、大会期間中閲覧が出来れば良いのですが、せめて発表日当日だけでもして頂けると有難いです。
※	合同はいいが会場間が遠すぎる
※	普段生化学会では聞くことのできない発表も聞くことができた反面、大きすぎたため、興味のあるセッションのバッティングが多かった面もあります。
※	会場が分散していて移動が大変だった。
※	会場および交通の便とのバランスがあまりに悪い。移動時のあまりの混雑に難儀した。
※	大きすぎるともいえるが、BMBは規模こそが存在意義。小さい研究会ならほかにもある。
※	規模は大きすぎるが、たまには楽しくてよいと思う。
※	大きすぎるとは思いますが、もうこういうものだと思ってしまうのも一つだと思います。
※	宿泊施設や会場の収容能力を考えると参加者は少々多めかもしれない。立ち見の会場がかなりあったことは収容能力的に過剰な参加者であったことを裏付ける反面、(座長からではなく)会場から多くの質問があるなど当該研究分野の熱気を感じられるプラスの効果があったと思う。よって、総じて規模的にも成功であったと評価している。
※	大きすぎますが、時には合同開催行うのがよいと思います。
※	人が減った気がする
※	大きすぎますが、それが一堂に会することの意義もあるとおもいます。
※	大きすぎます。年に2回に分けても良いので、テーマを2、3に絞って別途に開催するほうが密な議論ができるのではないのでしょうか。旬な話題に、私を含めた参加者もかなり無意識に集まって、不必要に会場に人があふれるのは、議論が集中されませんし、学会としては決して好ましいものではないと思います。わからないから教えて、的な質問が多かったのには鼻白みしました。
※	規模は大きいですが、数年おきに合同大会を実施する意義はあると考える。
※	毎回だと大きすぎるが、数年に一度ならよい。
※	適切とは思わないが、不可避。
※	大きい会ではあるが、年に1回くらいはこれくらいの規模のものがあつてよい。
※	毎年やるには、この規模は大きすぎて把握できない部分が大部分を占めることになりそう。
※	大きいですが、仕方ないように思われる。
※	大きい分、個人的に興味のある演題が多く非常に充実しましたが、聞きたい演題が同時刻にあり、聞けなくて残念だったというのもありました。
※	会場によっては部屋が狭すぎたので、一定以上の大きさの部屋を確保して欲しい。
※	入りきらない会場があることが気になった。
※	専門家どうしのミーティングという観点では大きすぎるが、専門分野間の交流という観点では適正な規模であろう。
※	大きな学会ですが、さらに他の学会と一緒にやってもよい。学会数が多く、どうしても時間が取られるため、一括で行ってもらうとありがたい。
※	「適正な規模」よりはずっと大きいと思うが、普段接点の少ない分野の人と話ができてとても有意義だった。
※	会場が分散していて移動が大変だった。
※	毎回大きすぎると思うが仕方がないのかなと思うし学生の発表の練習になる。という意味ではレベルが下がる傾向があるのが否めない。
※	同窓会やたまにしか会えない共同研究者と会える良い機会にさせていただいています。
※	参加していないので分かりません。
※	他の学会も巻き込んでもっと大きくすべき
※	会場間の歩行距離が長すぎる。
※	年を追って縮小していないですか？ 対策が必要では？
※	大きすぎる。近場にホテルが取れない。
※	全てに参加することはできない規模だが、この規模に多くの分野の人が集まるからこそ、思わぬ視点の発表に接する機会が得られる。大変だが、この規模を維持してほしい。

質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	生化学会と合同は勘弁して欲しい プログラム等が煩雑すぎ
※	ポートアイランドが会場の場合、この規模のイベントだと交通機関(特にポートライナー)の混雑がひどい。有料(ポートライナーと同程度なら)でも良いのでバスの増発や、開始時間を一般の通勤時間と少しずらすようなことはできないか。
※	合同開催なのでしかたがない。一度に多くの他分野の人と会える利点もある
※	満席だった。適宜、空き部屋をサテライト会場にして映像と音声だけでも流してほしい
※	特に口頭発表の数が多すぎて、会場が細かく分かれすぎておりまた各会場もかなり離れているので、色んな会場に足を運びたいが支障が生じた。今回は天候に恵まれたが、雨が降っていたらより移動が減ってしまうと思う。
※	やや大きすぎる気もするが、varietyがあるところが良い点でもあるので、小さくすることで、そこが損なわれるのであれば、現状規模でもよいと思う。
※	規模が大きいのが良いが、それに伴って会場が複数にまたがり、移動に不便であったことは改善が必要に感じる。
※	大きい、大きいことと雑多なことに意義がある。
※	参加者は多いほどよいとは思いますが、同時進行のセッションの数はもう少し少なくてもよいかもしれません。
※	ワークショップ、一般口頭、ポスターを審査してもっと減らしてもよいのではないかと思います。特に、ワークショップと一般口頭は一緒にしても良い気がします。
※	規模が大きくなるのは仕方が無い
※	トータルでの人数は多いと思うが、結局ある程度自分達の専門分野別に集合してワイワイやっている感じである。
※	想像以上に大規模だったが、分子生物の私が、類似のテーマを生化学の側面から研究する内容をじかに聞けて良かったと思う。
※	大きすぎる気はします。合同開催であればこのスケールになってしまうのは不可避なのですが。生化学会と分子生物学会の連続開催(同じ会場で、2.5+2.5日みたいな)にするぐらいしかしてはならないような気がします(興味のある方だけ通して参加する)
※	年会以外にももう少し小さい、表題を限った学会を始めた方が良くとおもう。
※	参加者数が多いことはかまわないと思うが、シンポジウムやワークショップなどが多すぎて、同時進行になりすぎて、結局ほとんど情報収集ができず勉強にならない。シンポジウムやワークショップをもっと絞った方がよい。
※	大学院の博士課程以上からの参加にすれば十分であると思う。観光気分で来ている学部生や修士の学生が多すぎる。
※	大きすぎるけれど、他の専門毎の学会とは違って分生あるいは生化学会はこの感じというイメージです。しかし、会場が別建物で分かれすぎていて移動に時間がとられる点がもう少し考慮して欲しい。
※	合同の学会にすることに賛成ですが、参加者が増えた場合、それに見合った会場でおこなう必要があると思います。人があふれているワークショップが目立ちました。
※	小さくなってきた感じがする。
※	この会場なら適当 横浜だと狭い
※	もっと増やしても良い
※	小規模な学会と巨大会の役割は異なるので、分子生物学会あるいはBMBは巨大会に求められる役割をこなしていると思います。ただし巨大会の負の側面(得られる情報の薄さなど)も避けられません。
※	大きいけど致し方がない
※	大きな規模だと思いますが、企業展示などそれなりの楽しみ方を見つけています。
※	規模は適当だが、規模に比べてデスクワークスペースが不足していると感じた。(デスクワークスペースをこれ以上増やせないのならば規模をもっと縮小すべきである)
※	大きすぎると思いますが、なんか工夫が必要。
※	わからない
※	会場が分散して利用しにくかった
※	合同である以上、仕方がない。
※	専門分野に限られたシンポジウムなどもいいが、この様な、大規模で色々な分野が一度に集まる学会があってもいいと思う。
※	参加人数がそれぞれ多い2つの学会の大会を合同で行う理由がよく分からない。無駄に巨大になり、会場の移動も容易ではない。
※	参加人数に対する部屋に大きさと座席数が全く合っていなかった 聞きたい発表を聞くために部屋を移動する必要があったが、人が溢れかえっており聞くことができなかった。
※	会場間の距離が遠かった
※	演題数をもう少し絞って時間的・空間的な余裕をもたせられるとよいと思います。
※	大きすぎるが、かといって縮小する必要もない。
※	大規模な学会と小グループの学会を併用しています。本学会は大きな規模の学会として、大変有意義な学会であると思います。
※	会員の総数と参加者の関係、そして非会員で参加した数を比較すべきだと思います。質問が不適切ではないでしょうか。
※	かなり大きな規模であるため、会場の移動に時間がかかったり、ポスターの数が多く、関連する分野の物だけでもまわりきれなかったりと課題が少なくない。しかし、少なくとも数年に一度は合同年會が開催されることを希望します。
※	参加者数は多人数だと思うが、それだけ人が集まるのであるから、その状態で運営していったらよいと思う。
※	少々大きすぎる感があるが、もう一日会期を延ばせばシンポジウム、ワークショップ、口頭発表、ポスターへの参加がしやすい状況となると思う。
※	大きいことでいろいろと問題はあるが、細かい学会が乱立するよりは良いかと思う。
※	参加しなかったのでわかりません。
※	参加者の数のわりには人が少ないように感じた。特にポスター会場。
※	参加者・発表者の研究分野に偏りがあるので、人数だけでは判断できません。神経科学領域は少なすぎる印象です。
※	相変わらず巨大。でもそれが特徴でもあり、お祭りのような巨大な学会が一概に悪いとは言えない。国内の研究者の交流・研究の活発さが象徴されていてよいともいえる。やはり課題は、同時に複数のセッションが聞けないこと。

質問14. 本大会の規模について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	4日間は長すぎる。3日間に入るプログラムが望ましい。4日必要だとしても、初日は午後から、最終日は13時に終わってほしい。
※	不参加に付き、判断しかねます。
※	大きすぎるが、聞きたいものを選ぶこともできる。
※	大きすぎるがやむおえない。
※	この規模で開催するなら、もう1日必要。
※	合同大会程の規模で行うには、ポートアイランドの交通アクセスでは少し厳しいのではないかと思います。
※	会場に人が座りきれず、溢れてしまっていたので、会場をもっと広くする等していただけると助かります。
※	参加していないのでよく分からない
※	行ってないからわからない・・・
※	大きすぎる。ポスターは、全員が二日間ずつ発表できるくらいが良いと思う。
※	規模が大きいが普段触れないテーマがあり意義はある。ただ開催方式(会場)は改善が必要。
※	大きいと思いますが、ある意味広く活発でよかったと思います。

質問15. 本年の開催形式(合同大会)について (その他)

回答者番号	その他記述
※	生化学会にしかないような分野と、遺伝子を主体とした分子生物学の話題をうまく分けた学会に分けたほうが良い。
※	少なくとも生化学会と分子生物学会の両方へ2回出席する必要があるため、合同の方が良い。
※	両学会が合同開催だけでなく合併する方が良く思う
※	生化学会、分子生物学会は、合併するべきだ。派閥意識が邪魔しているのなら、日本の科学のためによくない。
※	何年かに一回は、合同でもよいが、それぞれの学会らしさは残した方がよい。
※	規模が大きすぎて、十分な時間が取れなかったが、討論などは活発になったと思う。
※	たまに合同でするくらいが良い。
※	全ての演題をチェックするには規模が大きすぎる。
※	良かったが、12月は大学的に忙しく(OSCIや博士発表、AMED研究費申請、成果報告)、9月、10月が個人的には望ましい。
※	プログラム編成が非常に悪く、メリットを感じられなかった。
※	ワークショップ等のテーマが豊富だったのは良かったのですが、ポスター発表の演題数が多過ぎて、十分見ることが出来なかったのも、そこら辺が改善(演題数を制限するあるいは討論時間を増やす等)できれば合同大会の意義があるものになってくるのではないかと感じました。
※	合同大会を行うことには賛成であるが、今回の会場は狭いのもう少し広い部屋の確保が必要である。また、神戸の場合は朝の混雑(ポータライナー)がひどすぎる。
※	自分の研究に関して言えば、分子生物学学会との合同開催には意義を感じられない。
※	上で述べた通りです。改善の余地がありますが、大きくしすぎるのがやはり一番の問題ですね。
※	毎回は困る。
※	知識や交流を深める意味では良いが、会場に人が入りきれなくなっていたため、不便な点もあった。
※	合同大会をやることは、視野が広がっていいことだと感じた。毎年合同開催となると、少し大きすぎてしんどいかもしれない。
※	学会による微妙な空気感の違いはあるが、多くの参加者、演題がかぶるので、合同で良いと思う。
※	大きすぎるくらいはあるが、いろいろな分野のことを聞けて良いこともある。合同にするなら日数を長くしてはどうか?
※	早く生化学会と分子生物学会に合併してほしい
※	規模が大きすぎて見逃した演題があった
※	大会の規模よりも中身を重視する方向に転換すべし。そのためには中身を評価する指標が必要。
※	それぞれ1つの大会参加者が多いところの合同開催はメリットよりデメリットが勝る。宿泊施設も不足していた。
※	私は分子生物学会所属だが、生化学会との合同大会であったおかげで、自分にとって手薄な分野、特にchemistry寄りの研究者の意見や助言が多く得られて、とても実のある学会だった。
※	随分前に参加した時に比べて、両学会のバランスが変化したようで、生化学会の良さをもっと活かせるなら、他の学会との合同開催を検討するのも一案かと思う。
※	結局、生化学よりの分野の発表は殆ど聞けなかった。
※	参加していないので分かりません。
※	両方の学会員なので、会費支払いが無駄である。いつそのこと、合併したほうがよい。
※	よかったと思うが少し大きすぎて会場の移動だけで大変。仕方が無いのかもしれませんが。
※	何年かに一度は、よいかも。
※	合同じゃなくていい。
※	Q14と同じく、全てに参加することはできない規模だが、この規模に多くの分野の人が集まるからこそ、思わぬ視点の発表に接する機会が得られる。大変だが、この規模を維持してほしい。
※	分子生物学会の会員としては、生化学会との合同大会にしたメリットは感じられなかった。単に規模が大きくなり、かえって関心のある必要な情報が収集しにくくなったという印象。
※	基本的には毎回今回のような合同でやってほしい。両方参加できるメリットがある。
※	関係者の方は大変ご苦勞様でした。面白い企画が多かったです。
※	昨年度は分子生物学会年会に参加しました。単体でも規模が大きく、今回との違いがあまり感じられませんでした。運営側の事情はわかりませんが、参加者としては毎合同形式でも問題ない(ほとんど変わらない)と感じます。
※	似たpopulationなので、混じったことの意義がわかりにくい。
※	今後も合同か合併して欲しい。
※	分野横断的に研究をみることが出来るのは良いが、大きすぎる。連続開催のほうがよいのでは。
※	大きすぎる気はします。合同開催であればこのスケールになってしまうのは不可避なのですが。生化学会と分子生物学会の連続開催(同じ会場で、2.5+2.5日みたいな)にするくらいしかしてはならないような気がします(興味のある方だけ通して参加する)
※	ポスター会場など大きすぎてfollow仕切れない部分がある。交通手段が満員でアクセスが困難であった。
※	良かった。今後も大きな生命科学系の学会は年1つにしてほしい。
※	繰り返しになりますが、賛成ですが、会場の容量をやや超えており、その点に対する対処がなかったのが残念です。
※	二つの年會に参加する余力はなく、その意味ではありがたいが、一方ではもう少し人数が少なければ、プログラムにも余裕が生まれるのだろうか?とも思われ難いところである。
※	規模が大きすぎるので、参加しづらかった。
※	合同開催支持します。
※	一方のみでは聞けない講演が聞けたが、会場が分散して利用しにくかった
※	学会にかかる総費用を圧縮できるのは良いが、規模が大きすぎて聞きたいセッションが重複していたり、場所が離れているのは改善してほしい。日数をもう一日延ばすことで余裕を持って開催できるのではないか。
※	大きすぎたと思う。
※	分子生物学会は、ポスドクや大学院生にとってもっと発表のチャンスを与えていた学会ではなかったか。今回の合同学会は、その意味では真逆ではなかったか。

質問15. 本年の開催形式(合同大会)について (その他)

回答者 番号	その他記述
※	合同開催は賛成だが規模が大きすぎると思う。
※	両大会とも規模が大きいので、合同ではなく別々に行った方がよいと思う。
※	合同年会というより、2つの年会が入れ子になっているだけ
※	不参加のためノーコメント
※	参加しなかったのでわかりません。
※	行きたかった。。。。
※	4日間をフルに参加できる人はほとんどいないのではないかと思う。分子生物学会単独で3日間の方が良いと思う。
※	分子生物も生化学も源流は同じである。にも拘らず、別々の学会として活動しているほうが不自然。分かれていることで無駄が生じているとしたら、統合する方が両学会員のためになる。
※	今年はやかったが、例年となるとだれてしまうような気がした。合同にすることによって視点が広がることを是とするならば、お互いの学会が基本的には合同学会を開催するが、2-3年に一度はその時代のトピックとなる他学会と合同開催をして活気を増やし、時には自分の学会だけで(良い意味で見つめあうということ)内向きになることも良いように思う。ある程度気心がわかった合同学会によって、高校生招聘や社会を巻き込むような、アピールイベントも催せることは長年共に歩むことによって可能となる良い面と考える。
※	合同大会は普段聞けない様なテーマに触れることが出来ることがメリット。だが大会が大きすぎて会場探し、移動に時間がかかることがデメリット。合同大会を行うなら会場が分散しない様な規模が大きく移動が最小限になる場所で行う方がよいと思う。

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	分子生物学会も生化学会もカバーしている分野はざっくりしているので、いっそのこと合併すればよい。
※	農芸化学系
※	細胞生物学会 発生物学会 遺伝学会 たんぱく質科学会 プロテオーム学会
※	発生物学会、血管生物学会、ウイルス学会、生物工学会、がん学会、日本薬学会
※	アメリカのExperimental Biologyのように一つの大会で多くのことが学べるよう、分子生物学会と生化学会のみではなく、薬理学会や、生理学会も含め、より大きな大会にしていきたい。
※	12月開催であれば日本免疫学会。数百人くらいは生化学会員と重複しているのではないか。免疫学の分子、原子レベルでの理解は今後必要である。
※	農芸化学会
※	数年に1回程度の合同大会でよいと思います。細胞生物学にも興味がありますので、そちらの学会との合同はいかがでしょうか。
※	日本細胞生物学会、日本バイオイメージング学会
※	米国、Experimental Biologyのように、生化学、分子生物学、発生物学、細胞生物学、解剖学などまぜて、好きなセッションに参加出来るのが良い
※	生理学会
※	薬学会・分子生物学会・生化学会・糖尿病学会
※	日本薬学会や農芸化学会もいけるのではないかと？
※	米国がASBMBに既になっていることから上記二学会の合同開催が第一義的に望まれる。しかし、現会員数から見ると分子生物学会の方が圧倒的に多いようなので、生化学会は同じような会員数の学会との合同開催を目指してもよいのかもしれない。具体的には細胞生物学会、タンパク質科学会というように守備範囲は多少違うもののお互いに勉強し合えるような学術的距離の学会が適切であろう。
※	日本癌学会、もしくは日本免疫学会
※	化学会の生態関連物質やバイオテクノロジーの部門
※	分子生物学会と生化学会と一緒にすべき、あるいは常に合同開催とするべきで、別個の開催は成果発表、旅費や時間の無駄である。
※	日本細胞生物学会
※	遺伝学会 人類遺伝学会 細胞生物学会 CellDeath学会
※	細胞生物学会、発生物学会、生物物理学
※	日本進化学会 日本細胞生物学会 日本肥満学会 日本栄養・食糧学会
※	免疫学会、生物工学会
※	日本内分泌学会、日本比較内分泌学会
※	いっそ、生物物理学や遺伝学会などと大合同開催にしては？
※	免疫学会
※	細胞生物学会や発生物学会、内分泌学会など内包されるものがありますが、研究者の多くが国の方針もあって応用面に目が行っていることを鑑みると、医学系の学会と組み合わせるのは利点が多いと思う。
※	合同開催はいろいろな話しが聞けるのはとても良いのですが、ヒトが多すぎて落ち着かない印象。
※	日本免疫学会(近年規模が参加者が減る傾向)。規模に大差がなく、互いの得意分野を活かせるような学会があれば、他学会との合同開催を考えてもいいのではないかと。
※	がん関連学会 JASIS
※	細胞生物学会、RNA学会、蛋白質科学学会、農芸化学学会
※	細胞生物学会、発生物学会など。
※	大きすぎて、広すぎて見るので精いっぱいでした。もう少し小さい学会との合同ではダメですか？ 被ってる人多いのでしょうか。
※	日本細胞生物学会、日本発生物学会、日本免疫学会、日本神経科学学会など。ASBMBとの合同開催も希望します。
※	単独で十分すぎる規模があるので分生のみから見ると合同開催のメリットはないと思います。
※	細胞生物学会、免疫学会(日本語版?)、臨床分野との開催も面白いと思います。
※	農芸化学会。企業が多いです。
※	個人的には免疫学会を希望しますが、他には発生物学会、動物学会、遺伝学会、神経科学学会など。
※	細胞生物学会、生物物理学
※	異分野交流、思わぬシーズ発掘の可能性もあるので分子生物学会と生化学会の合同だけでなく、Q4で挙げた学会と積極的に合同開催してはいかがでしょうか。
※	日本遺伝学会
※	3. 日本細胞生物学会 4. 日本発生物学会 5. 日本癌学会 6. 日本神経科学学会 7. 日本植物生理学会 8. 日本免疫学会 9. 日本遺伝学会 10. 日本生物物理学
※	日本免疫学会
※	別々にやっても、どちらかにしか参加できないので、金額を考えると分子生物学会にならざるを得ない。
※	一度、生理学会、肥満学会、神経科学学会などと合同で学会を運営してもらいたい。彼らの実直でまじめな大会運営を見習って頂きたい。昔のちゃんとした学術討論ができる分子生物学会に戻って頂きたい。
※	単独開催なり合同開催なり、どちらかに統一して欲しい。必ず参加しているコア学会人達にとっては、開催形式がころころ変わっても良いかもしれないが、たまに参加する周辺学会人にとってはわかりにくい。
※	細胞生物学会 プロテオーム学会
※	分子生物学会と遺伝学会。基礎研究に重点をおいた研究会がよい。
※	今回薬理学的な演題も見受けられたので、薬理学会とも合同開催が可能なのではないかと感じました。
※	バイオインフォマティクス学会
※	日本プロテオーム学会

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者 番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	合同学会にするのが日本の生命科学のためとの考えなら、遺伝学会や細胞生物学会など、生化学会以外にも、合同学会を提案することが必須。ただし、どの学会との合同にしても、若手会員(ポスドクや大学院生)に発表の機会を可能な限り与える方針を維持することが前提。若手会員にとって、分子生物学会で口頭発表することを目指してもらえるような、また口頭発表できてよかったと思ってもらえる大会であって欲しい。それが無理なら、合同開催はすべきではない。大会長のご苦勞も増えるばかり。
※	ガチ議論の時に生化学会と分子生物学会が統一してはどうかという点が議論されました。その時申し上げた私の意見は「多数の生命科学関連の学会が科学の進歩に応じて作られる事は必要であるが、米国のフェデレーション(FASEB)のように大小の26学会が合同大会(昔はAtrantic Cityで大きなConvention Hallで行いました)を開くのが最適である。学際的領域のシンポジウムもその際に極めて有用である。というものです。日本にも生物物理学学会はじめ多くの学会があります。ぜひご一考ください。
※	2-3年に一度共同開催スキーするのが良いと思った
※	基礎生命科学分野の学会(日本免疫学会など) 日本病理学会
※	日本細胞生物学会、日本神経科学会、日本遺伝学会
※	日本細胞生物学会、日本免疫学会、日本癌学会、
※	細胞生物学会、発生生物学会
※	細胞生物学会・発生生物学会。もはや両学会のトップは分子生物学会などとも重複している。
※	細胞生物学会
※	合同開催なら、生化学会以外にない。
※	これだけの大きな学会なので、基本的には単独開催が良い。しかし3年~5年に1回位は、適切なテーマ設定のもとでた学会と合同という形もあると思う。発生生物学会、遺伝学会、人類遺伝学会など。
※	日本化学会。今回の発表を見聞きして、特に化学の知識が乏しい方が目立った。化学は生物の基本であるので、化学会(の一部)との連携は必要だ。
※	工学部系(ドライな観点)、臨床系(外科学会など生物医学をよりどころとするならばその中で両極にあると思います) 如何にもかみ合わなさそうな学会と組むことによってお互いが思わぬ視点を広げられるように思います。
※	生物物理学学会
※	日本細胞生物学会、日本癌学会、日本免疫学会、
※	応用研究が主体の生物学系の学会。生物に興味を持つ人が増えているような情報学系の学会。
※	基礎生物系とがん等、臨床系学会

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	会場が広すぎて、移動が大変である
※	分子生物学会と生化学会の合併について真剣に議論すべきと考えます。
※	それぞれの大会の時期を6ヶ月程度空けて参加を増やす。単独開催でそれぞれの会員の相互参加を可能にする。
※	様々な分野を網羅したバイオ系の大会の意義は大いにあると思う
※	日本人メイン(外国人の姿は皆無と言っていいくらい少なかった)の国内学会なので、ポスターや要旨は日本語で十分ではないかと思う、タイトルのみが和文英文併記くらいが十分ではないかと思う。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催がよいが、それは、遺伝子関連など両学会で重複した分野を単独の学会として分離するなど、規模の縮小化、特異化を図るほうがよい。
※	教室としては生化学会の教室で、分子生物学会には毎年出られるわけではない。合同開催と一緒に学会をすると、若い世代の力を感じて刺激になる。毎年は無理でも、時々合同開催してもらえるとよいように思います。
※	合同開催か単独開催なのかどのように決められているか不透明。合同開催なのか単独開催なのか、学会上層部の気まぐれで決めるのではなく、会員の意向を参考にしてほしい。少なくとも私は、定期的な合同開催を希望する(隔年で合同開催など)
※	生化学会と分子生物学会は統一すべきだと思う。
※	合同と単独隔年で良い。日本の基礎生物学者が一堂に会するこの学会は貴重な学会だ。
※	海外からの参加者を増やすため、海外からの参加者は学会員でなくてよいなど特別な配慮が必要のように思う。
※	まずはこの2つの学会が一緒にやることからスタートすべき
※	合同でおこなうのが良いと思うが、規模が大きくなりすぎて会場に人が溢れていました。
※	5年に一度程度合同が良いと思います。ただし、今回の神戸では、移動に時間がかかって、聞きたいものが聞けなかったり、会場が小さすぎて立ち見が多かったりしたので、スケジュールと場所には工夫が欲しいです。
※	毎回分子生物学会と生化学会の合同開催をしてほしい。参加する人がほとんどかぶる学会が近い時期に2回行われるのは参加する方も聞く方も時間が無駄である。
※	日本と韓国だけが依然として二つの学会にわかれています。生化学会は合併にかなり前向きでしたが、分子生物学会が反対だった経緯があります。努力して一つにすべきでしょう。どうしても組織一つにできないのなら、毎年合同開催とすべきです。研究費の無駄遣いです。企業もそのほうが良いでしょう。
※	現在の形式と同様で、数年に一回合同で良いのではないかと。
※	学会自体を合併したほうがよい。
※	単独開催しつつ、定期的に合同開催があるとよい。
※	今までのように2年に一度の合同開催でいいと思います。
※	現在のように時々合同で良いのではないのでしょうか。
※	5年に1回程度の合同開催でよい。
※	分子生物学会と生化学会の発表内容は、ほぼ同じである。時間とコストを節約するために、両学会自体を統合した方がよいのではないのでしょうか。
※	大きすぎるのがやはり一番の問題ですね。
※	毎年ではなく、数年に1回程度の合同開催でよい。
※	数年に一度で良い。
※	盛会だっただけに開催が時期的に遅かったのは惜しい。ポスターの発表が日没になっていた。せめて1ヶ月早くすべき。
※	テーマと参加者が広がるので合同開催を支持します。最近の生化学会単独開催は寂しい感じ。
※	学術年会としては合同開催を支持する。学会として融合するかどうかは別の課題。
※	単独開催の年と、合同開催の年が混じる形で、今のままが良いです。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催の意味が分からない。合同開催を続けるより、単独で存続出来ないなら吸収合併すべきである。
※	合同大会は3年に一度か隔年でも良い。
※	分子生物学の範囲が広がりすぎているからでしょうが、純粋に「分子生物学」を駆使して研究されている演題が減ってきた印象です。
※	3~4年ごとに合同開催がよい
※	合同開催にすると単独開催よりもワークショップの数の制約が厳しくなるように思う。もしそれが嫌なら単独開催にすれば良いが、それはあくまでも開催側の考え方です。合同開催にするなら合同であることによって生まれる効果がわかるようなシンポジウム・ワークショップのあり方を考えて欲しい。
※	何年かに一度は合同大会もいいのでは。毎年である必要はない。
※	合同にする目的とその対策が練られてないように思えた。結果、1+1<2となっている印象。
※	隔年での合同大会が良い
※	内容的には、細胞生物学会や発生生物学会、RNA学会、などいくらでもあると思うが、それぞれの学会は小さい規模だからこそ、良さ、があると思う。その意味では、大きい学会である生化学会なら、合同でもよいのかなと思う。
※	とにかく学会が大きすぎる。4日間でシンポジウムとワークショップ160セッションのうち、8つしか聞けないのは問題である。ポスターは多すぎて見る時間もない。
※	毎回の合同開催は、大会規模が大きくなりすぎる点で問題が出てくるが、合同開催のおかげで縁遠い分野にも触れることができ、楽しめるので、3回に1回くらいのペースでの合同開催が良いと思う。
※	定期的に合同学会をするのがいいと思います。
※	集団としての学会は分生と生化両方あっても良いが、大会の開催は合同にするべき
※	合同開催はプログラムが多くなりすぎて無理です。
※	昼の食事を安価にできる工夫をもう少ししてほしい。
※	合同開催は、色々な話が聴けて悪い事ではないけれども、演題が多すぎる事、宿泊施設が取りにくくなる事、食事が困る等の弊害もあります。一般の方々への配慮を行うのであれば、単独が良いと思います。
※	今回のように、時々合同ですするというのが現実的な気がします。
※	年會が大きすぎてあまりディスカッションにつながる時間がない。

質問16. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	合同開催で参加者と演題数が多いため、輸送や会場の確保に無理が出ていたと思う。運営がうまくいけば合同の方がよいが、合同開催が可能なのは横浜くらいではないか。
※	これまで通り、隔年あるいは3年毎くらいの頻度で合同大会を開催するのがよいと思います。
※	今後とも両学会の合同開催の継続を強く希望します。生化学会単独では盛り上がらないし、分生も生化学会と合同の方が企画にバラエティが出てより良い。
※	合同開催はよいとおもうのですが、その結果、規模が大きくなりすぎてしまっているのではないのでしょうか。
※	シンポジウムやワークショップの一つとして、特定の分野の小さな学会とのコラボというのも面白いのではないかと思います。
※	単独でも共催でも巨大すぎるのに変わりはないのでどちらでもよい。
※	●大きな大会であることに満足せず、学術大会としての品質向上をしなければ、参加する意義は失われていくと思う。●テーマが細分化される現状ではあるが、その分野の総括的な話と最先端の研究情報を同時に得たいからこそ、参加する意味がある。シンポ・ワークショップオーガナイザーの力量が問われる。
※	数年に一度くらいで、合同大会があるとよいと思います
※	数年に一度、あらゆる分野の生物系を一堂に集めた 生物学会があると楽しそう。
※	生化学会は医療や創薬など、応用に近い内容も多くて一部は分子生物学会とは相容れないと思われる。
※	規模が拡大したときの交通手段、宿泊場所等に問題がある。
※	理事会も含めトップがいつも同じようなメンバーであるため、何をやっても代り映えがしない。
※	分子生物学会と生化学会はいっそ合併したらどうか。
※	ポスターに意見表は必要ない。機能していない。
※	分子生物学と生化学の分野の境目がわかりにくくなっているため、合同でもどちらでもよいと思う。規模や予算の問題による。
※	創薬シンポジウムなど特別講演などは聴衆者が満杯で、席が取れず疲れる聴講であった。テーマにより会場の規模には十分に配慮して欲しい。
※	上にも書いたが、参加人数がそれぞれ多い2つの学会の大会を合同で行う理由がよく分からない。無駄に巨大になり、会場の移動も容易ではない。
※	分子生物学と生化学会の違いが僕にはわかりません。いつもどちらか片方を選んでいきます。同時開催が良いのではないのでしょうか。規模については賛否両論ありますが、僕はこの規模のものが存続してもよいと思います。分野横断的な情報収集ができるのが僕にとって大きな利点です。
※	合同にするなら、学会そのものを一つにまとめた方がよいのでは。
※	臨床寄りの学会では基礎研究の情報があまり入ってこないため、基礎分野である分子生物学会との合同開催は有意義になると思われる。分子生物学会としても昨今の研究情勢・科研費獲得状況を考えると臨床応用を踏まえた内容が大きく評価される傾向から臨床・疾患分野の研究内容を取り入れることは有意義であると思われる。臨床系の学会は細分化されている傾向にあるが、病理学会であれば他疾患・多臓器に渡る研究がなされているため合同開催可能と考える。
※	合同年会は数年に1回で良いと思います。分子生物学会と生化学会ではまだコミュニティが大きく違います。
※	分子生物学会と生化学会は、研究対象は大きく重なっているため合同開催も意味はある。しかし、会の規模がおおきすぎ、一方、研究の立脚点が異なるので、やはり、単独開催を考えた方がよい。もし、合同開催を続けるならば、学会の統合を図った方がまし。
※	日本分子生物学会と日本生化学会、もはや合併を考える時期にも来ているのではないのでしょうか。
※	合同開催はあってもよいと思うが、人数が多すぎる。
※	これまでの様にたまに合同大会したら良いと思います。
※	これまで通り、年によって単独開催と共同開催が変わるシステムがよいと思う。
※	いつまでも古しいがらみにとらわれず、本邦の生命科学研究の核として、生化学と分子生物はひとつの組織にまとまるべきである。
※	これまで、分子生物学会と生化学会の各々の単独開催の学会にも参加してきていますが、いずれも特徴があり、楽しんできています。より多様な参加者による活発な討論には、大きい規模の開催は有益であり、広い意味でバイオ関連の参加者が一堂に会することを含め、合同開催の良さもあると思いますが、今回の日程ではタイトすぎたようです。聴講しかかった講演や討論しかかったポスター発表の一部しかアクセスできませんでした。
※	分子生物学会と生化学会を合併すべき。
※	生化学会と分子生物学会というテーマの重複する学会がなぜ別々に存在するのか？国際機関ではIUBMBのようにBiochemとMolecular Biolは統合されている。日本独自のシステムの意義が理解できない。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催がよいが、毎年ではなく何年かごと合同開催がよい。
※	時々合同、ときどき別々の今のスタイルでよいと思います。
※	合同開催が絶対によい。学会は別でもよいが(ただし、個人的には統合されるのを希望しています)、どんどん違いがなくなってきましたし、内容もつまらなくなってきたので、それしか道がないような気がします。
※	領域分けにこだわりすぎて分かりにくい。Webや冊子を見なくてもだいたい分かるようにするだけの方がみな色々なことを勉強できる
※	分生も生化学も、ともに会員が漸減している。合同開催で、ちょうどよい。大学が合同であれば、他の小規模の学会や研究会への参加が時間的にも経済的にも、しやすくなる。
※	生化との合同はもうやらないでほしい。
※	規模が大きくなるため会場等が整う場合に合同にすればよいと思う。

質問17. 会員懇親会の開催について（その他）

回答者番号	その他記述
※	ポスター会場での懇親会
※	合同であれば、学会別でもやった方が良くはないか？
※	ポスターミキサーで良いので、多くの人と呑める機会はあるといいと思った。
※	化学会のChem-Station主催のイブニングミキサーのようなものがあるとよい。飲食物をその場で購入するスタイル。SNSを使って参加予定人数を事前にある程度把握できる。
※	あの規模で行うのは大変なので、小分科会に分かれて、毎日行うなどしてもよかったですか？（会場の確保などあるので、先着順など人数制限を設け、会場はホテルが望ましい）懇親会での研究者同士の交流は、共同研究の相談や就職情報収集をはじめ、とても大事だと考えてますので。
※	参加費をもっと安くできるのではないのでしょうか。また、会場の設定も外国人観光客とバッティングしない都市を積極的に選ぶべきでしょう。ホテルがとれず往生しました。
※	この規模になれば不要です。ポスター会場で十分話がができます。
※	せっかくの参加者同士の交流の機会なので、大規模だと場所と予算に限りがあり難しいと思います。そこで例えば、各ワークショップごとに小じんまりとでもいいので、予算をつけて小規模な懇親会を複数開催することで、分野ごとのコミュニティ活性化につながるのではないかと。
※	テーマを持った懇親会の開催があると良い。たとえば、●Meet the speakers(speakerも参加費を払うことに意味がある) ●女性科学者を中心とする交流会 ●求職中PDと、スタッフ公募中のPIとの交流会 ただし、自由参加型有志の企画として参加費実費を全員から徴収し、学会経費から負担はしない。以上の案はありますが、開催にたどり着くまでの準備は大変で、現実的ではないと思直しました。
※	海外の学会のように、ポスターセッションの時間を延長し、軽食・アルコール類を出す形にするのはダメなのではないでしょうか。
※	会員懇親会は特に必要ではない。そのためのSNSだと思います。
※	懇親会は必要ではないが、かつてのミキサーのように、ポスター会場付近などで気軽に会話できる場所があってもよい。
※	懇親会を開催した方が交流も生まれメリットが大きいです。今回のような参加人数の場合は全体の懇親会を実現させるのは困難に思えます。テーマ毎に分けるなど、分子生物学会・生化学会ならではの工夫が必要だと思います。
※	〇〇さんの大昼食会を経験すると、不満だが、あれは特別の例外。懇親会はなくてよい。
※	若手が輪を広げられる様な会であれば開催すべきですが、どの学会にも言えることですが、偉い先生方の同窓会になっていて、あまり有意義ではない気がします。研究者にはコミュニケーション能力が必要ですが、これが無い方が多いので、現時点では、開催しない方が良いと思います。
※	懇談会という形でなくそれぞれのセッションでしたほうがよい。
※	すばらしい！ 全く必要ないので、ぜひ今後もやめて欲しい。どうせ、一部の年寄りのためだけのものなので、時間もお金もムダになる。だったら、学会らしいちゃんとした企画にもっと時間を使ったほうがよい。懇親会が機能するのは、500人以下ぐらいの小規模な学会だけだと思う。
※	会員懇親会が可能な規模ではないので必要なし。ただし、ソーシャルのセッションを設けても良いのでは。
※	規模が大きいので、懇親会はなくても良いと思います。
※	会員懇親会がどのようなものか知らない。
※	分野別に分かれた懇親会場を設置するが各懇親会場を行き来できるような大懇親会を開いて欲しい。乾杯は各会場のテレビで会長のありがたい言葉を聞きながらするなどする。
※	ポスター、展示会場でミキサーをやれば良い。
※	アンケートを何度とってもなかなか反映されない訳で、予算と時間の無駄。これらの予算も年会費から支払われている訳です。理事や会長の売名行為のためだけの学会なら止めた方が良い。理事会メンバー総入れ替えを提案したい(何年同じメンバーが理事をやっているんです?)。
※	従来通りの懇親会ならしてはいけない。経理的に大会に負担がかかるばかりか、今さらPI間で懇親の場を設ける意味がない。若手会員(ポスドクや大学院生)がPIを囲む懇親会の企画なら、検討の意味があるかも。
※	この大会規模でやるのは意味が無い。ポスター会場が一つでやれる規模になれば、ポスター会場でもミキサーとかはあっても良いと思う。
※	合同であれ、単独であれ学会が大きいので、大抵は、懇親会を開いても一部の人間だけが参加することになると思われる。目的を明確にし、別の機会を設けたらいいと思う。
※	今回のように合同で行った場合、懇親会の開催は不可能であると思うし、必要とも思わない。
※	この規模で会員懇親会をしても、どれほどの意義があるのか末端会員の僕にはわかりません。個別に開催するのはいかがでしょうか？シンポジウムやワークショップごとに懇親会を開催し、演者とオーディエンスの交流を深める機会としてみるなどの工夫があっても良いと思います。
※	分子生物学会は会員懇親会を開かないのが伝統である。しかし主催者など限られたメンバーでの懇親会を開いているという話しが漏れており、不快感を持つ会員も少なからずいる。一方、生化学会は例年、年代、組織、分野を越えた人の交流のために懇親会を開いている。合同開催でも、生化学会主催で懇親会を開いてはどうか。
※	この規模では難しいのでは？
※	ポスター会場が、討論時間後にそのまま、堅苦しくない(経済的な)会員懇親会会場になれば、盛り上がるのでは？
※	以前あった研究者の出会いの場が欲しい
※	ポスター会場はできればまとめて、ビール・おつまみのミキサーをやってほしい
※	Pacificchem のようにポスター会場で飲料とおつまみを出す程度で十分だろうと思います。
※	色々なところにイスやつくえがあって気軽に話せる場所があればよい
※	この規模では難しいのではないかと。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	男女共同参画のランチオンに参加したが、あまりよくなかった。パネリストは勉強不足だし、結局何を主張したいのか判然としなかった。個別の研究者の経験談や愚痴は最低限にして、学会として改善可能・提案可能な内容に絞って議論すべきではないか。
※	ランチオンセミナーの予約制はやめて頂きたい。出張等で予約できない場合不公平である。以前のように、当日配布の方にして頂きたい。
※	会場が広すぎて、いろいろな話が聞けない。
※	一般口演でも会場が狭かった為、会場前に行列ができていた時もあり、聞きたかった口演が聞けませんでした。
※	ランチオンセミナーの事前予約はウェブがパンクしたのかずっと繋がらず、繋がったと思ったら既に満席でがっかりしました。
※	今までの学会の中でも、午前と午後の始まりの時間など、私は地元の開業医ですが、本当にありがたかったです。午前仕事しても、ちゃんと午後のセッションに間に合ったので。ありそうで、なかった時間取りだと思いました。内容も、最高でした。とても勉強になりました。ただただ、感謝申し上げます。神戸市北区 ○○内科 △△△△
※	ランチオンセミナーの事前予約は先着順ではなく抽選制(第3希望までの)にするべき。
※	会場の都合などがあるのは理解できますが、毎年同じ時期に開催できればよいです。学会の規模が大きいのに、発表が流れ作業にならず、しっかり議論する雰囲気がある点で優れた大会であったと思います。運営に関係する方の努力に敬意を表します。
※	本プログラムの最中に、生化学会のプログラムを組み込んだのは、まずかった。なにもない時間帯に行うべきである。
※	今後も是非合同開催を行ってください。
※	ランチオンセミナーの事前予約のシステムが酷かった。アクセスが集中して繋がった頃にはすべて満員で、時間の無駄でした。参加人数を考えると、こうなることが予想されていたと思うが、全く配慮がなくて残念でした。当日も1日だけキャンセル待ちのため会場と並んでみたが、30分以上も待つことになり、貴重な時間をただ待つことに費やされるのはもの凄く苦痛でした。今後もこのような状況であれば、ランチオンセミナーは不要だと思います。
※	名札やランチオンセミナー整理券、プログラム集などが大会よりも早く送っていただけたため、とてもありがたかった。当日、誘導等もしていただき迷うことなく会場移動できた。今回シンポジウムの時間帯が遅く、参加しにくかったので来年以降早めに終えていただけたら幸いです
※	私は一般口頭発表をし、優秀若手発表賞にエントリーしていた。当研究室の教授が私のセッションの座長だったのだが、発表が終わった後に、「発表はとてもよくて優秀発表賞を取れるレベルだったと思うが、座長の研究室の学生が発表賞をとったら周りから見えてよくないから、今回は発表賞から外した」と言われた。このように考える当研究室の教授にも問題があると思うが、優秀若手発表賞にエントリーしている学生の研究室の教授を座長にするのは不公平だと思う。ぜひ改善していただきたい。(ちなみに同じセッションのもう一人の座長の研究室の学生は発表賞をとっていた)
※	合同開催か単独開催なのかどのように決められているか説明が欲しい。2、3年に1回は合同開催にするなど定期的な合同開催を強く望む。
※	ランチオンセミナーの事前予約は絶対反対。当日券は1時間前から並ぶ必要があった。今まで通り朝チケットにするか、事前予約なら部分的な発券をやめて100%事前予約(当時券なし)にすべき(絶対に！)
※	開始時間を見直すべきだと思う。ただでさえ参加者によって公共交通機関が混雑する上に、朝の通勤・通学ラッシュとかが合って、会場に行くだけで疲労困憊だった。ポスター発表に関して、規定時間までに掲示されていないポスターがいくつか見られたが、何か対策を講じてほしい。例えば、時間内に掲示しなかった発表者は、演題取り消しにするなどの厳しい処置を取るべきである。
※	参加費が高い、事前に払いきくい
※	大規模学会にしかできない企画をもっと全面に押し出した方がよいと思います。ここまで大きいとお祭りの雰囲気がありますので、サイエンスの祭りとしてハメをはずすくらい企画があると楽しいですね。
※	一般口頭発表について会場が狭すぎるものがいくつもあった。
※	アプリの改善をお願いします(スマホに慣れてる若い世代にとっては動きがノロすぎて気になります)
※	ランチオンのシステムが不満。周りに店もないので、昼食に困った。
※	ランチオンセミナーのシステムの改善が必要だと思う。ネットでの配布自体はいいと思うが、一定期間解放して抽選にすべきだと思う。その際にアンケートも記入してもらえば当日の手間が省けるのでは。当日券は朝に配布すべき。朝のセッションを聴かずに当日券目当てに並ぶ人が大勢いて大変見苦しい光景だった。(勿論本人たちの問題ではあるが)学会としてセッションを聴かない人が増えるようなシステムを奨励すべきではない。
※	ランチオンセミナーもう少し参加しやすくしてほしいです。事前予約は、先着順ではなく、せめて抽選など。
※	ランチオンセミナーの事前予約を導入したことは良かったが、開始早々からアクセス集中で繋がらなく、ようやくつながっても次の画面に移る際に繋がらなくなるなど、結局、予約が出来なかった。アクセスが集中することは予想できることなので、改善して欲しい。 当日の整理券もかなり早くから行列になっており、残り数がどこかで分かるなどのシステムがあると良いと思います(予算的なことから難しいのかもしれませんが、結局は、お弁当の総数が少なすぎます。まわりに食事が出来るところも限られていましたし)。
※	プログラム(特にシンポジウム)に透明性が感じられなかった。シンポジウムの内容が初めから決まっているのはおかしいと思う。なぜ、アンケート等が事前になかったのであろうか?プログラム委員の傲慢さを感じる。
※	全会場でWiFiが使えるようにして欲しかった。
※	特になし
※	分子生物学会と生化学会は、学会として別でもよいですが、大会は恒常的に合同にしたいです。神戸会場は会場が分散するため、立地がよくありません。開始時間を前倒し、終了時間を後ろ倒し、昼の空き時間をなくせば、同時に開催されるシンポ・ワークショップの数を減らすことができ、その分、多くのシンポ・ワークショップに出席できます。現行では、出席したいシンポ・ワークショップが重なってしまいます。
※	最終日にもポスター発表があるとよかった。聞きたいシンポジウムやワークショップがたくさんあって、ポスターも毎日1400個くらいあったのでかなり疲れしました。
※	共催非常に大変だったと思いますが、全般的にはとても良い運営であったと思います。より良くするために色々試すこのような方向性を支持します。
※	ランチオンセミナーの事前予約のWebシステムが始めの段階で正常にはたらいでなくて非常に困った。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	天井が低い、スクリーンが小さい会場が多かった。立ち見が出るほど満員なのに前に座っている人以外は、スライドが見えなかった。このような会場しかない神戸での開催を今後は避けることを強く要望する。
※	ランチョンの登録システムを変える必要がある。参加企業のみならず参加者にも不満があったと思う。
※	開催時期について、会員の希望をとって検討していただくと参加できるかもしれません。少なくとも私のいる地方の小さな短大では、今回のような12月初旬というのは、参加するのが困難です。
※	ランチョンセミナーの整理券がオンライン事前予約制になったが、あつと言う間にアクセスできなくなり(予定数オーバーになり?)、当日券を入手することになった。が、その当日券も、場所と時間を予告してはつきり通知して配布すればいいのに曖昧なままだったし、数が決まっている当日券を1時間近くも並ばせて12:15の入場開始と共に配布するとは驚きだった。また、予約整理券でいっぱいだったという割には、空席が目立った会場もあった。予約制は止め、従来の当日朝配布という方法に戻した方が、時間を有効に使えと考える。
※	演題取り消しをしていないにも拘らず(?)貼付けていないポスターがかなり認められた。ポスターを貼付けたことを証明するようなシステムが必要では?
※	本学会に限らずよく思うことですが、ポスター訪問のマナー(もっと言えば質疑も)を良くするような啓発が必要だと思えます。特に初めて発表する人や参加する人には指導者が指導すべきかと思えます。例えば一人の人がずっとポスター発表者に質問し続け(発表者の方も問題ですが)他の訪問者が近づけない、知り合いで集まり雑談をする、といった光景がありました。質疑も時間制限を考えないで、遅れが生じて後のプログラムに影響するということもありました。議論に熱心なこと自体はよいのですが、もう少し意識を持っていただければと思います。
※	神戸は交通の便がよくない。
※	運営の御苦労どうも有難うございます。とても有益な情報交換の場となりました。
※	ホテルの会場は平面であり、スクリーンの高さが低いので、画面を全て見るのが困難だった。可能であれば、階段状が高い位置に画面を出せる環境が望ましいと感じた。
※	ランチョンセミナーの事前予約システム及び当日の整理券配布法に非常に不満がある。当日に企業ブースを見て、興味を持ったところがあったとしても、ランチョンセミナーに参加できなかった。以前の方法で特に問題がなかったと思う。元に戻してほしい。
※	今回は、移動距離が長く、混み合うことも多かったため、苦汁の選択ではあるがプログラムを早めに退出し、次のプログラムに参加する事が多かった。プログラムの進行を時間厳守にして頂く事と、プログラム間の時間をもう少しとって欲しい。ランチョンセミナーで終了時刻を過ぎても終わらないものがあった。ランチョンセミナーは退出にただでさえも時間がかかり、早めの退出という手段がとり難いため、特に時間厳守をお願いしたい。
※	学会は「学者の休日」だと思っています、今回は楽しくてしかも勉強になりました、よかったです
※	今回の会場のように、各会場が徒歩圏内であると、大変助かります。
※	ランチョンセミナーの方式について、オンラインでの申し込みはやめてほしい。オンライン解禁当日に用事があり、アクセスできなかったため、不公平と感じました。併用するにしても当日券との割合を考慮してほしいと思います。
※	参加費が高い。
※	今回のランチョンセミナーのやり方は良くなかったと思う。以前の方式の方が良かった。
※	神戸国際会議場はひとつひとつの部屋が小さく、またそれぞれの場所もわかりづらかったため、あまり口演が聴けなかった。ポートアイランドは毎回ホテルを取るのも苦労するし(尼崎に泊まった人もいます)、ポートライナーの混雑にも閉口します。今後はもう少し便利でコンパクトな会場を希望します。
※	プログラム編成が非常に悪い。同じ分野の発表が異なるセッション、異なる日程に分れていた。こういった編成は初めての経験である。申し込まれた要旨から適切に内容を判断する能力が求められていると思います。
※	論文や他の学会で発表した話が多く、参加する意味があるのか疑問に思った。イントロやバックグラウンドは別にして主要なデータは新規のものに限定するべきであるし、学会で聞いた話をまねするような行為も禁止すべきだと思う。
※	もうすでに意見は出ていると思うが、ランチョンセミナーのweb予約システムは今回失敗だったと思う。また、当日券の配布がプレナリー・パイオニアズ・パイオニアズ・パイオニアズ・パイオニアズの時間帯であったことも問題だと思う。プレナリー・パイオニアズ・パイオニアズ・パイオニアズ・パイオニアズを聞かずにランチョンセミナーのチケットのために午前の講演終了前から長蛇の列ができており、なんのために学会に来ているのかと疑問に思った。当日券は例年通り、朝に配布し、他の講演時間に被らないよう運営委員側で配慮すべきと思う。せっかく招待したゲストに失礼なプログラムであり、今後はこういったことがないようにしてもらいたい。
※	物理的に難しいとは思いますが、小さな発表会場の混雑ぶりが改善されると嬉しいです。
※	ワークショップの裏で同テーマの一般演題のトークが有り、演者もどちらも聞きたい場合などがありました。難しいかも知れませんが、ワークショップの内容と近い一般演題は日程がcaぶらないように調節が必要かと思えます。
※	ガチ議論、webでフォローしてました。ガチ議論のような企画をもっとしていかないとダメだと思います。でも、やるなら、もっとガチにやらないとダメだと思います。開会前に登壇者が全員で軽食を囲っているのはおかしいでしょう。本気でやるなら、試合前のボクサー並に闘志をたぎらせないと。内容も不完全燃焼で、議論というかただの会合で感じて、残念でした。次は田原総一朗氏なみに、「あんたの言ってることはおかしい！」と怒れる人に登壇して欲しい。
※	分子生物学会と生化学会の大会は一緒にやるべきだ。生命系の最大規模で集まることに意義はあるし、意見や提言の取りまとめのようなことも行ってほしい。今、科学技術が危機であることがきちんと認識されていれば、学会は分散すべきでないことは自明のハズ。
※	大学院生の参加費をもっと安くして欲しいです。お昼に弁当を配布して口頭発表をするのは詰め過ぎだと思いました。分野が近いワークショップが並立して行われるプログラムは配慮が足りないと思いました。ポスター会場の活気が今年は低いように感じました。ポスター発表の優秀賞を選ぶと良いのではないのでしょうか。質問、コメントの封筒は機能していないと思います。snsのコメント機能で十分だと思います。
※	両学会ともに、解散・再編を検討したほうが良いように感じました。
※	今回の学会は、満足感が低かった。シンポジウム、ワークショップで得られた知識が少なかった。研究者間での議論ができなかった。人が多く集まっただけの印象。
※	プログラムや会場のダイジェスト版のミニ冊子の当日配布が便利であったり、楽しめる企画、細々としたところに気配りが行き届いていた。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	斬新な企画を実践されていてbmb2015にかけ熱意を感じました。他でも言われていると思いますが、ランチョンの事前予約システムには不公平さを感じました。
※	大会側が自前で用意するシンポジウムの数を少なめにして、その分、公募によるWSの数を相対的に多くした運営方針は今後も踏襲していただきたい。また、現在のところ公募WS採択の審査経過的なことは公開されていないが、どのような議論(検討)によって採択・非採択が決定されているかを学会員に説明したり、(科研費のように)非採択とされたWS応募に対しては希望に応じて非採択の理由をfeedbackすることが望ましい。透明性を保つことは学会の健全性を特に若い会員に納得してもらうために重要と考える。
※	合同大会であり、規模が大きすぎると感じた。ワークショップの会場とポスター展示会場が離れていて不便だと感じた。
※	wifiが少ないのは少々つらかったですが、分子生物学会との合同開催はいつも楽しめます。生化学会単独だと物足りなく思うときもあります。
※	内輪で固まったワークショップは必要ない
※	12/3の夜から4日の参加でしたが、楽しかったです。
※	ITシステムの利用は、重い要旨集を持ち歩く必要がなく、重宝した。要旨を読む訳ではないが、いつでも見れるという安心感があり負担軽減になった。
※	会場周辺にはお店が少ないのか、ランチョンセミナーを聴かないと、食堂が混んでいてなかなか取れませんでした。出店もありましたが、もっと増やしてもよかったです。素晴らしい学会でした、ありがとうございます。
※	アプリを使ったプログラム検索などスムーズに行え、会場移動も楽でした。合同大会ということで演題数も会場も多く、運営事務局の方はご苦労なされたと思います。お疲れさまでした。
※	一昨年の神戸の分子生物学会が遊び心があって楽しくて良かった。
※	今回は複数の会場にわかれすぎており、移動が大変であった。講演ごとに別会場であってもなかなか移動できない。また、ランチョンセミナーの事前予約はかなり早々になくなってしまい、不便であった。もう少し数を増やしてほしい。
※	全体的に満足度の高い大会でした。大規模な大会となり、運営もいっそう困難だったと思われそうですが、ありがとうございます。
※	ワークショップの部屋が狭くて(宴会場ルビー)、立ち見の人以外に開放されたドアの外の廊下から聞いている人もいたので、もう少し広い部屋にしてもらいたかった。
※	ワークショップ、一般口頭発表の会場は狭過ぎたようで、多くの会場で立ち見や会場の入り口にあふれ出していた。
※	スマホは携帯しているが、このような状況では、使わない様にしており、もっぱら冊子体とノートPCを用いている。プログラム冊子の編成が悪く、知りたい情報に到達するのに苦労した。これほど不便を感じた記憶は、最近国内海外では珍しい(学会参加歴、1971年より。1990年頃から、国内学会年数回、海外毎年参加)。WIFIアクセスが出来ない場所が多く、展示会場WIFI席でもアクセス出来ない時もあった(Windows7)。会場は足を使い時間いっぱい参加したつもりであるが、フォーカスと熱気が見えず、漫然と慣例としてやっている学会との印象を受けた。日本のバイオ研究が低調化しているのかもしれない。
※	1日目のポスター発表でしたが仕事の関係上、2日目の予備枠に変更してポスター発表を行いました。変更した際に、事務局の方から「プログラムは印刷してしまったので1日目のポスター枠に変更の旨の貼り紙を張ります」と電話でお聞きしましたので安心しておりましたが、貼られておらず、当日無断でポスター発表を休んだかようになっておりました。今回、合同大会という事で事務局の方々のご多忙であったかと思いましたが、非常に残念でしたし、スケジュール登録されていた方々にもご迷惑をかける形になってしまいました。事務局が貼らないなら貼らないで個人で貼ってくださいの旨を伝えてほしかったです。言葉を鵜呑みにした私にも非があるかと思いますが、非常に不満が募る学会でした。
※	会場までの交通手段がポートライナーに限定されるので混雑しすぎて大変である。本会場で開催する場合は臨時バスの運行も検討していただきたい。
※	ランチョンセミナーは、以前のように朝に整理券を配るのがよい
※	会場のWiFiが繋がりがつらかった。休憩スペースや充電スペースが充実していたのが良かったので、次回もこの規模でぜひ継続して頂きたいと思えました。
※	ランチョンセミナーで、当日券を求めて並んで待つのは、時間の無駄です。予約システムをもっと活用すべきです。
※	ランチョンセミナーの弁当は予め予約をとるのであれば枠を大きくしてもらいたかった。あるいは当日朝、整理券を再度配るなど。当日並んで、目の前で弁当がなくなった。前のセッションを最後まで聞いたらそれ以上早く並ぶのは難しかった。弁当のために前のセッションを抜けているような人もいたがそれは本末転倒かと思えます。
※	口演会場のつくりが複雑で非常に分かりにくかった。もっと、通路・ロビーに案内図などの表示を置いてほしい。
※	研究者の退職に伴って高額機器が廃棄されることがあると思いますが、若手で実績が少ないために高額機器が買えない研究者も多いと思います。そこで、学会もしくは関連団体や賛助団体が両者の橋渡しをするシステム、あるいは廃棄機器をプールして希望者に譲渡するシステムを構築することで、科研費の無駄遣いを防ぐとともに、若手にチャンスを与えることが出来ると思いますので、是非ご検討をお願い致します。文科省へのパイプがあるようでしたら、お伝えいただきたく存じます。
※	単独開催(生化学)よりも細かいところまで非常に行き届いていて大変満足した学会だった。ただ立ち見することが多く疲れた。会場前にシンポジウムのタイトルがあるとわかりやすかった。場合によっては議論の時間が足りないことが多かったような気がする。ポスターは奇数>偶数だと、奇数の議論が終わってなくて、偶数がさみしい傾向にあった。もっとよいスタイルはないだろうか。キアゲンのようにお茶スペースと企業紹介がセットになったものは助かるし、勉強にもなる。ランチョンよりもそういう機会を増やした方が企業も喜ぶのではとおもった。
※	開催地は外国人観光客とパッシングしない都市を積極的に選ぶべきでしょう。ホテルの予約がとれず困ったのは私だけではないと思います。
※	ランチョンセミナーの事前予約は忘れてしまうので、大会当日に整理券を配布するなどしても良いと思う。今回の規模では混雑してしまい難しいかもしれないが、
※	ポスターは目を引きました!(〇〇会頭作でしょうか?)
※	WiFiのパスワードなどが会場によって異なっている場合があるにもかかわらず、そのあたりの状況説明がまったく見当たらず、試行錯誤することになりました。結局、大会の案内所でパスワードなどを記した付箋紙を渡されました(ポートピアホテル)。このあたりの案内はきちんとわかるように会場に掲示して頂きたかったです。参加者に時間の無駄を強いることになります。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	プログラム編成は大変だとは思いますが、明らかに参加者の大半が重なるセッションを同じ時間帯に持つてくることは避けていただきたかったです。カリプログラムができた時点で、シンポジウムやWSのオーガナイザーに確認することはできないものでしょうか。
※	ホテルの確保が難しくなっているため、プログラムをもっと早く公開してほしい。教員は全日程参加するので良いが、学生は予算の都合上で一部日程しか参加できないので日程を早期に確定したい。食事できる場所が少なかった。ランチョン以外で提供されているのが、ポスター会場前の屋台だけ？だったが、増やしてほしい。食べるための椅子も少なかった。開催は10月か11月の暖かい季節が良い。会場でコートが邪魔になる。
※	・「Genes to Cell」表紙の掛け軸が、とても綺麗だった。普段はオンラインで論文をみるだけなので、あのように凝ったデザインとは知らなかった。・生化学会と分子生物学会の合同年会は、発表数が多く一度の参加でより多くの情報が得られるので有意義だ。・アプリのお陰でポスターを効率よく見る事ができた。演題数が多いので、Late breaking abstractの方は殆ど見なかった。
※	開催時期を9月にしてほしい(多くの大学が9月は学生の夏期休暇のため講義や実習などの予定がない)。開催時期を12月上旬はやめてほしい(推薦入試や卒論発表などが重なる)
※	整理券を持っていたにもかかわらず、ランチョンのために昼のプログラムを途中で抜ける必要があったのが残念でした。会場が離れており、45ちようどから当日券扱いになってしまうので、、ランチョン整理券とるのにも二時間近くかかり、当日もなんだか本末転倒のような感じになって残念でした。パスワードなど事前の登録が煩雑で、アプリにも必要なのが使いづらい。合同でかなり規模が大きかったため、聞きたいシンポジウムなどが被りすぎていてやはり小規模の学会の方がゆっくり聞けていいと思いました。
※	大会が盛況なのは大変良いことだが、口頭発表の多くの会場で参加者が入りきれず、またそのため、ワークショップ間を移動して興味ある発表を聞くことができない状態であった。適切な部屋の大きさについて検討してもらいたい。また、他の学会でも同様であるが、スライドスクリーンの位置が不適切で、前から3列くらいでないと後ろからは、スクリーンの下半分は見ることができず、大変不満が残った。画面が小さくなくても、上に上げるとか工夫できないだろうか。
※	参加したセッションの進行がずれていた。チェアパーソン、発表者共に時間内に終わるよう練習してくるべき。チェア担当者はもっと予習すべし、特に発表者の名前間違いは失礼である、事前に問い合わせるべき。年配者の発表に見受けられがちだが特別講演あるいは招待講演と錯覚していることがままある。要点を時間内に発表すべき。LSでweb予約参加者と当日参加希望者がもめていた。弁当配布担当者が気の毒だった。どちらか一方に統一すべき。
※	ランチョンの事前予約システムがうまく機能せず、エラーばかりだった。あげくに希望のセミナーはとれなかった。事前予約するなら、対応できるシステムを整備してからにしてもらいたい。今回はよい学会だったが、最大の不満がこれである。
※	4F特設会場は小さすぎて人があふれ、「立ち見」すらできなかったです。
※	私にとって非常に実りある大会となりました。運営、準備に携わった方々に感謝申し上げます。
※	●興味を引く多様な企画ではなく、また、利便性にお金をかけるのではなく、学術大会としての中身の選別と向上について、いま一度考えるべき時期にある。●基礎研究の充実と、すそ野の広い研究、を呼び掛ける年会となってほしい。
※	ランチョンセミナーチケットの事前予約は一瞬で一杯になったようだ。時間に余裕のない教員など、企画側に来て欲しいと思っているであろう層の多くが、実質参加をあきらめた側面がある。私自身、参加したいものの参加をあきらめた。その分、プレナリーレクチャーなどに参加できたので個人的には良かったが。
※	WiFi接続環境は全会場で確保してほしい。最終日もランチョンセミナーの配置希望。
※	なし
※	両学会を別々に行う意味はすでになくなっている事を痛感しました。ぜひ今後、学会の合併も含めた検討を進めて欲しい。
※	無線LANが展示会場でしか使えなかったため、すべての会場で使えるようにしてほしい。特に、SNS等を利用するセッションで使用できなかったため不便であった。ランチョンの配布は以前のようにするか、少なくとも当日配布は朝からの先着で配って欲しい。
※	ポスター最終日の最後は展示の撤収と重なりたいへんあわただしかった。時間に余裕を持たせるべきでだった。あるワークショップでのごとく、講演中に音楽が流れて講演が台無しになった。ホテルのミスであろうが、その際のスタッフの対応も迅速でなく、座長が動いて始めておさまった。スタッフの教育も含めて運営体制に反省すべき重大な問題がある。
※	学生のポスター発表には指導教官が共に立ち会うべきではないかと思う。
※	ポスター発表前のワークショップ、口頭発表の時間設定がぎりぎりだったため、参加できないセッションがありました。会場が分散しているため時間は余裕を持って頂けたらありがたいです。
※	ランチョンセミナー並ぶのは大変
※	一般発表とワークショップの間の時間が短く、一般発表の時間が遅れたため、ワークショップも遅れてしまった。午前のシンポジウムとランチョンセミナーの時間が長過ぎて、スケジュール管理がうまくできていなかった。発表会場に音楽が流れたり、ホテル側の不備が非常に気になった。
※	特にありません。次回は生化学会と分子生物学会で発表会場を振り分けたりすると面白くなるかもしれません。それぞれの学会の特色を出しつつ合同年会とするのも良いでしょう。いろいろな形式がありますからまだまだ試すべきことがあると思います。
※	素晴らしい運営をありがとうございました。
※	生化学会と統一して分子レベルの状態反応から生物学を探究する人が集まる会にすれば良いと思う。
※	口頭発表の会場が狭すぎて、入れないことが多かった。会場をもっと広くしてほしい。
※	バイオテクノロジーセミナー(ランチョンセミナー)のオンライン予約システムに不具合があったのが非常に残念でした。本セミナーへの参加意志が強い方はオンライン予約開始直後に予約をとろうとする方が多いと思いますが、エラーが出て全く予約ができない状態でした。ところが予約開始後数時間経ってから初めて予約手続きを行った方の中には予約が取れた方もいるなど、非常に不公平かつ効率の悪いシステムでした。不幸中の幸いで、当日セミナー開始直前の整理券直接配布では整理券を一部取得することができました。来年以降はオンライン予約システムをもっと正常に機能するように改善するか、従来の直接配布方式に戻るか、あるいはその併用が良いと思います。整理券直接配布の場合は、できれば配布枚数を朝とお昼前の2回に分けて、それぞれ配布するのが良いと思います。
※	以前はホテル奥もポスター会場になっており、移動が非常に大変だったため、今回はポスター会場が一角にまとまっていたのは非常に良かった。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	ランチョンセミナーの事前予約システムは大変良かった。WiFi 利用可能エリアをできるだけ広く取ってほしい。
※	ガチ議論がよかったが、どうも声が届いていないように思う。一度、学校からどの程度のお金が研究室においてきているのか、統計を実施すると興味深い結果がえられるかもしれない。
※	生化学会と分子生物学会の合併について未だに上層部は消極的であることに驚いた。一般の若手会員からすると、時代錯誤と感じる。
※	シンポジウムなどの顔ぶれがいつも同じなので、学生やポスドクにスピーカーを限定したセッションがあったほうが良い。リキテンシュタインやウオーホールを使うなら、日本の芸術家を起用してはどうですか。
※	シンポジウムやワークショップの発表時間が押してしまう場合が多く、次のシンポジウムの初めの講演が聞けないことが多かったので、間の休憩時間をもう少し長めに入れた方が良いかも。初日の開始時間が早く、遠方から来る場合に間に合わないのが、少し遅くしてほしい。
※	最終日(4日)の昼休みに休憩する場所が欲しい。最終日はポスター会場附属の休憩場が無くなっていて、ホテル内のソファもすべて埋まっていたため、居場所を確保するのが大変だった。せめて会場のいくつかを休憩・談話用に空けておいてほしい。
※	ネット環境の向上と、動線の管理は必要かと思います。
※	高校生のポスター発表は良い企画と思った。ワークショップの企画が若手中心で良かったが、討論が今ひとつ活発ではなかった印象がある。
※	ポスター発表にメモを残せるのは良かったが、メモ用紙を入口だけで配るのは不便だと思った。
※	ランチョンセミナーの当日券配布について、事前に告知された時刻よりも前にすでに配布が終了しており、聞きたい講演の開始時刻まで長時間並ぶ必要があった。以前のような朝整理券配布を行うほうが混乱が少なく良いのではないかと思います。
※	学会のサイトからホテルの予約をしたが、喫煙ルームになってしまい、慌てて現地で別のホテルを探したり部屋を動いたりしたので、宿泊先の予約の際には、禁煙・喫煙の別を明示して可能な限り希望に添ってもらえるとありがたい。
※	ガチ議論に参加しました。議論内容がまとまらず、消化不良状態でした。最低でも、予定の時間を厳守するべきだと思います。
※	参加費が高い。
※	最終日のワークショップ時に昼食が配られたのは良かった
※	Q17に関して、分生規模の学会ならば、人数が多すぎて、懇親会場内で興味深かったスピーカーに会える確率が非常に低いからだ。となればただの同窓会になるので、懇親会は必要ない。ポスター+口頭発表は負担も大きいですが、議論もよくできるのが非常に良い。しかし、ポスターのほうを後日やるほうがより深く議論できる。そのために、プレナリーレクチャーやパイオニアーズレクチャー、魅力的なシンポジウム、ワークショップを最終日に固めていくのがいいと思う。
※	会場の割り振りについて。立ち見もできない会場もあったし、ガラガラのところもあった。困難ではなるとは思いますが、聴衆の数の予測をもう少しきちんとやっていただければと思います。
※	学会所属者には、参加不参加にかかわらず、前もってアブストラクトを見れるようにしてもらいたい。学会参加できるか直前までわからず、その時には既にwebでの参加申し込みができず、学会当日にパスワードをもらっても閲覧の時間がない。
※	会場に近い宿泊先が十分確保されておらず、連泊する予約が取れなかった。割高であった。
※	生化学会と分子生物学会は今後とも一つにまとめて開催してほしいです。
※	ランチョンセミナーの形式をうまく考えていかなくてはならない時期かと思う。参加者数とランチョンセミナー数のアンバランスから、セッションに普通に参加していると当日券の配布にも参加出来ないのが、うまく考えて欲しい。
※	会場が分散しすぎていたのがよくなかった。特にポスター会場が4箇所にも分かれていたのはよくなかった。
※	運営お疲れ様でした。
※	4日目(最終日)はポスター・展示会場が閉鎖されていたため、ネットが使えなかった。全日使えるようにしていただけるとありがたい。
※	ランチョンセミナーの事前予約はありがたかったが、当初トラブルが多く、アクセスが大変であった。私はどうにか手に入れることができたが、外でお昼を食べる場所も少ない会場での開催の場合は今後、スムーズにできる対策を望む。
※	午前中のセッションの開始時間をいろいろとずらした方が交通の混雑が緩和できるのではないかと思います。
※	今会場は交通手段が少なくかなりの混雑であった。この点以外は特に不満はなかった。
※	だいたいいつも通りで悪くはなかった。
※	WiFiがポスター会場のみしか使えなかったのが不自由でした。ランチョンセミナー事前予約は中止して欲しい。
※	会場内のWi-Fi スポットを増やしてほしい
※	全ての会場にwifi設備が無かったのがとても不便だった。企業ブースとポスターの配置がとても良かった。発表者が自分のPCで発表できるほうが良い。
※	WiFiが、ポスター会場でしかつかえず、不便、最終日のお弁当配布はスケジュール上、助かるが、その予算をWiFiに回してもらった方が良くと思う。
※	ランチョンのシステムは再考して欲しい。学会の巨大化は弊害が多すぎる。
※	会期は3日まで程が良いと思います。4日は少し長く感じました。また聞きたい講演が、会場がいっぱいで入れないこともあったのが残念でした。
※	予算をかける場所を再考すれば、参加者がよりサイエンスの情報交換や知り合いを増やす場を設けることが可能ではないか。
※	非常に良かった。
※	プログラム編成や、会場の分割等で不十分さが特に目についた気がする。JTBの宿泊予約が poor すぎ。禁煙指定できないとか禁煙リクエストが守られないとかあり得ない。JTBが押さえ替えているせいで一般予約ができなくなっていることが多いのに、リクエストが守られないとかあり得ない。JTB等業者を入れる意味が無い、というかむしろ止めるべき。今はネットで予約できます。
※	最終日にwifiエリアがなかったように思いますが、大変不便でした。
※	ランチョンセミナーの整理券の予約は良かった。ただし、予約開始時間ネットにつながらなかったため、アクセスが集中しても大丈夫のようにシステムを強化してほしい。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	若手の賞の枠を40歳未満まで広げてほしい。
※	毎年少しずつ改善・工夫しているように思うので、今後もそれを続けてほしい。ランチョンセミナーの事前予約制について、事前予約自体はあっても構わないが、アクセスが集中しない工夫をしてほしい。最終日は足りていて良かった。
※	wifiに繋がらない場所も多かったので、wifiありきではなくてアプリ完全独立で成立するようにしてほしい。
※	類似テーマが同時時間帯で重なることをできるだけ避けていただきたい。またどうしても重なる場合には両会場(建物などについて)を近接させて欲しい。例:今大会の1S4と1W20
※	ランチョンのチケットが何時間もサイトに繋がらず取れなかったことがやや不満。合同大会に関しては、分子生物学会員として生化学会に参加できたのが有益だった。
※	ランチョンの予約システムを何とかしてほしい
※	ランチョンセミナーの予約システムは今ひとつでした。結局予約できなかった。
※	ランチョンは必要ない。
※	会場が離れすぎていて不便。ランチョンセミナーをもっと増やしてほしい。午後の部は13時開始にして、終了時館をもっと早めてほしい。そのためにも、昼食のために移動しなくてすむよう、ランチョンセミナーで全員お弁当をもらえるようにしてほしい。仕出し弁当でなく、サンドイッチやおむすび弁当などの軽食とドリンクは紙コップで配布するくらいで十分(そのほうが企業側の負担も軽くてすむと思う)。
※	神戸で行うのは良いが、ポートライナーの価格が高すぎる！とにかく高すぎる！あんなに大勢の会員が利用し、売りに貢献するのだから会員は期間限定で割引制度を作ってもらえないのでしょうか？ポートライナーが安ければ神戸で良いのに。学生にとってもきついです。
※	お疲れ様でした。
※	ポスターセッション中から受付の片付けが始まり、セッション終了数分後には出入り口が施錠され始めていました。ポスターを回収しに向かったら勝手に撤去されていたとの声も聞こえました。実質強制的に追い出された参加者は駅に向かいホームはパンク状態。電車で満員で地元の方々も乗車出来ず、気の毒に感じました。会場と運営側の事情もお察ししますが、もう少し余裕のあるスケジュールを次年度から期待しています。
※	ランチョンセミナーは応募券を当日朝に配布する以前の方式で問題ないと思う。ネットでの予約が混み合うため、希望のランチョンを予約することができなかった。もしくは当日券の配布は朝に行きたく。ランチョンの配布券をとるためにわざわざ昼に待つのは予定がたてずらい。第26、27会場の場所が分かりにくい。(建物に入ってから場所がどこか分かりにくかった) 昼休みをもう少し長くするといいい。プレナリーレクチャーとランチョンが時間ぎりぎり、次の会場への移動時間が足りない。ランチョンに出ない人も長めの食事をとったり、ポスターをじっくり見れるから、昼休みを少し長くするのは問題ないと思う。
※	会場までは、ラッシュ時の通勤・通学客とも重なり電車が少しずつ遅延する等の迷惑もかかっていたかと思えます。開始時刻の9時をずらす等の対策が必要であると思えます。また、どの発表会場も全体的に椅子が不足していた様子なので、多めに用意するか、パイプ椅子を適宜使用するようになるほうがいいかもしれません。
※	お疲れ様でした。ためになる学会をありがとうございました。
※	会場内のWiFiが繋がりにくかった
※	ご意見のポケットはとても良いアイデアでした。ネットで書き込めるけど、全員がネットに慣れてないので。
※	会場の割り振りをもう少しうまくやってほしかった。会場からあふれていて聞けないセッションが複数あったので、難しいとは思いますがマイスケジュールの数などを参考に会場の変更などをして、収まるようにしてほしい。
※	高校生の発表スペースが狭すぎる上、総会スペースとの隣りあわせは可哀そうでした。
※	行き帰りに電車が混んでいたため、三宮-会場間でシャトルバス等が出ていればよかったです。
※	会場近くにお店が少ないので昼食などがやや困難でした。神戸行きの有料シャトルバスを朝夕に(特に夕方)に設定してもらえるとありがたいです。
※	ポスター会場外でもネットに接続できるようにしてほしい。ポスター会場でも、時間によっては混みすぎるせいか、Webにアクセスできないことがかなりあったのは大変困る。
※	ワークショップでの収容人数が少なすぎて立ち見をしないといけなことが多々ありました。とてもきつかったです。
※	神戸の会場は昼食を摂るお店が少なすぎ 餓死するかと思いました
※	スタッフの対応、移動中、作業中の言動が良いとは言えなかった(騒がしい、遅い)
※	商工会議所は場所が離れているだけでなく、案内表示も不明確で不便である。多くの会場があふれればかりに人が入っているのに対し、商工会議所でのセッションはどれも人が少なかったことから、その不便さ、分かりにくさがわかる。今後、あの施設は使うべきではなく、トーク希望者が多いのであれば、当否選択して、メイン会場のみで行う形式をとるべきである。
※	最終日、特に午後は参加者が激減しており、興味深い発表がたくさんあったのですが、一般講演、ワークショップなどの演者に申し訳ないくらいでした。一般口頭発表で発表された方も、前日にポスターで発表が終わっていますので、いかにもはぐれを引いたという感じでした。最終日はポスターもなく、企業展示もなく、おまけの日、途中で帰ってもよい日、という感じになってしまっています。4日目はなくして、会期を3日にし、3日目の夜までびっちりポスター発表などのプログラムを入れて、(場合によっては、3日目の夜に全体懇親会を入れてもよいかもしれません)、遠方から参加されている人は、4日目の朝に帰途に就くという、日程にしてほしいです。
※	三宮までの交通(ポートレール)にももう少し工夫があると良かったのではないと思う。例えば会場までのシャトルバスを運行する等。
※	各分野のオーバービュートーク、レビュートークという枠を新設してほしい
※	合同開催は特別な事情がない限りやるべきではないとも思います。会場が混みすぎて入れない所も幾つかありましたし、プログラムが複雑でゆっくりみれません。参加者の立場に立って執行部はご判断ください。
※	やはり会場が分かれているのは大変だと感じた。ポスター会場さえ4会場もあると回るのも億劫になった。
※	WiFiがなく、大変不便でした。とくに地下の会場は携帯の電波も入らず、困るので、優先順位を高くするよう検討してほしい。夜ゼミ機能がなくなったのはやはり良くなかったと思います。4日目の口頭発表など運営に問題がある箇所があったと思うので、今後改善してほしい。オンライン版のみにして紙媒体を減らし、コストダウンさせる余地はあるはずなのに、ポスター発表の茶封筒などむしろ逆の流れでがっかりしました。神戸と横浜以外に地方の特色が出せる場所での開催を検討してほしい。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	殆ど注目されていない分野に果敢にチャレンジを続けていたり、全く新しい発想で何か尖ったことをコツコツと積み上げてきている研究者に、毎年スポットライトを順番に当てていってあげて欲しい。完成された有名な分野に若い人をリクルートするよりも、未開拓分野に興味を持って若い人に参加してもらって新規分野を活性化させることが今の日本の科学には必要だと思う。
※	英語での口頭発表は不満足なものが多かったです。無理に英語にしなくてもと言いたくなる演者が多かった。そういうセッションに限って外国人も少なかったように思う。日本は多いケースですが「英語が望ましい」というスタンスを見直すべき。英語教育はほかでもできる。
※	会場が点在していて、聞きたいセッションが時間的に隣接している場合は、移動が大変だった。単独開催で密に日数を短くしたほうがよいと思った。合同開催は、数年に1度にして海外のシンポジストを増やしたらよいと思った。開催に当たり、子供預かりサービスや屋台がでていたのはとてもよかったと思う。
※	ランチョンセミナーの開始が遅い。無駄に開始が遅く、時間が短い。
※	近年、学術集会は、参加人数の関係上、大都市大施設が多いです。政府の地方創生といううたい文句から、やはり、地方での開催も重要かと思えます。ぜひ、地方都市での開催の検討をお願いいたします。
※	日本中の分子生物学者を一度に同じ場所に集めなければいけない必要があるとは思えません。機関誌をもっと活用してopinionとかdiscussionを掲載するようにして風通しの良い組織になって欲しい。science/nature/cellを始め、皆やっていることです。
※	企業との相談ブースができていたのは、とてもよかった。製薬に限定せず、もっと増やして欲しい。あるいは、自由に使える面談室を、企業ブースの横に、もっとたくさん作って欲しい(オープンスペースでは相談できないから)。
※	神戸でやる際は朝と夕方のみバスを運行したらよいかと思えます。
※	あまりにも最近の分子生物学会は学部や修士の学生に媚びる(彼らが参加したくなる)大会運営に嫌悪感を感じる。分子生物学会は2000年以降、学部や修士の学生の発表のデビュー戦になってしまっている。日本を代表する分子生物学会にはもっとハイクラスな討論や最近のトピックスについて意見を交換する場が必要である。若い世代だけでは限界もあるし、シニアの誰かが若い世代をしっかりと導き、日本の科学技術向上の手助けをする必要があると感じる。さらに、企業ブースでは派手な展示や催しを禁止し、「遊びにくる学会」ではなく「勉強する、研究者としてステップアップする学会」にする必要があると感じる。
※	一昨年と同様、面白い試みが多かったと思う。学会は保守的であってほしくないの、昨年よりもよい大会だった。来年以降もこの方向性を継続してほしい。
※	神戸は会場が分散していて使いにくい。とくに、基調講演のメインホールが遠くて場所の案内がわかりにくかった。とてもお世話になりました。
※	会場内どこでもWiFiが使えるととてもよい。
※	規模が大きいので、これまでに踏襲されてきたやり方で何ら問題ないと思います。
※	何も言うことはないけれど、ただランチョンセミナーのWeb事前予約だけはやめてほしい。
※	会場が狭い、入りきらない部屋がおおすぎた
※	合同大会自体は良いと思うのですが、その分、各会場の部屋を大きくしてもらわないと、入りきれない会場が多々あった。そのため、セッション途中で別の部屋に移動して聴講することが出来ない状況であった。
※	ポスター討論の時間と総会の時間が被ったことに非常に大きな不満(憤り)を感じている。特定非営利活動促進法の表決権の平等に照らしても問題のある日程だったと思う。
※	極端に狭い会場があった(神戸国際会議場18会場など)。最終日はそこでお弁当を配られる中でのセッションだったので、かなり質問しにくい環境だった。
※	幅広い分野にわたり、いろいろな話が聞けるので、非常に良い学会だと思います。参加者が多いので、部屋の外でも視聴できる、またインターネットでも視聴できるというのが理想です。
※	ランチョンセミナーのやり方を考えた方がよい。事前予約制度はすぐになくなり、当日券も長蛇の列になり、そして券がなくても会場に並べばそれなりの人数が入れて(入れないときは時間の無駄)、あまり効率が良くない
※	今後とも両学会の合同開催の継続を強く希望します。生化学会単独では盛り上がりがないし、分生も生化学会と合同の方が企画にバラエティが出てより良い。なにより、学会参加の労力が一回ですむのがよい。
※	人が多すぎてポートライナーの混み具合がひどかった。合同学会のためか人数が多すぎて個人的には好ましくない。ランチョンセミナーの整理券の配布の事前予約も回線の混雑のためかログインできないまますぐに埋まってしまった。参加人数と予約整理券の数がかげ離れている。口頭発表の会場がホテルだったり会議場だったりするのはとても不便だった。
※	シンポジウムやワークショップに関しては、(特に神戸開催の場合)移動のし易さ、場所のわかりやすさに関して、部屋の当たり外れが大きく、ワークショップ企画者としては不満が残った。
※	大会規模は適当と思うが、ポスター会場と企業ブースは1カ所に集約できるような会場を用意した方がよいと思う。
※	ぜひ来年も参加したいです。
※	参加人数規模に対し、ランチョンセミナーが少なすぎる
※	学会の規模に対して理事のメンバーが固定されすぎているように感じます。学会としての魅力を失いつつあるように思います。
※	ネットがつながりにくいのは問題。関連分野のプログラムの重複が多すぎた。poster会場が分散しすぎで、プログラム編成に問題を感じた。
※	ランチョンの事前予約はシステムがパンクしてアクセスできなかったの、次回以降も行う場合システムを改良して下さい。午後の口頭発表セッションを2つに分け会場数を減らした方が多くの発表を聞けるためありがたいです。
※	ランチョンセミナーの予約を当日の朝にしてほしい。
※	●学術年会のあり方として、発表内容を精査し選抜する時期に来ているのではないか。会場数を限定することで、必然的にテーマを絞るなど、工夫が必要。海外では、小グループで2年ごとの開催でもテーマにフォーカスして、意味のある議論が出来る学会がある。●年々、アカデミアの財政的な厳しさも増す中、キャリアパス以前の問題として、「基礎研究の重要性」を提唱する試みも大会として行って欲しい。今後の研究環境のあり方の根幹にかかわる、大きな問題であると認識している。
※	丁寧な運営がなされていたと感じる。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	神戸国際会議場は周囲に昼食、休憩の出来るスペースが少ないため、会場の一部にそれらを賄う出店・休憩スペースを設営すると良いと思った。
※	WEBにて予約がすぐに埋まってしまったので、ランチオンセミナーの整理券を入手できませんでした。同じ会費の中で、食事がとれるかどうかの格差が生じており、今後、ご検討いただきたいと思います。
※	以前あったジャズセッションやアートコーナーは癒し、気分転換の意味もあり大変良かったと思うのだが。
※	たまには神戸・横浜以外の場所でも行っていただけると嬉しいです。
※	宿泊場所の問題はあるが、地方でやってほしいと思う。沖縄なら可能ではないか。魂胆が見えてしまっているが。
※	合同とは言えど4日間は長過ぎる
※	デザインがいいです。大きな学会だからできることを、やってくださっているとします。こんなに大人数で、混乱なくできるのがすごいです。講演より、質問しやすいポスター発表の方が好きなので、ポスター発表だけだと安いということに驚きました。企業ブースも好きです。資料をもらおうと荷物が重くなってしまうので、気をつけている。
※	全会場でfree-wifiが使用可能にするべき。魅力的なフォーラムが複数あったが、開催時間が夕食と重なり参加が難しい。
※	1万人規模の大会では神戸はホテル(研究費での出張費で宿泊できるホテル)が少な過ぎる。合同大会にするなら東京、大阪、横浜にすべき。
※	このところ毎回工夫をされていて、主催される方には感謝します。
※	ランチオンセミナーの事前予約制については、従来通りの方法に戻してほしい。
※	ランチオンセミナーの券の配布は、考えてほしい。よく行われている、朝配布する形式がいいように思います。お腹がすくため、チケットはほしいが、今回の配布方法では、チケットを入手するため、聞きたい発表をあきらめている人もかなりいたようです。また、昼食食べるため、ランチオンをあきらめた人もかなりいました。朝早くから来た人から選べるのが、公平に思いました。
※	・神戸会場は広くてよい。毎年神戸でよい。・会期4日間は長すぎる。疲れる。
※	1万人の参加者を集められる学会は、そんなに多くは無い。このマンパワーを科学行政にも反映できるよう、何かができるはずと思っています。
※	ランチオンセミナー事前予約が受付開始すぐにアクセス多くてつながらないまま、すべて埋まってしまった。抽選制に変更するべきだと思います。
※	分子生物学会の執行部は特定の大学や研究所に偏り過ぎる。生化学会のように支部形式をとり、地方の意見も聞けるようにしたほうが良い。ただし、東京や大阪は、東京とそれ以外の関東、大阪とそれ以外の近畿等と別にしたほうが良い。
※	大会参加の事前登録は毎年行っている。今年はランチオンセミナーのオンライン事前予約システムが取り入れられたが、ログインを試みるも、ログインできた時にはもう予約枠いっぱいまで予約できなかった。
※	食事する場所をアプリがプログラム集で少し載せておいてもらえるとありがたいかも。
※	食事を無償提供して頂いているのに、意見を述べるのはどうかとも思いますが、ランチオンセミナーの事前登録が2日目には登録できない状況になっていた。ランチオンセミナーの事前登録があったにも関わらず、当日券の配布で長蛇の列、長時間並ばされると言うのは如何なものでしょうか？
※	テーマの振り分けは参加者の負担が大きくなるのでやめてほしい
※	神戸で開催するとポートライナーが混雑してげんなりする。
※	以前、学会時は会員間を「ちゃん」付けで呼び合おうなどというメールが会長から送られてきて、会員に対してこの件についての謝罪がないなど、生化学会という組織自体が、大会を軽視しているように思えます。
※	ランチオンセミナーのキャンセル待ちで45分も待たされるのは時間の無駄です。以前の朝の配布に戻すか、全員、ランチオン直前にするか、してほしいです。オーラル発表会場で、パソコンでメモを取っている人はいて、うるさかったです。スライドを直すだけならまだしも、ずっとキーボードの音が耳障りでした。注意喚起して頂きたいです。
※	神戸での開催時はいつも思うのですが、口頭発表で使用する部屋のスクリーン位置が低いので、前列の人の頭と重なってしまい非常に見にくかったです。せめてイスをずらして並べる等の工夫があればよいかもしれないと思いました。
※	テーマが良く似ているセッション(例えばHippoのワークショップと一般口頭のHippoの講演)を開催している場所が遠く、移動に時間がかかり、聴きたい発表に間に合わないことがあった。似ているものに関しては、近くにしてほしい。
※	ランチオンセミナーの事前予約については、大いに不満が残った。いっそのこと、ランチの配布とセミナーを分離した方がよいだろう。ランチは参加者全員に配布してはどうだろうか。
※	ランチオンセミナーの当日整理券の配布時間を1日目と2日目で勝手に変更されて困った。両日とも1時間も並んだ。変更するなら掲示やアプリ等で知らせてほしい。
※	ランチオンセミナー整理券、事前予約こそ枚数制限を少なくして、当日分の割合を増やしてもらいたい。
※	同じ分野のセッションがかぶっているのは少し残念でした。コーヒーマシーンはありがたかったです。ポスター会場の空調がきになりました。こもっている感じで暑かったです。
※	講演演題を英文でも記載するようにしないと外国人参加者はつらい
※	これだけ多くの方々がそれぞれの分野で働き研究にはげみそれを広くうけて大会運営をされたみなさんの労力に感謝します、自身の勉学に課していきたく思います。
※	最終日のお弁当配布について、もう少しつこく各セッションの部屋ごとに宣伝をした方が良かった。良い企画であったのに、残ってしまったようで残念。
※	捏造問題はスルーですか？
※	4日目はポスター発表がなかったので、Wifiが使えず不便でした。Wifi環境をもう少し整えて欲しいです。
※	ポスターセッションの時間を早めて欲しい。昼頃へ。
※	4日目はポスター・企業展示会場を閉鎖したために、無線LANの環境がなくなってしまうました。ポスター発表が終わったとはいえ、WEBサイトやアプリの使用が前提となっている以上、ホテルや国際会議場のロビーで使えるように配慮頂ければ幸いです。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	規模が大きすぎたので、やむ得ないと思いますが、発表をききたい演題をセレクションした場合、会場間を移動するのが、非常に大変でした。会場間の移動のために、断念したものもありました。会場間の距離があまりにも広すぎるので、参加者人数を増やすことを目的にするよりも(合同開催をするのではなく)、単独開催の方が良いと感じました。会場間の移動についても、検討の余地が、大いにあると、強く感じました。(会場の規模、参加人数によるので、やむ得ない事情とは思いますが、やはり、かなり不便です。)
※	学会は研究内容に関して、普段接するコミュニティ以外の研究者と議論を交わすことができ、研究を発展させるいい機会だと思う。加えて、研究・雇用環境に関して、普段抱えている問題を共有し、改善の余地を探ることができる場でもあると考える。そのため、そういった内容のシンポジウム等を増やしたほうがよいと思った。
※	プログラムがA5で、とても使いやすかったし、持ち歩きに便利だった。ネームカードがプラスチックに紐だったが、十分だと思う。他の学会のようにストラップを付けても学会が終われば捨てる意外にないので。余計な鞆やチラシのセットなどの供給がなくて、よかった。ともかく、抄録とネームカードだけあれば、学会参加は十分だと思う。それを実現した学会だった。他の学会でも同じようになっていくことを望む。
※	高校生の発表はなかなか良かった。ポスター会場に隣接して参加者がコーヒーを飲むスペースなど人通りが多いところにするのが良いと思う。今年の場所はQiagenがその役割をしてくれた感もあるがよかったと思う。
※	大会運営に当たられた皆様に感謝申し上げます。
※	シンポジウムやワークショップの会場で座れないところが多かった。ランチョンセミナーが少なかった。11時半から14時までプログラムが少な過ぎた。(三宮まで昼食に行くにはポートライナーが混んでいて運賃も高かった)
※	情報収集のために発表を聞きに行ったが、大会参加費が高すぎる。交通費などが必要になるにも関わらず、大会参加費6500円は非常に高い。
※	ここ数年の運営努力にはとても頭が下がる思いです。ありがとうございます。昔の分子生物学会に比べて、学会としての横のつながりや情報共有の強化を実感します。規模の大きさに伴うプログラムの複雑さをウェブシステムやアプリでカバーしたり、学会としての問題意識の共有(ガチ議論、キャリアパスなど)を促すイベントなど、素晴らしい試みばかりだと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。
※	今回無線LANがホテル、会議場では使えず、使用する場合は展示場に行く他はなかった。4日目は結局webもアプリも使い勝手が非常に悪くなった。会場となっている主だった場所では無線LANを設置してほしい。
※	全会場でWifi環境が使えることが望ましい
※	優秀発表賞に関して、「20代だけ(あるいは30代の大学院在籍者)」を対象にされたのは、如何なものかと思いました。どの年代の研究者も一生懸命研究をしており、花開く時期はそれぞれの環境や分野で違います。少なくとも、同じカテゴリー(例えば一般口演)の演題であれば、発表者の老若男女を問わず、全ての演題に対して等しく受賞のチャンスが与えられるべきであると思います。演題登録の時に、20代かどうかを確認してきたり、一般口頭発表の発表者で「年齢:2015年12月1日時点で31歳以上」を選択した人を対象に、後日「【BMB2015】若手優秀賞 対象者についてのご確認」というタイトルのメール配信がなされたりしたことは、あまり気持ちの良いものではありませんでした。日本分子生物学会においては、キャリアパス委員会という委員会も存在しており、いろいろな応募のチャンスにおける厳しい年齢制限の弊害も認識されていると聞いていただけに、このようなことが年会で行われたのは非常に残念でした。
※	会場が狭く、外まで人が溢れていたため、聞きたい講演を聴くことが出来なかったということが複数回ありました(具体的には第17会場、18会場など)。一般講演の会場でも席数を増やすなどの対応が必要だったと感じます。また、第23、25会場が離れていたため、移動に時間を要しました。今回は生化学会との合同開催ということで非常に多くの分野の研究者の方の講演を聴くことが出来、充実した時間を過ごすことができました。またこのような機会があることを楽しみにしております。ありがとうございます。
※	ポスドク問題など若手研究者の雇用状況が、さらに悪化していると感じます。学会として、企業への就職を大々的にサポートするような企画があると良いと思います(研究者向けの企業説明会とか、研究者が企業で働くことについての講演とか)。学会がアカデミアと企業の架け橋になっていく時代だと思います。
※	本当にお疲れ様でした。運営は大変だったと思います。
※	ランチョンセミナーの整理券は当日配布のみにした方がよいと思う。ある意味で平等のつもりかもしれないが、Web上であつという間に配布分が埋まってしまう、一度も利用できなかった。
※	組織委員会で、合同でやっている意味(目的)が見出せていない。
※	口頭発表の会場を広くしてほしい。立ち見が多すぎた
※	ガチ議論、よい企画だと思いますので何らかの形で続けてください。
※	一般参加者にとっては大きな問題も感じられず(これがいちばん大事なんだけど、けっこう難しい)、円滑に運営されていると感じました。どうもありがとうございました。
※	LBAですが、各ポスターの分野を分けて1ヶ所に集めてしまうのではなく、あらかじめ一般演題のポスターを設置する場所の各分野にLBA用の場所も確保しておく方が望ましいと思います。分野の離れた違う会場にポスターを出しても専門としている人が集まらず議論にはなりません。
※	近年の過度な英語化指向が抑制されていたのが良かった。国際化の程度は今回くらいでちょうど良いと思う。特にプログラム集の演題表記についての日本語優先が好ましい。学術範囲が広い学会のため、分野外の発表演題も多く、それらをスクリーニングするのに役だった。
※	ポスター発表終了時間後、預けていた荷物を受け取る際に長蛇の列ができていました。受け取りに時間がかからないよう、配慮いただければ幸いです。
※	いろいろと難しいが、たいへんご尽力をなされていると思う。お疲れさまでした。
※	4日目のお昼にお弁当が出るのを知らなかったの、とまどったが嬉しかった。
※	研究発表だけではなく、「教育的配慮に富んだ」エキスパートによる総説セミナーを行い、学会員全体のレベルを引き上げるような企画を増やして欲しい。地方大学や弱小私立大学の場合、なかなか著名人の講演を聴く機会がないので、本学会のような大規模学会では、世界中からより多くのゲストを招いて講演を行って欲しい。
※	ランチョンセミナーの事前予約制はやめてほしい。アクセスが集中したせいか、全然つながらなかった。
※	会場までのアクセスの問題がありますが、特に問題がないと思います。むしろ完璧に近いのではと思います。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	合同大会になると人数や会場の規模など運営面でご苦労があると思いますが、おおむねよかったと思います。プログラム冊子が持ち歩きやすかったこと、ランチョンセミナーを予約制にされたこと、市民講座や高校生の発表を加えるなど、新しい試みもよかったと思います。
※	自身の研究とは全く関係のないと思われるセッションでも、参加して話を聞いていると「なるほど!」「試してみよう!」と思える内容があったりして、研究全般の発展に貢献していると思う。あとは、そのような横のつながりを支援できるシステムができると、科学全般の進展には良いのかなと思う。
※	お世話様でした。次期課題は、研究職を一生ものと考えてよいか、そのための戦略は、をお願いします。
※	ランチセミナーの当日チケット配布システムが分かりにくかった。
※	若い人の視野を広げる意味でも、日本の他学会や、海外の研究者のしかも中堅どころの招聘を望む
※	参加人数が多すぎて、講演会場の座席を確保するのが困難だった。立ち見では集中できないし、人がいっぱいだと聞きたかった講演を諦めたものがいくつもある。会場が広すぎて、次のセッションに移動する間に会場が満員になってしまったり、その点は不満が残った。
※	実施会場の問題(宿泊・交通機関)も勘案して、あまり巨大な集会としない方がメリットが多いと思った。12月(師走)の開催は、参加が困難な場合が多いので、秋口にあるのが望ましい。
※	ランチョンセミナーの当日券は指定の12:15前に行ってもなかったですね。不満です。
※	ランチョンセミナーの予約システムで、セミナー選択画面の後は継続してサーバーに接続するようにしてほしい。何度も元に戻りまた初めからとなり、非常に使いにくかった。
※	会場が広く同じ時間帯に複数の会場に興味のあるものがあったとしても聞きにくいことが難しい。午前と午後間の時間(11:30-14:00)が長く、時間を持て余した。
※	分子生物学会だけでも大きな学会なのに、生化学会と合同開催にするメリットがよくわからない。
※	ランチョンセミナーの事前整理券を持っていない場合に、12時15分に並ばせる意味が分からない。プレナリーレクチャーが聴けなかった。
※	全体の発表の中で、3日目午前のワークショップ「オモロイ生き物」の内容は非常に興奮しました。もちろんこれまで通りの内容も大事ですが、来年もこのようなワークショップが開かれることを期待しています。
※	ランチョンセミナーの予約のシステムの要改善をお願いします。接続エラーで弾かれ続け、結局予約できず悲しかったです。
※	昔に比べると学会が大きくなりすぎて、内容も希薄、今ひとつである。もう少し研究分野に分けて、サテライトの学会をやった方がよいのではないか。
※	ランチョンセミナーのチケットは朝に配布してほしい。お昼並ぶ時間をもったいないし、直前のセッションを聞いていると間に合わない。
※	ランチョンセミナーの予約がひどいなんてもんじゃなかった。事前に予約できるのは評価するが、早起きしてランチョンのチケットをとる労力は報われるべきであると思う。また、事後にチケットを郵送するのは資金の無駄では。PDFにしてもってこい or 所属等を各企業に提供して企業がメールを印刷してもってこい、などのことはできるかと思う。また、今回、アメリカンコミック的なイラストを使っていたが著作権的に大丈夫なのか。著作権料の支払いに学会参加費が当てられているならば非常に無駄である。今回、みないろいろ意見を寄せると思うが、ぜひ内容を公開していただきたい。(できれば回答も)
※	未来志向の素晴らしい会合でした。特にITシステムとガチ討論は高く評価しています。次年度以降も続けて頂きたいと思います。
※	合同開催の可否でなく、開催場所に対する規模の問題で、大きすぎる学会の運営は、トラブルが多くなるように感じます。実際に、私事です、宿泊(個人的に通常利用しているホテルも4か月前に手続きを行ったにもかかわらず、禁煙室が確保できず;学会関係の業者が押さえたため?)の手配も困難でした。ポートライナーの混雑も凄まじかったです(早めに会場に向かうようにしましたが)し、新幹線の指定券を得るのも大変でした。
※	ワークショップなどの一部の発表では、その発表内容はすでに論文になっているものばかりであり、またプレゼンテーション自体のレベルが低く、手を抜いているようにしか見えなかった。CellやNatureのエディターにでも来てもらえれば、未発表のデータをもっと真面目にトークするのではないかと?一部のシニアな研究者(教授クラス)は、会場に来ている若い人への手本になっていないと感じられた。もっと緊張感のある学会にして欲しい。
※	セッションによっては会場が狭く入ることすらできないものがあった。
※	会場が狭い部屋があった。人が溢れて見れない講演があったのが残念。
※	10年ぶりくらいに参加しましたが、低調な感じでした。以前の分子生物学会は遺伝子操作マウスなどを用いて個体レベルの現象を分子レベルで理解しようとする気概にあふれた印象を持っています。今回は細胞レベルでの事象についての解析がほとんどであると感じました。実際、7月に行われた神経科学学会で発表された大御所の先生方にはほとんどお目にかかりませんでした。現状が続くようだと大学院生時代から二十年以上在籍した分子生物学会から数年後には退会するとおもいます。
※	日本生化学会奨励賞受賞講演にも質問のチャンスが欲しい。講演終了後の質問、コメントで、「素晴らしい発表をありがとうございました」とか、本質に関わらない前置きをやめるよう、会員を教育できないものか?質疑応答の時間は短く、予定通りプログラムを進めるためにも、無意味な発言はやめさせてほしい。このような発言者はよほど自分がこの道の権威で「ほめてつかわすぞ」という気分なのだろうか?最初に座長が注意喚起すればよい。
※	合同開催を維持してほしい
※	生化学会の電子化システムの使い勝手が悪く、学会への親近感が薄れています。
※	知の生産者から知の消費者となれる、とても良い学会でした。事務局の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございます。
※	特別講演が終わってランチョンに行ったら整理券が無効になっていた。さすがに勘弁してほしかった。
※	ランチョンセミナーの予約がネットだったためなかなか繋がらず、繋がった時には既に定員に達していた。他の方法を考えた方がよろしいかと思えます。会場はコンパクトなようですが、端から端まで移動するのは結構時間を要します。もう少し案内表示を大きく、数を増やした方がよいと思いました。
※	ポスター会場が数カ所に分けられていたので、移動する手間がかかるので一カ所に集積して欲しい。

質問18. その他、大会運営全般についてのご意見

回答者 番号	意見記述
※	ランチョンセミナーの事前予約をやるのであれば、100%予約で出して欲しい。部分的に予約で残りは当日の会場前に並ぶのは時間の無駄(公演中に並ばなければいけなかった)。
※	ランチョンセミナーの事前申し込みが一遍になったからかもしれないが、なかなか繋がらず、本当に困った。もっと良いシステムを考えてほしい。
※	連日終了時間が遅く、参加に苦勞するので、早く終わる日も作って欲しい。
※	・このページのタイトルが「日本分子生物学会・年会アンケート」となっているのは、生化学会のみにも所属している方への配慮が欠けているように感じられるので、BMB2015に修正されたほうがよいと思います(私自身は、両方の学会に所属しているため、別段不快とは思いませんが、生化学会から届いたメールに記載されていたリンクからアンケートのページを表示したので、違和感をおぼえました)・インターネット経由で、その場で聴衆にアンケートをとるタイプのシンポジウムなのに、wi-fiが設置されていない部屋で実施される、という、部屋割りの不備がみられたので、来年以降は改善を期待します
※	生化学会会長が、3月末に学会員にメールを送り、学会で「ちゃん付け」をするよう呼びかけていました。少し学会に対して軽く見ているように思います。結局エイプリルフールのつもりだったようですが、メールでの説明や謝罪連絡もなく、結局よく分かりません。平素より、学会に対して、真摯に取り組む姿勢を示していただきたいと願います。
※	よい大会であったと思います。
※	大会運営とはあまり関係ないかもしれないが、私立大学の薬学部にも属しており、12月の学内行事(OSCE)に向けた、実習担当のため、最近の年会に参加したいが参加できない状況が続いている。研究と教育の両立ができると良い。
※	口頭発表のあとでポスター発表がくるような流れが好ましい。口頭発表で関心を持った演題をより詳しくディスカッションできるから。今回逆の演題が多く、もったいないと思う。
※	ランチョンセミナーを従来の朝に整理券を配る方式に戻してほしい。
※	今年の大会は、近年では最もよかった学会ではないでしょうか。このような感じでずっと続けてもらえたらなと思いました。
※	企業の展示ブースやランチョンセミナーは、最新技術の情報を手に入れるために、非常に重要だと思います。ランチョンセミナーの数が減りつつあるのは仕方がないことだと思いますが、研究者が最新技術の情報をランチョンセミナーで手に入れている(たとえお弁当に惹かれて参加したとしても)ということ、そして、その情報が、購入する機器類や試薬を決めるのに大きく影響していることを、もっと研究者側から企業へとアピールした方がよいかと思いました。
※	分子生物学会としても生化学会としても、充実していたと思う。今後もこのような形をできるだけ取ってほしい。
※	海外からの招聘に使っている分の予算を、日本人の学生の参加費補助に充てるとか、参加費を下げるとか、別の使い方をすべきでしょう。シンポジウムの英語発表も無意味ではないでしょうか。それがあれば、海外からの参加者が増えるとはとても思えないし、そんなものを国際化とは言わない。「発表が日本語であったとしても、ぜひ参加したい」と海外の研究者が思うような大会にしていくこそ、真の国際化である。
※	昨今の宿泊費の高騰により、組織内の支払い上限を超えるようなことができた。神戸はまだ良かったが、他学会で京都開催があったが通常5000円のような宿でさえ、15000円を超えるような金額設定もあり、今後の開催地の選定には「学会場から30分程度で10000円以内で泊まれるような環境」を是非考慮していただきたい。
※	ポスター発表最終日(12月3日)に、ポスター発表の終了後、企業ブースやポスター会場の後片付けを始めるのが早すぎると思います。発表者であるにも関わらず、ポスターは大会関係者に撤去され、会場から追い出される状況で、とても不満に感じました。以後、このようなことが起きないことを希望します。
※	毎年は難しくても、2年に1度でも良いので、同時開催を強く支持します。同じような内容の学会に何度も出されるのは、研究者にとって時間の無駄使いです。学会の理念が違ふと仰る先生もいますが、現実的な問題として、「分子・生化学を別々に開催している時に、同じ演者の先生が、同じような内容で、ワークショップやシンポジウムやポスターで発表」しています。分子・生化学が別々に開催された時の、2つのプログラムを並べてみれば、一目瞭然です。
※	今大会は合同で規模が大きい上、会場が散在していたため会場移動が大変だった。会場案内の表示が少なく小さかったので一日目は聞きたい演題の会場を探して迷っているうちに目的の演題が終了してしまうことが頻発。会場が散在するなら案内板を増やしたり、遠くから見てわかるよう大きくする等が必要と感じた。規模が大きい場合もっとまとまって出来る会場で行う方がよい。ITで会場案内を見ても建物案内と会場案内が別なので見難い。建物から建物内にリンクして表示するくらい出来ると思うが。WiFiはもう少し広い範囲で使えたほうがよいと思う。内容的には満足だった。